

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界		担当者	木戸裕子・轟義昭・土肥克己				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では、3人の教員がイギリス、日本、中国の3カ国を中心に、時間を越え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらおう。各国の文学作品について考える。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（プリント資料配付）</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』</p> <p>第2回 イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』</p> <p>第3回 イギリス文学：J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第4回 イギリス文学：E.ブロンテ『嵐が丘』（1）</p> <p>第5回 イギリス文学：E.ブロンテ『嵐が丘』（2）</p> <p>第6回 日本文学：紫式部と『紫式部日記』</p> <p>第7回 日本文学：清少納言と『枕草子』</p> <p>第8回 日本文学：赤染衛門と『赤染衛門集』</p> <p>第9回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（1）</p> <p>第10回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（2）</p> <p>第11回 中国の文学：三国志の魅力（1）</p> <p>第12回 中国の文学：三国志の魅力（2）</p> <p>第13回 中国の文学：三国志の魅力（3）</p> <p>第14回 中国の文学：三国志の魅力（4）</p> <p>第15回 中国の文学：日本での三国志</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可）							
成績評価の方法	期末レポートの提出（70点）、および講義に関する毎回の意見・感想等（30点）で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くこととなります。							
実務経験について	なし							

(注) 文学科を除く

(注) 受講者が50人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本の歴史		担当者	梶尾 達哉				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。</p> <p>【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。</p> <p>【到達目標】日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 騎馬民族征服説（1） 日本史を学ぶ意義何か</p> <p>第2回 騎馬民族征服説（2） 日本の国家はいつ成立したか</p> <p>第3回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（1） 銘文発見の経緯</p> <p>第4回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（2） 銘文の釈読</p> <p>第5回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（3） 銘文発見の歴史学的意義</p> <p>第6回 古代の罪と罰（1） 平城宮跡から出た墨書土器</p> <p>第7回 古代の罪と罰（2） 日本律の科刑軽減</p> <p>第8回 古代の罪と罰（3） 贈答と賄賂</p> <p>第9回 中世の悪口 罵倒のことはに見る中世社会</p> <p>第10回 絵巻を読む（1） 絵巻とは何か</p> <p>第11回 絵巻を読む（2） 描かれた中世の人びとのしぐさ</p> <p>第12回 絵巻を読む（3） 女性の一人旅</p> <p>第13回 古文書を読む（1） 正倉院文書の残された休暇願・借用書</p> <p>第14回 古文書を読む（2） 戦国時代の古文書</p> <p>第15回 古文書を読む（3） 江戸時代の離縁状</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。 復習：配布プリント・ノートを参照しながら、授業内容を見返す							
成績評価の方法	筆記試験（100%）							
実務経験について	983年より鹿児島大学法文学部において日本史担当教員として勤務。							

授業科目	こころの科学	担当者	安部 幸志
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	選択
		〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎事プリントによる資料を配布する。</p> <p>(2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会、2015年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門ー心理学はこんなに面白い』有斐閣、2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学とは：科学としての心理学</p> <p>第3回 こころの進化：動物にもこころはあるか</p> <p>第4回 こころの発達：赤ちゃんの心理</p> <p>第5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理</p> <p>第6回 こころの発達：中年期と女性の心理</p> <p>第7回 こころの発達：老年期の心理</p> <p>第8回 性格：血液型と認知バイアス</p> <p>第9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か、感覚・知覚</p> <p>第10回 感覚・知覚</p> <p>第11回 記憶の不思議</p> <p>第12回 災害と心理</p> <p>第13回 社会と心理</p> <p>第14回 心理療法</p> <p>第15回 ストレス</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)		
実務経験について			

授業科目	芸術論	担当者	北 一浩
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		〔必修/選択〕	選択
		〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート(造形芸術)を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる</p> <p>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代アートとは？ 西洋美術史、現代アート、ルネサンス</p> <p>第3回 伝統と違うから興味ない？ アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、</p> <p>第4回 美しいとは思えないのだけれど？ パブロ・ピカソ、アピニヨンの娘たち</p> <p>第5回 何が描いてあるかわからない ワシリー・カンディンスキー、コンポジションIV</p> <p>第6回 上手だとは思えないのだけれど？ エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン</p> <p>第7回 これがアートといえるの？ マルセル・デュシャン、泉</p> <p>第8回 そんなに値打ちがあるものなの？ ピエト・モンドリアン、コンポジションIII</p> <p>第9回 わかったような、わからないような ルネ・マグリット、光の帝国</p> <p>第10回 何なのか、意味がわからない マーク・ロスコ、無題</p> <p>第11回 アートとアートでないものの違いって？ アンディー・ウォーホール、ブリロボックス</p> <p>第12回 許せる？許せない？ リチャード・セラ、傾いた狐</p> <p>第13回 きれいなのに汚い？ アンドレス・セラノ、ピス・クライスト</p> <p>第14回 名作はあなたが見つかるもの 菅亮平、an actor</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート (60%) 講義内で行うワーク (40%)		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。		

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																													
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位																																													
			〔必修/選択〕	選択																																													
			〔授業形態〕	講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原則を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原則を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト	(1) プリント																																																
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法 (令和6年度版)』、有斐閣																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>憲法概論</td><td>・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>基本権総論</td><td>・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>幸福追求権</td><td>・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>精神的自由権(1)</td><td>・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>精神的自由権(2)</td><td>・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>精神的自由権(3)</td><td>・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>経済的自由権</td><td>・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>受益権</td><td>・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>社会権(1)</td><td>・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>社会権(2)</td><td>・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>国会(1)</td><td>・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>国会(2)</td><td>・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>内閣</td><td>・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>裁判所</td><td>・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>財政</td><td>・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td></tr> </table>				第 1 回	憲法概論	・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第 2 回	基本権総論	・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第 3 回	幸福追求権	・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第 4 回	精神的自由権(1)	・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第 5 回	精神的自由権(2)	・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第 6 回	精神的自由権(3)	・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第 7 回	経済的自由権	・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第 8 回	受益権	・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第 9 回	社会権(1)	・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第 10 回	社会権(2)	・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第 11 回	国会(1)	・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第 12 回	国会(2)	・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第 13 回	内閣	・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第 14 回	裁判所	・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第 15 回	財政	・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第 1 回	憲法概論	・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																															
第 2 回	基本権総論	・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																															
第 3 回	幸福追求権	・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																															
第 4 回	精神的自由権(1)	・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																															
第 5 回	精神的自由権(2)	・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																															
第 6 回	精神的自由権(3)	・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																															
第 7 回	経済的自由権	・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																															
第 8 回	受益権	・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																															
第 9 回	社会権(1)	・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																															
第 10 回	社会権(2)	・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																															
第 11 回	国会(1)	・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																															
第 12 回	国会(2)	・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																															
第 13 回	内閣	・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																															
第 14 回	裁判所	・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																															
第 15 回	財政	・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																
実務経験について	なし																																																

授業科目	法学		担当者	藤野 博行																														
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	基本的にいつでも対応します。																														
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位																														
			〔必修/選択〕	選択																														
			〔授業形態〕	講義方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】法の基本を学び、論理的思考力を身につけるための基礎力を涵養します。</p> <p>【概要】法学は「常識と正しいバランス感覚をふまえて、論理的に物事を考えて課題解決する力」を身につけるための学問です。そこで本科目では、身の回りで起こりうる課題について、解決に必要な法的知識を学んだのち、皆さんの「常識」と「バランス感覚」を頼りにグループで考えることにより、社会に出た時に必要な「課題解決力」の基礎を身につけます。</p> <p>【到達目標】①法学に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>																																	
(1)テキスト	(1) なし (資料を配付します)																																	
(2)参考文献	(2) 伊藤真『法学入門』日本評論社 (2022年) 1760円 ISBN-13:978-4535527157																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>講義を進めるにあたって</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義①～</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義②～</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義③～</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>前半のまとめ</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>後半のまとめ・期末テストに向けて</td></tr> </table>				第 1 回	講義を進めるにあたって	第 2 回	知識注入パート～法学入門講義①～	第 3 回	知識注入パート～法学入門講義②～	第 4 回	知識注入パート～法学入門講義③～	第 5 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～	第 6 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～	第 7 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～	第 8 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～	第 9 回	前半のまとめ	第 10 回	前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。	第 11 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)	第 12 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)	第 13 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～	第 14 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～	第 15 回	後半のまとめ・期末テストに向けて
第 1 回	講義を進めるにあたって																																	
第 2 回	知識注入パート～法学入門講義①～																																	
第 3 回	知識注入パート～法学入門講義②～																																	
第 4 回	知識注入パート～法学入門講義③～																																	
第 5 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～																																	
第 6 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～																																	
第 7 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～																																	
第 8 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～																																	
第 9 回	前半のまとめ																																	
第 10 回	前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。																																	
第 11 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)																																	
第 12 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)																																	
第 13 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～																																	
第 14 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～																																	
第 15 回	後半のまとめ・期末テストに向けて																																	
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。																																	
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末レポート (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。																																	
実務経験について	なし																																	

授業科目	社会学	担当者	元橋 利恵
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学入門—ジェンダー、家族、労働問題から考える。</p> <p>【概要】ジェンダー、家族、労働、ケアなど様々なテーマを通して、後期近代社会を生きる私たちが直面している、構造的な諸問題について考えていく。現在「あたりまえ」とされているような社会的規範（働き方、性別分業、コミュニケーション様式など）を相対化し、誰もが生きやすい社会を構想するために社会学の基礎を学んでいく。</p> <p>【到達目標】社会学の基礎的な考え方、概念、タームを学び、自ら複雑な社会問題について自身で情報を収集し、また、データを読み解き、分析的に考える力を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業内で指示、配布する。</p> <p>(2) 永田夏来、松木洋人編著 (2017)『入門家族社会学』新泉社、笹川あゆみ編著 (2017)『ジェンダーとわたし』</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション ジェンダー、セクシュアリティをめぐる「ふつう」</p> <p>第 2 回 日本における近代家族の成立と発展 (1) 近代家族の登場</p> <p>第 3 回 日本における近代家族の成立と発展 (2) 大衆化</p> <p>第 4 回 雇用とジェンダー (1) 女性の雇用の変遷 雇用機会均等法</p> <p>第 5 回 雇用とジェンダー (2) 非正規化</p> <p>第 6 回 雇用とジェンダー (3) 家事労働、ケア労働</p> <p>第 7 回 性差別の歴史と抵抗運動 (1) フェミニズムとは</p> <p>第 8 回 性差別の歴史と抵抗運動 (2) 第二波フェミニズム、現代のフェミニズム</p> <p>第 9 回 同性愛差別の歴史と運動史 (1)</p> <p>第 10 回 同性愛差別の歴史と運動史 (2)</p> <p>第 11 回 政治とジェンダー</p> <p>第 12 回 身体健康、性と社会</p> <p>第 13 回 性暴力の「神話」</p> <p>第 14 回 男性学とは—マジョリティと差別問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業内で指定するテキストを読み、講義のあと復習すること。		
成績評価の方法	毎回のミニ課題 40%、最終レポート 60%		
実務経験について	なし		

授業科目	生活と経済	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の見方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか (第2~3回)。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ (第4~6回)。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ (第7~10回)。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ (第11~14回)。</p> <p>【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 人間社会と経済の発展</p> <p>第 3 回 戦後日本の経済発展と現在</p> <p>第 4 回 生産と消費 (1) ものづくり</p> <p>第 5 回 生産と消費 (2) サービス</p> <p>第 6 回 生産と消費 (3) 社会的存在としての企業</p> <p>第 7 回 労働と賃金 (1) 働くということ</p> <p>第 8 回 労働と賃金 (2) 働きすぎの日本社会</p> <p>第 9 回 労働と賃金 (3) 失業、不安定就労、貧困問題</p> <p>第 10 回 労働と賃金 (4) 人間らしい労働への取り組み</p> <p>第 11 回 税と社会保障 (1) 日本における税負担の構造</p> <p>第 12 回 税と社会保障 (2) 税制度の公平性</p> <p>第 13 回 税と社会保障 (3) 社会保障制度の役割</p> <p>第 14 回 税と社会保障 (4) 日本における社会保障の貧困</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)		
実務経験について	なし。		

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次] 1年		授業外対応	
	[学期] 通年	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするのための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ◆5月15日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは</p> <p>◆6月12日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機</p> <p>◆7月10日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方</p> <p>◆9月18日(水)3限 第4回 企業が求める人材</p> <p>◆9月18日(水)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</p> <p>◆10月16日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法</p> <p>◆11月6日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出 (100%)			
実務経験について				

授業科目	数学の世界		担当者	愛甲 正
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な数学を理解し、さらに数学を愉しむ</p> <p>【概要】中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を愉しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 講義内容をまとめたプリントを配布する。</p> <p>(2) 講義中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 実数・有理数・無理数</p> <p>第 3 回 白銀比とコピー用紙・黄金比</p> <p>第 4 回 確率(くじ引きの順番)</p> <p>第 5 回 指数と対数(利息計算への応用)</p> <p>第 6 回 指数と対数の計算(電卓の利用)</p> <p>第 7 回 データの最頻値・中央値・平均値・箱髭図</p> <p>第 8 回 データの分散・標準偏差・偏差値</p> <p>第 9 回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理</p> <p>第 10 回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量</p> <p>第 11 回 数列(等差数列・等比数列)</p> <p>第 12 回 数列の和の極限(曲線の囲む図形の面積の例)</p> <p>第 13 回 弧度法と円の面積</p> <p>第 14 回 非ユークリッド幾何の紹介</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	基本的に復習が中心となる。講義中に課題レポートについて指示する。			
成績評価の方法	レポート(100%)による			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務(昭和56年4月～昭和62年3月)			

授業科目	物理の世界		担当者	藤井 伸平	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 講義の概要</p> <p>第 2回 基本的な量について</p> <p>第 3回 大気圧について</p> <p>第 4回 地球の大きさ・丸さについて</p> <p>第 5回 釣り合いとてこの原理について</p> <p>第 6回 摩擦と慣性について</p> <p>第 7回 ロケットについて</p> <p>第 8回 ガリレオ温度計について</p> <p>第 9回 気化熱について—その1</p> <p>第10回 気化熱について—その2</p> <p>第11回 電気について—その1</p> <p>第12回 電気について—その2</p> <p>第13回 磁場について—その1</p> <p>第14回 磁場について—その2</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を収集しまとめる。				
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第1回目の講義で説明します。)				
実務経験について	なし				

(注) 受講生が70人を超えた場合は人数を制限します。

授業科目	生物の科学		担当者	塔筋 弘章	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製(増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 生命の機能単位：細胞</p> <p>第 2回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3回 染色体、細胞周期および細胞分裂</p> <p>第 4回 遺伝の法則：メンデルの法則</p> <p>第 5回 DNA：遺伝におけるその役割</p> <p>第 6回 DNA：遺伝子型から表現型まで</p> <p>第 7回 分子生物学、ゲノムプロジェクト</p> <p>第 8回 動物の発生</p> <p>第 9回 発生における遺伝子発現</p> <p>第10回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第11回 種分化</p> <p>第12回 生物の進化(1)：生命の歴史、単細胞から多細胞へ</p> <p>第13回 生物の進化(2)：動物の進化</p> <p>第14回 生物の進化(3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第15回 生物の進化(4)：猿人からヒトへ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(100%)				
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師				

授業科目	化学の世界		担当者	古川那由太・木下朋美
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーを参照
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのように関わっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりからの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。1～6回：古川、7～15回：木下</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 気体の化学（元素と原子、大気成分、気体の密度）</p> <p>第2回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材）</p> <p>第3回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発）</p> <p>第4回 エネルギーの化学（化石燃料と火力発電、原子力発電と核融合炉、次世代エネルギー）</p> <p>第5回 生物の化学（生体物質の分類、糖質、たんぱく質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル）</p> <p>第6回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人）</p> <p>第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（1）</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（2）</p> <p>第10回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工（ブレンド・火入れ）-アミノカルボニル反応</p> <p>第11回 味を作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体</p> <p>第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とペットボトル）-茶成分の品質への影響</p> <p>第13回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習）</p> <p>第14回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール、香気成分等</p> <p>第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	古川担当分 (40%) : 授業ごとのレポート 木下担当分 (60%) : レポート			
実務経験について	なし			

授業科目	食生活と健康		担当者	中島一喜・古川那由太・中熊美和・木下朋美
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	担当ごとに適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：健康とは何か？（中熊）</p> <p>第2回 健康な食生活：食品の特性（木下）</p> <p>第3回 健康な食生活：食の安全（木下）</p> <p>第4回 口腔と健康：口内環境正常化（古川）</p> <p>第5回 口腔と健康：味覚を変える食品（古川）</p> <p>第6回 未定</p> <p>第7回 未定</p> <p>第8回 未定</p> <p>第9回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性（中熊）</p> <p>第10回 健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法（中熊）</p> <p>第11回 健康な食生活：ダイエット（中熊）</p> <p>第12回 健康な生活習慣：運動・睡眠・休養（中熊）</p> <p>第13回 健康な生活習慣：生活習慣病（中熊）</p> <p>第14回 健康な食生活：食文化・食中毒について（中熊）</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは（中熊）</p>			
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。			
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト (70%)、授業態度 (30%)を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	現代人権論	担当者	田口康明・藤野博行・未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	鹿児島学	担当者	前田千春・島津義秀・三嶽公子
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 鹿児島の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。 【概要】 歴史、文学、まちづくり、農業と食の視点から鹿児島の特性を理解し、鹿児島の未来を考える。 【到達目標】 鹿児島の理解を深め、地域の一員として鹿児島のあるべき姿を考察する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 「薩摩のキセキ」総合法令出版社、「薩摩の秘剣」新潮新書「みたけきみこと読むかごしまの文学」、「屋久島文学散歩」		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに：鹿児島学の講義内容の説明（島津、三嶽、岡田） 第 2 回 歴史（1）：鹿児島の歴史について（島津） 第 3 回 歴史（2）：鹿児島の思想について（島津） 第 4 回 歴史（3）：鹿児島の土風文化について（島津義弘の生き様など）（島津） 第 5 回 歴史（4）：鹿児島の土風文化について（薩摩琵琶・天吹について）（島津） 第 6 回 文学（1）：霧島～霧島神宮・古事記「女と刀」 与謝野晶寛・晶子「霧島の歌」～（三嶽） 第 7 回 文学（2）：奄美群島の文学～加計呂麻島・島尾敏雄 硫黄島「俊寛」（三嶽） 第 8 回 文学（3）：桜島～文学碑巡り 梅崎春生「桜島」 新田次郎「桜島」（三嶽） 第 9 回 文学（4）：梨木香歩「海うそ」の世界 廃仏毀釈について（三嶽） 第 10 回 鹿児島の自然環境 第 11 回 まちづくり（1）：都市 第 12 回 まちづくり（2）：農山村① 第 13 回 まちづくり（3）：農山村② 第 14 回 まちづくり（4）：観光 第 15 回 まちづくり（5）：離島		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当者で分担して評価をする（島津 30 点、三嶽 30 点、前田 40 点）		
実務経験について	島津義秀（精矛神社の宮司、加治木島津家の第 13 代当主）、三嶽公子（月の舟自由大学の学長、きりしま月の舟主宰）、前田千春(なし)		

授業科目	社会活動	担当者	担当教員
	[履修年次] 指定なし [学期] 通年 [単位] 2～4 単 位	授業外対応 [必修/選択]	選択(注) [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(101%)		
実務経験について	(注) 商経学科を除く		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	選択(注) [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		
実務経験について	(注) 商経学科を除く		

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ (A)	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロンディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ (A)	担当者	松元 貴子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業後、またはメールにて対応します。
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を総合的に学び、主にライティングとスピーキングを通して、表現する力を鍛える。</p> <p>【概要】ライティング活動を通して、アイデアの出し方、パラグラフの構成力を習得する。スピーキング活動を通して、英語の音声を正しく理解し、実践する。また、語彙力・表現力を習得する。ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。</p> <p>【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文をもとに、正しい音でスピーキングができる。ペアワークでの会話を3分以上続けることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 How to start a conversation & how to introduce myself.</p> <p>第 3 回 How to organize a paragraph & Brainstorming.</p> <p>第 4 回 Explain about myself & people 1</p> <p>第 5 回 Explain about myself & people 2</p> <p>第 6 回 Explain about myself & people 3</p> <p>第 7 回 Let's talk about myself and people</p> <p>第 8 回 Describing about my experience 1</p> <p>第 9 回 Describing about my experience 2</p> <p>第 10 回 Describing about my experience 3</p> <p>第 11 回 Let's talk about my experience</p> <p>第 12 回 Presentation project preparation 1</p> <p>第 13 回 Presentation project preparation 2</p> <p>第 14 回 Presentation project preparation 3</p> <p>第 15 回 Preparation and review for final</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業内での活動への取り組み (25%) + ライティングなどの提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅰ (B)		担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。			
授業スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II			
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。			
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅰ (B)		担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。			
授業スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II			
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。			
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)		担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Following instructions (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。			
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディーは理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音読スキルと知識の向上に努め、プレゼンテーションに役立つ発信能力も身につける。同時に読解能力を養う上で、大学生として知っておくべき国内外の大学事情に興味をもち、知見を深めていく。</p> <p>【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりを英語使用を通して高めていく。同時に自国の歴史、特に明治期に文明開化と国際化に出会った歴史についてもふれていく。授業では考えたり、話し合いをもとに内容を深め、それを確かな自分の姿(卒業後の進路・キャリアプランを含めて)にもつなげていく。</p> <p>【到達目標】発音記号の読み方、ポーズの入れ方、安定した速度とテンポ、流暢な連結発音、感情移入(バラ言語)→こうした音読知識とスキルを高めていく。それを応用するために、テキストで学んだことを英語や日本語で書き、プレゼンテーションできる能力を磨く。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして(英宝社) ISBN 978-4-269-13017-3</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 音読知識・スキル(発音、アクセント)</p> <p>第 3回 音読知識・スキル(チャンキングルール)</p> <p>第 4回 音読知識・スキル(リエゾン、WPM)</p> <p>第 5回 音読知識・スキル(バラ言語)</p> <p>第 6回 読解方略(1) 論理構成・展開の理解</p> <p>第 7回 読解方略(2) 英文のつながりと重要語彙</p> <p>第 8回 読解方略(3) 内容理解(要約)</p> <p>第 9回 読解方略(4) 内容理解(Gist Making)</p> <p>第 10回 発表、聞き取り、質疑応答練習(1)(日本語)</p> <p>第 11回 発表、聞き取り、質疑応答練習(2)(日本語)</p> <p>第 12回 発表、聞き取り、質疑応答練習(1)(英語)</p> <p>第 13回 発表、聞き取り、質疑応答練習(2)(英語)</p> <p>第 14回 まとめ(1) 大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史</p> <p>第 15回 まとめ(2) 大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	復習テスト(40%)、予習課題を使った授業中の発表等(20%)、レポート(日本語、英語)(40%)			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	石原 知英
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信(書くことと話すこと)と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ(あるいはプレゼンテーション)を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ(あるいはプレゼンテーション)を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業ガイダンス(到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明)</p> <p>第 2回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第 3回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第 4回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第 5回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第 6回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第 7回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第 8回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第 9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第 10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第 11回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第 12回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第 13回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第 14回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第 15回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>			
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習(予習)、前時に学習した語句・表現および列文の確認(復習)			
成績評価の方法	毎週の授業内課題(小テスト20%、振り返りシート20%) クラスでの発表課題(中間プレゼンテーション20%、最終プレゼンテーション40%)			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ (D)		担当者	石原 知英
	[履修年次] 1年		授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）</p> <p>第 2回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第 3回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第 4回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第 5回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第 6回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第 7回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第 8回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第 9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第 10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第 11回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第 12回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第 13回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第 14回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第 15回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>			
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）			
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%）クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅰ (D)		担当者	米村 大輔
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の基本4技能を養いつつ、現代の社会事情について考える。</p> <p>【概要】各回、現代の社会事情について特定のトピックを扱い、タスクを通して「読む」「聞く」「話す」「書く」技能をバランスよく身につける。また基礎英文法の定着も図る。</p> <p>【到達目標】大きく変化しつつある現代社会に対応しながら、日常の様々な場面で情報の理解、発信を英語で的確に行えるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jonathan Lynch 委文光太郎 著 『Trend Scope』</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Resellers-Good or Bad? (be 動詞)</p> <p>第 2回 About Earphones (一般動詞)</p> <p>第 3回 Cash Registers (名詞・代名詞)</p> <p>第 4回 Funny Happenings During Online Lessons (過去形)</p> <p>第 5回 Loose-Fitting Clothing (進行形)</p> <p>第 6回 Shrinkflation (Wh 疑問文)</p> <p>第 7回 Living in the Countryside (前置詞)</p> <p>第 8回 Hanging Out in Streets and Parks (接続詞)</p> <p>第 9回 Plant Burgers Are Popular in America (現在完了形)</p> <p>第 10回 South Korean Culture Is popular Worldwide (未来表現)</p> <p>第 11回 Doxing (助動詞)</p> <p>第 12回 Fast Movies (受動態)</p> <p>第 13回 Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? (形容詞・副詞)</p> <p>第 14回 Ramen Subscription (不定詞・動名詞)</p> <p>第 15回 Which Video-Sharing App Is Best? (比較級・最上級)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	小テスト(30%)、課題(20%)、振り返りシート(30%)、授業での取り組み(20%)			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)		担当者	パトリック・ゴース
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】English II A is a four skills course with an emphasis on speaking and listening. Students will complete information gap, fill in the gap and communication exchange activities. Students will be required to work in pairs and groups and assist each other in</p> <p>【概要】Students will work have regular homework assignments.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to develop their overall English abilities.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Smart Choice 2A Third Edition, Ken Wilson, Oxford University Press (2)			
授業スケジュール	第 1回 Class orientation 第 2回 Unit 1 How was your vacation? 第 3回 Unit 1 How was your vacation? 第 4回 Unit 1 How was your vacation? 第 5回 Unit 2 I think it's exciting! 第 6回 Unit 2 I think it's exciting! 第 7回 Unit 2 I think it's exciting! 第 8回 Unit 3 Do it before you're 30! 第 9回 Unit 3 Do it before you're 30! 第 10回 Unit 4 The best place in the world! 第 11回 Unit 4 The best place in the world! 第 12回 Unit 5 Where's the party? 第 13回 Unit 5 Where's the party? 第 14回 Unit 6 You should try it! 第 15回 Final Exam			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)			
実務経験について				

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, 『English Firsthand 1, Fifth Edition』, Pearson (2)			
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions. 第 2回 Unit 1. Pair talk. Using simple present . Unit review. 第 3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends. 第 4回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review. 第 5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date. 第 6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review. 第 7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent. 第 8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review. 第 9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions. 第 10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review. 第 11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took. 第 12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review. 第 13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do? 第 14回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review 第 15回 Course review.			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	In-class activities (40%) + final presentation (60%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.			

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)		担当者	デビッド・マルチネズ・ガッデューラ		
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	授業外対応	After the class	
			[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will provide students with basic speaking and listening skills to help them engage in active and meaningful conversations in English. Drawing from a number of resources including texts, students will be provided some fundamental tools us</p> <p>【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately. Initiating as well as maintaining a dialogue will also be stressed.</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be prepared by the instructor.</p> <p>(2) N/A</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course overview and survey</p> <p>第 2 回 The 5 Ws for making/understanding questions</p> <p>第 3 回 Describing a person</p> <p>第 4 回 Clothing and fashion</p> <p>第 5 回 Cooking and eating</p> <p>第 6 回 Going and coming back, traveling</p> <p>第 7 回 Complaining, recommending and commanding</p> <p>第 8 回 Review Test 1</p> <p>第 9 回 Hobbies and Weekend Activities</p> <p>第 10 回 How to keep conversation going</p> <p>第 11 回 Memories of childhood</p> <p>第 12 回 Memories of other places</p> <p>第 13 回 Talking about problems</p> <p>第 14 回 Giving advice</p> <p>第 15 回 Review Test 2</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%					
実務経験について						

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ		
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	授業外対応	By email	
			[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, 『English Firsthand 1, Fifth Edition』, Pearson</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course.</p> <p>Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions.</p> <p>第 2 回 Unit 1. Pair talk . Using simple present . Unit review.</p> <p>第 3 回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends.</p> <p>第 4 回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review.</p> <p>第 5 回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date.</p> <p>第 6 回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review.</p> <p>第 7 回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent.</p> <p>第 8 回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review.</p> <p>第 9 回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions.</p> <p>第 10 回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review.</p> <p>第 11 回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took.</p> <p>第 12 回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review.</p> <p>第 13 回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do?</p> <p>第 14 回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review</p> <p>第 15 回 Course review.</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	In-class activities (40%) + final presentation (60%)					
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.					

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)		担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	授業外対応
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2 回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3 回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4 回 Unit 3: Life</p> <p>第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6 回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8 回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9 回 Unit 8: The stranger</p> <p>第 10 回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第 12 回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第 14 回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%			
実務経験について				

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)		担当者	内尾ホープ
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	授業外対応
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The textbook contains reading, listening and speaking exercises on various topics. The main objective is for students to develop their listening, speaking and writing skills.</p> <p>【概要】 Students will mainly practice listening to and speaking English.</p> <p>【到達目標】 The emphasis will be on improving listening, speaking and writing skills.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Undecided (2)			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction</p> <p>第 2 回 Lesson 1: listening, speaking, and writing</p> <p>第 3 回 Review and Quiz; Lesson 2: listening, speaking, and writing</p> <p>第 4 回 Review and Quiz; Lesson 3: listening, speaking, and writing</p> <p>第 5 回 Review and Quiz; Lesson 4: listening, speaking, and writing</p> <p>第 6 回 Review and Quiz; Lesson 5: listening, speaking, and writing</p> <p>第 7 回 Review and Quiz; Lesson 6: listening, speaking, and writing</p> <p>第 8 回 Midterm; Lesson 7: listening, speaking, and writing</p> <p>第 9 回 Review and Quiz; Lesson 8: listening, speaking, and writing</p> <p>第 10 回 Review and Quiz; Lesson 9: listening, speaking, and writing</p> <p>第 11 回 Review and Quiz; Lesson 10: listening, speaking, and writing</p> <p>第 12 回 Review and Quiz; Lesson 11: listening, speaking, and writing</p> <p>第 13 回 Review and Quiz; Lesson 12: listening, speaking, and writing</p> <p>第 14 回 Review and Quiz; Lesson 12: listening, speaking, and writing</p> <p>第 15 回 Review and Quiz; Lesson 6: listening, speaking, and writing</p>			
授業外学習(予習・復習)	A short homework assignment will be assigned each week.			
成績評価の方法	Homework and short quizzes: 20% Midterm: 30% Final Exam: 50%			
実務経験について				

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)	担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and a</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2 回 Meeting New People</p> <p>第 3 回 Home</p> <p>第 4 回 Family</p> <p>第 5 回 Transportation in the City</p> <p>第 6 回 Shopping</p> <p>第 7 回 Celebrations</p> <p>第 8 回 Review Quiz</p> <p>第 9 回 Volunteering</p> <p>第 10 回 Staying Well</p> <p>第 11 回 Pets</p> <p>第 12 回 Free Time Activities</p> <p>第 13 回 Music</p> <p>第 14 回 Review of key units in class groups</p> <p>第 15 回 Final Oral Review Practice in pairs</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Quizzes 20% Exams 30%		
実務経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)	担当者	デビッド・マルチネス・ガッデューラ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	After the class
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will provide students with basic speaking and listening skills to help them engage in active and meaningful conversations in English. Drawing from a number of resources including texts, students will be provided some fundamental tools us</p> <p>【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately. Initiating as well as maintaining a dialogue will also be stressed.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be prepared by the instructor.</p> <p>(2) N/A</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course overview and survey</p> <p>第 2 回 The 5 Ws for making/understanding questions</p> <p>第 3 回 Describing a person</p> <p>第 4 回 Clothing and fashion</p> <p>第 5 回 Cooking and eating</p> <p>第 6 回 Going and coming back, traveling</p> <p>第 7 回 Complaining, recommending and commanding</p> <p>第 8 回 Review Test 1</p> <p>第 9 回 Hobbies and Weekend Activities</p> <p>第 10 回 How to keep conversation going</p> <p>第 11 回 Memories of childhood</p> <p>第 12 回 Memories of other places</p> <p>第 13 回 Talking about problems</p> <p>第 14 回 Giving advice</p> <p>第 15 回 Review Test 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%		
実務経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)		担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and a</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2回 Meeting New People</p> <p>第 3回 Home</p> <p>第 4回 Family</p> <p>第 5回 Transportation in the City</p> <p>第 6回 Shopping</p> <p>第 7回 Celebrations</p> <p>第 8回 Review Quiz</p> <p>第 9回 Volunteering</p> <p>第10回 Staying Well</p> <p>第11回 Pets</p> <p>第12回 Free Time Activities</p> <p>第13回 Music</p> <p>第14回 Review of key units in class groups</p> <p>第15回 Final Oral Review Practice in pairs</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Quizzes 20% Exams 30%			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (D)		担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. If attitudes and abilities allow it, we will endeavour to introduce the busine</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4回 Unit 3: Life</p> <p>第 5回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9回 Unit 8: The stranger</p> <p>第10回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第11回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第12回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第13回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第14回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (A)		担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for introductions, expressing emotions, making excuses and explanations, etc. Relaxed group discussions will give st</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 2」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130234) (2)			
授業スケジュール	第 1回 Unit 1: Introductions and Relationships 第 2回 Unit 1: Using Simple past; Simple present; Present perfect; Present Continuous 第 3回 Unit 2: Feelings and Emotions 第 4回 Unit 2: Using Conditionals; Adjectives for emotions 第 5回 Quiz (1) and Discussion 第 6回 Unit 3: Making Recommendations 第 7回 Unit 3: Comparatives and Superlatives to describe places; Amplifiers for comparisons 第 8回 Unit 4: Sharing opinions; Agreeing and Disagreeing 第 9回 Unit 4: Using Superlatives to describe events; Tag questions 第 10回 Quiz (2) and Discussion 第 11回 Unit 5: Excuses and Requests; Accepting and Refusing 第 12回 Unit 5: Using Could and Would; Using clauses in complex sentences 第 13回 Unit 6: Culture differences; Symbols 第 14回 Unit 6: Using wh~ questions; Relative pronouns 第 15回 Final Exam			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)			
実務経験について				

※食物栄養専攻、生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (B)		担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English in everyday settings and situations. It provides the students with many opportunities to develop their listening skills, conversational skills, and vocabulary knowledge.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. Student will create role plays and perform them before the class.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of conversational English. By giving the students many opportunities to practice their English (in pairs, small groups, and before the class) the course aims to strengthen the s</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen to this! (Intermediate) by James Bean with Gillian Flaherty, (Seibido Press) (2)			
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course and key topics. "Please leave a message" 第 2回 You need a break! 第 3回 I think we're lost 第 4回 Where did you grow up? 第 5回 It's a goal! 第 6回 Sightseeing 第 7回 TV violence 第 8回 I'd like to return this 第 9回 What a great vacation! 第 10回 Can you help me with my essay? 第 11回 What happens to our trash? 第 12回 I feel terrible 第 13回 Future plans 第 14回 I disagree! 第 15回 Review and Conversational Practice			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Short Presentations 30%, Homework 20%, Quizzes 20%, Exams 30 %			
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations			

※食物栄養専攻、生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (C)		担当者	金岡 正夫
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の読解および音読活動を通して大学生の視点から幅広く、奥深く自身の考え、価値観、社会観、世界観について、より具体的に説明できる活動に取り組む。そのために自国の歴史、とくに西欧との開国と英語の到来を迎えた明治期の動きだけでなく、現代の大学生たち（英語圏）が受けている授業や取り組んでいるテーマを紹介していく。</p> <p>【概要】テーマでふれた内容について、テキストを使いながら深く、幅広く理解し、同時に自身のアイデンティティ構築にも取り組んでいく。そのために積極的に日本語（母語）と英語（外国語）を活用していく。予習課題をもとに学習強化をはかっていく。復習テスト等により、さらなる強化をはかる。</p> <p>【到達目標】正確かつスムーズに英文を音読できるようにする。同時に自分の考えや意見も英語で示せるようにする。その前提として、内容理解の読解方略も学んでいく。論理的内容を日本語と英語で作れるよう、ライティングにむけた基本知識も習得し、応用できるようにする。</p>			
(1)テキスト	(1)	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3		
(2)参考文献	(2)	特になし		
授業スケジュール	第 1回	オリエンテーション		
	第 2回	音読知識とテクニック (1) 発音、アクセント		
	第 3回	音読知識とテクニック (2) チャンキングルールとフレーズリーディング		
	第 4回	音読知識とテクニック (3) 連結発音（リエゾン）に関するルールの理解と実践		
	第 5回	音読知識とテクニック (4) Words Per Minute (WPM) を使った安定した速読練習		
	第 6回	音読知識とテクニック (5) パラ言語の理解と応用実践		
	第 7回	音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (1)		
	第 8回	音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (2)		
	第 9回	英文読解に向けた方略 (1) テキストの論理の流れの理解（タテのつながり）		
	第 10回	英文読解に向けた方略 (2) テキストの論理の流れの理解（ヨコのつながり）		
	第 11回	自身の考えを述べる—論理的内容構築の練習		
	第 12回	自身の考えを述べる—英文読解をふまえた要約づくりの練習		
	第 13回	自身の考えを述べる—英文読解をふまえたポイント中心の要約づくりの練習		
	第 14回	まとめ—自分自身にとって英語とは？その学習の存在意義とは？		
	第 15回	まとめ—大学生としてもつべき価値観、信念、生き方とは？		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	復習テスト (40%)、予習課題を使った授業中の発表等 (20%)、レポート（日本語、英語）(40%)			
実務経験について				

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (D)		担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on developing the student's ability to talk about topics related to science and nutrition and to comprehend related listening and written activities</p> <p>【概要】 Students will listen to short talks, read the talks for comprehension and practice short conversations related to them. Students will have opportunities to develop/create their own conversations related to the topics. The topics encountered in the te</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of English related to science and nutrition while enhancing their ability to confidently express their own opinions related to the various topics encountered in the classroom. T</p>			
(1)テキスト	(1)	Healthy Habits for a Better Life		
(2)参考文献	(2)			
授業スケジュール	第 1回	Introductions		
	第 2回	Sleep is Important		
	第 3回	Is Salt Bad for Us?		
	第 4回	Water is Wonderful		
	第 5回	Hot Springs: A Miracle of Nature		
	第 6回	Healthy Lessons from the Blue Zone		
	第 7回	Unhealthy Habits		
	第 8回	Let's Dance!		
	第 9回	The Story of Sugar		
	第 10回	Companion Animals		
	第 11回	Music and Medicine		
	第 12回	Please Listen to Me!		
	第 13回	Let's Eat Together!		
	第 14回	Believe in Yourself!		
	第 15回	Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Short Presentations 30%, Homework 20%, Quizzes 20%, Exams 30 %			
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations			

(注) 日本語日本文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (E)	担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English while developing the students' ability to express opinions and engage in short discussions. The units covered relate to types of situations and challenges learners encounter in everyday life.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. They will learn how to express their opinions and engage in short discussions related to the topics encountered in the text.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of everyday conversational English while enhancing their ability to confidently express their own opinions on a variety of topics.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Complete Communication</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the Course</p> <p>第 2 回 What are you into – Talking about Hobbies and Interests</p> <p>第 3 回 Who' are they – Talking about friends and family</p> <p>第 4 回 What shall we watch? - Talking about Movies and TV</p> <p>第 5 回 What are you listening to? - Talking about Music</p> <p>第 6 回 What are you reading? – Talking about books</p> <p>第 7 回 I'm hungry - Talking about Food</p> <p>第 8 回 Review 1</p> <p>第 9 回 How do you stay fit? Talking about Health</p> <p>第10 回 I don't feel so good – Talking about Illness</p> <p>第11 回 Why do you do that? – Talking about Culture</p> <p>第12 回 It's a special day - Talking about Holidays and Festivals</p> <p>第13 回 I've never done that before – Talking about experiences</p> <p>第14 回 Let's meet in Paris! Talking about the Future</p> <p>第15 回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Short Presentations 30%, Homework 20%, Quizzes 20%, Exams 30 %		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (F)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第15 回 Review II</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)		
実務経験について	なし		

(注) 全専攻

授業科目	英語Ⅲ (G)		担当者	デビッド・マルチネズ・ガッデューラ				
	[履修年次]	1年	授業外対応	After the class				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course offers additional techniques for improving listening and speaking in English, with an emphasis on rhetoric. Using various materials including texts, students will learn how to organize ideas, form opinions and provide reasons in order to</p> <p>【概要】 Students will learn to identify topics for discussion and utilize rhetorical strategies in order to initiate or participate in basic debate. Using clear conversation models, students should be able to identify a topic, give their opinions and support</p> <p>【到達目標】 The course will continue to build on the fundamental conversation elements learned in first semester, growing students' ability to quickly identify a topic and appeal to listeners with their ideas. Emphasis will be placed on saying things in a timely</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be prepared by the instructor.</p> <p>(2) N/A</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course overview and survey</p> <p>第 2 回 Music and Movies</p> <p>第 3 回 Polite English & negative expressions</p> <p>第 4 回 Inviting and declining</p> <p>第 5 回 Reporting what someone else said</p> <p>第 6 回 Talking about feelings</p> <p>第 7 回 Stress and intonation</p> <p>第 8 回 Review Test 1</p> <p>第 9 回 Finding issues and giving opinions</p> <p>第 10 回 Giving reasons</p> <p>第 11 回 Supporting your reasons</p> <p>第 12 回 Debate practice</p> <p>第 13 回 Confirming and summarizing a thought</p> <p>第 14 回 Refuting someone's argument</p> <p>第 15 回 Review Test 2</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%							
実務経験について								

(注) 全専攻

授業科目	英語Ⅲ (H)		担当者	デビッド・マルチネズ・ガッデューラ				
	[履修年次]	1年	授業外対応	After the class				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course offers additional techniques for improving listening and speaking in English, with a focus on consensus building and problem solving. Using various materials including texts, students will be exposed to and be expected to employ voca</p> <p>【概要】 Students will learn how to identify a complaint or a problem and utilize specific language in order to propose solutions, make counter arguments or offer support.</p> <p>【到達目標】 The course will continue to build on fundamental conversation elements learned in first semester, helping students to respond in a timely and appropriate manner to others. Students will have ample English practice giving and receiving advice and cr</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be prepared by the instructor.</p> <p>(2) N/A</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course overview and survey</p> <p>第 2 回 A review of "W" and "H" questions</p> <p>第 3 回 Making a decision and making plans</p> <p>第 4 回 Talking about careers, job satisfaction</p> <p>第 5 回 Talking about health</p> <p>第 6 回 The language of caring</p> <p>第 7 回 Interruptions</p> <p>第 8 回 Review Test 1</p> <p>第 9 回 Your favorite things</p> <p>第 10 回 Compare what you like</p> <p>第 11 回 Stating preferences</p> <p>第 12 回 Making a suggestion vs. making a recommendation</p> <p>第 13 回 Talking about problems</p> <p>第 14 回 Giving advice</p> <p>第 15 回 Review Test 2</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%							
実務経験について								

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (A)	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中級レベルの英語をつかひながら自分の意見を伝えること。Expressing opinion about a variety of topics in English. 【概要】様々なトピックについて考えて、話し合っ、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 映像、プリントなどをつかう。We will use handouts and videos in our class and discussions. 【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。 Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (プリントを配布する場合もある) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation class 第 2 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 第 3 回 クラスワーク (発表をする方法) Presentation skills 第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation 第 5 回 グループ発表 1 First presentation (scheduled) 第 6 回 クラスワーク (コミュニケーション力) Communication skill 第 7 回 クラスワーク (ディスカッション力) Discussion skill 第 8 回 映画・感想 (watching and discussing a movie) 第 9 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation 第 10 回 グループ発表 2 Second presentation 第 11 回 クラスワーク (classmate のインタビュー) Interview your classmate! 第 12 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 2 第 13 回 クラスワーク (聞き取り・読解力) Listening and Reading skills 第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered. 第 15 回 まとめ (Final worksheet/Revision)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題-10%) を基準に、総合的に評価する。		
実務経験について			

(注) 日本語日本文学専攻、食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅳ (B)	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. 【到達目標】 To improve students' communication skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits: Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入-コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Complicated 第 3 回 Unit 2: SOS 第 4 回 Unit 3: You are not alone 第 5 回 Unit 4: Don't want to lose you 第 6 回 Unit 5: How crazy are you 第 7 回 Unit 6: Sunday Morning 第 8 回 Unit 7: Review 1 第 9 回 Unit 8: I want it that way 第 10 回 Unit 9: Suddenly I see 第 11 回 Unit 10: How am I supposed to live without you 第 12 回 Unit 11: Save the best for Last 第 13 回 Unit 12: Torn 第 14 回 Unit 13: La La means I love you 第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%		
実務経験について			

(注) 日本語日本文学専攻、食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅳ (C)		担当者	グレゴリー・ダン
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The course also aims to encourage the students' creativity in developing conversations of their own. The topic</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English with confidence in conversation and brief presentations. Students will also have the opportunity</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability and confidence to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen Up, Talk Back, Book 2. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2 回 Campus Life</p> <p>第 3 回 Health Care</p> <p>第 4 回 My Favorite Things</p> <p>第 5 回 International Travel</p> <p>第 6 回 Weather</p> <p>第 7 回 Education</p> <p>第 8 回 Review Quiz</p> <p>第 9 回 Exploring a New City</p> <p>第 10 回 Learning English</p> <p>第 11 回 Money</p> <p>第 12 回 The Environment</p> <p>第 13 回 News</p> <p>第 14 回 Review of key units in class groups</p> <p>第 15 回 Final Oral Review Practice in pairs</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Quizzes 20% Exams 30%			
実務経験について				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (D)		担当者	米村 大輔
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代のビジネスモデルについて考える。</p> <p>【概要】 現代の世相を反映したビジネスモデルとその仕組みについて概観する。毎回、特定のトピックについて学生主導のディスカッションを行う(学生一人一人の積極的な発言が求められる)。また各自オリジナルのビジネスモデルを作成し、発表を行う。授業での使用言語は英語である。英検2級合格レベル以上の英語力を持っていることが望ましい。</p> <p>【到達目標】 現代社会における様々なシーンにおいて英語の情報を正確に読み(聞き)取ることができる。ビジネスに関わるボキャブラリーを使いながら自分のアイデアを英語で効果的に伝えることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jonathan Lynch 委文光太郎 著 『Global Pathways』</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Gig Work</p> <p>第 2 回 Your Boss is from Overseas</p> <p>第 3 回 Bitcoin</p> <p>第 4 回 Working from Home</p> <p>第 5 回 Kickstarter</p> <p>第 6 回 Esports</p> <p>第 7 回 Unicorns</p> <p>第 8 回 How do Modern Musicians Make Money?</p> <p>第 9 回 Space Business</p> <p>第 10 回 Going Cashless from a Business's Perspective</p> <p>第 11 回 Workations</p> <p>第 12 回 The Future of "Hanko"</p> <p>第 13 回 Subscription Services</p> <p>第 14 回 Japanese High-End Denim Industry</p> <p>第 15 回 Final Presentation</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(毎回1時間程度+発表者は3時間程度)			
成績評価の方法	課題(10%)、振り返りシート(10%)、授業での取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)			
実務経験について				

(注) 生活専攻、経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (E)		担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本と海外、そして過去と現在を交錯させながら、そこから自己成長と英語学習の成熟に向け、学ぶべき重要な事実、考え方、人生観、世界観などをテキストに沿って学んでいく。</p> <p>【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりとは何か—どうすればそれが構築していけるのか、英文読解を介して進めていく。担当教員の個人体験(米国大学院留生活)も紹介する。授業では考えたり話し合いをもとに内容理解を深め、予習課題を通して確かな自分づくりにつなげていく。同時に英語の本質(存在意義)についても理解を広めていく。</p> <p>【到達目標】世界のトップレベルの大学が考えている「大学生力」や「人生の成功の意味」について理解する。現在や過去の偉人たちが堅持した大切な価値観や信念を理解し、それを示した遺訓(座右の銘など)も理解する。それと並行してこれまでの自分自身と自分の英語(の存在と学習目的)を見つめ直し、どのような生き方をすべきか自ら答えを出していく。そのために持つべき信念や価値観も明らかにする。こうした点に向け、表現すべき英語力も身につけていく。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして(英宝社) ISBN 978-4-269-13017-3</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 米国の大学入試問題(エッセイ)が重視すること</p> <p>第 3回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由</p> <p>第 4回 英国の大学入試問題で試されること</p> <p>第 5回 英国の大学がもっているこだわりと信念</p> <p>第 6回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景(1)</p> <p>第 7回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景(2)</p> <p>第 8回 まとめ</p> <p>第 9回 グローバル時代の英語学習者と英語学習動機づけ</p> <p>第 10回 グローバル社会の功罪について大学で議論すべきこと</p> <p>第 11回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念(1)</p> <p>第 12回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念(2)</p> <p>第 13回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念(3)</p> <p>第 14回 自分自身にとって英語とは?その学習の存在意義とは?</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	復習テスト(40%)、予習課題を使った授業中の発表等(20%)、レポート(日本語、英語)(40%)			
実務経験について	なし			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (F)		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語彙力を増やし、英文法を再確認し、長文読解のコツを身に付けて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】授業では高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させます。毎回1課ずつテキストを進むので予習が必要です。担当者はプリントを用いてヒントを与え、受講者自身に間違った箇所をチェックさせます。その上で解説を試みます(学習意欲を高める工夫)。また、LL教室を利用してリスニング問題にも取り組めるようにします。</p> <p>【到達目標】英検2級を取得できるような英語力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行、岡島徳昭、W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂 適宜、プリントによる問題も配布</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション(授業の進め方の説明)、プリント学習(受講生のレベルを確認)</p> <p>第 2回 Lesson 1(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 3回 Lesson 2(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 4回 Lesson 3(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 5回 Lesson 4(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 6回 Lesson 5(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 7回 Lesson 6(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 8回 Lesson 7(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 9回 Lesson 8(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 10回 Lesson 9(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 11回 Lesson 10(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 12回 Lesson 11(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択)</p> <p>第 13回 Lesson 12(語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択)</p> <p>第 14回 実践形式の練習</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各課の問題を解いて授業に臨む(予習)			
成績評価の方法	筆記試験(50%)、予習を含む授業への取り組み(50%)			
実務経験について	なし			

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語 IV (G)	担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アカデミックリーディング</p> <p>【概要】論理的な文章の読解を通して文法や語彙を確認する。確認した文法や語彙を英作文に応用することで、定着を図る。</p> <p>【到達目標】アカデミックな文章を読む技能を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 新井巧磨ほか (2021) 『日本文化の再発見から学ぶ Essay の書き方・読み方』, 南雲堂, 東京。</p> <p>(2) 三森ゆりか (2003) 『外国語を身につけるための日本語レッスン』大修館書店, 東京。 / 池上嘉彦 (2006) 『英語の感覚・日本語の感覚 <ことばの意味>の仕組み』NHK 出版, 東京。 / 外山滋比古 (1992) 『英語の発想・日本語の発想』NHK 出版, 東京。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 Unit 1 The Story of Wasabi</p> <p>第 3 回 Unit 2 Architecture: Japanese Castles</p> <p>第 4 回 Unit 3 Matsuri: Festivals in Japan</p> <p>第 5 回 Unit 4 Japanese Corporate Culture</p> <p>第 6 回 Unit 5 Examination War</p> <p>第 7 回 Unit 6 Uniqueness of Japanese Trains</p> <p>第 8 回 Unit 7 The Key to Long Life</p> <p>第 9 回 Unit 8 Distinct Style or Neglect of Identity</p> <p>第 10 回 Unit 9 Drinking Rituals</p> <p>第 11 回 Unit 10 Traditional Crafts in Japan</p> <p>第 12 回 Unit 11 Home Video Game Consoles from Japan</p> <p>第 13 回 Unit 12 Onsen: Hot Springs</p> <p>第 14 回 Unit 13 Folktales: Sensitivity to Things and Nature</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間程度, 復習 1 時間以上必要である。この予復習時間は英検準 2 級程度の英語力を前提とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + 試験 (50%)		
実務経験について	なし		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)		担当者	英語担当教員全員		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応			
	[学期]	通年 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績</p> <p>日程：9月4日～9月17日</p> <p>参加者：31名</p> <p>研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)					
授業スケジュール	<p>第1回 事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>					
授業外学習(予習・復習)						
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。					
実務経験について						

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)		担当者	中国語担当教員全員		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応			
	[学期]	通年 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（ <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)					
授業スケジュール	<p>第1回 事前指導 受講希望者に3～5回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、</p> <p>[2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、</p> <p>[3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。					
実務経験について						

授業科目	ドイツ語Ⅰ		担当者	荒巻 那月
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールにて対応
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著 『青春はうるわし』 朝日出版社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞書』 三修社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ドイツ語及びドイツ語圏について、文字、アルファベット</p> <p>第2回 綴り字と発音の規則、発音練習</p> <p>第3回 第1課 人称と動詞の現在人称変化、定動詞の位置、動詞 sein</p> <p>第4回 第1課</p> <p>第5回 第1課</p> <p>第6回 第2課 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、動詞 haben</p> <p>第7回 第2課</p> <p>第8回 第2課</p> <p>第9回 第3課 名詞の複数形、複数名詞の格変化、男性弱変化名詞</p> <p>第10回 第3課</p> <p>第11回 第4課 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden</p> <p>第12回 第4課</p> <p>第13回 第4課</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>			
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要			
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%			
実務経験について				

(注) 英語英文学専攻

授業科目	ドイツ語Ⅱ		担当者	荒巻 那月
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールにて対応
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】2年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著 『青春はうるわし』 朝日出版社</p> <p>(2) 在間進 他『アクセス独和辞書』 三修社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第5課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形</p> <p>第3回 第5課</p> <p>第4回 第5課</p> <p>第5回 第6課 定冠詞類、不定冠詞類、否定の nicht、否定冠詞 kein</p> <p>第6回 第6課</p> <p>第7回 第7課 分離動詞、非分離動詞、副文、従属接続詞</p> <p>第8回 第7課</p> <p>第9回 第7課</p> <p>第10回 第8課 話法の助動詞、未来形</p> <p>第11回 第8課</p> <p>第12回 第9課と10課 動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了、非人称の es</p> <p>第13回 第9課と10課</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 復習と試験の説明</p>			
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要			
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%			
実務経験について				

(注) 英語英文学専攻

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次 次、生活科学専攻は2年次 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応	授業終了後
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われています。もちろん、ファッションや料理を勉</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『私だけのフランス語ノート』(朝日出版社)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業全体の説明, アルファベットの発音など</p> <p>第2回 Leçon 1</p> <p>第3回 Leçon 1</p> <p>第4回 Leçon 2</p> <p>第5回 Leçon 2</p> <p>第6回 Leçon 3</p> <p>第7回 Leçon 3</p> <p>第8回 Leçon 4</p> <p>第9回 Leçon 4</p> <p>第10回 Leçon 5</p> <p>第11回 Leçon 5</p> <p>第12回 Leçon 6</p> <p>第13回 Leçon 6</p> <p>第14回 まとめ 1</p> <p>第15回 まとめ 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 小テスト(30%)		
実務経験について			

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次 次、生活科学専攻は2年次 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位	授業外対応	授業終了後
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われています。もちろん、ファッションや料理を勉</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『私だけのフランス語ノート』(朝日出版社)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Leçon 7</p> <p>第2回 Leçon 7</p> <p>第3回 Leçon 8</p> <p>第4回 Leçon 8</p> <p>第5回 Leçon 9</p> <p>第6回 Leçon 9</p> <p>第7回 Leçon 10</p> <p>第8回 Leçon 10</p> <p>第9回 Leçon 11</p> <p>第10回 Leçon 11</p> <p>第11回 Leçon 12</p> <p>第12回 Leçon 12</p> <p>第13回 まとめ 1</p> <p>第14回 まとめ 2</p> <p>第15回 まとめ 3</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 小テスト(30%)		
実務経験について			

授業科目	中国語 I (A)		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習</p> <p>第 3 回 発音 (2)：複母音の導入、練習</p> <p>第 4 回 発音 (3)：子音の導入、練習</p> <p>第 5 回 発音 (4)：子音の練習、発音のまとめ</p> <p>第 6 回 動詞是の使い方</p> <p>第 7 回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方</p> <p>第 8 回 これまでの復習</p> <p>第 9 回 動詞文の導入と練習</p> <p>第 10 回 動詞文の練習、疑問文の練習</p> <p>第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文</p> <p>第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習</p> <p>第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第 14 回 全体の復習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関する発表またはレポート (10%)、口頭試験 (50%) で評価する			
実務経験について				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語 I (B)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介 DVD や、期間中 1 回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション 中国語について 教科書の使い方</p> <p>第 2 回 発音篇 (1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音</p> <p>第 3 回 発音篇 (2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ</p> <p>第 4 回 第 0 課 名前について話す</p> <p>第 5 回 第 1 課 (1) 身分や出身について話す</p> <p>第 6 回 第 1 課 (2) 身分や出身について話す</p> <p>第 7 回 第 2 課 (1) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 8 回 第 2 課 (2) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第 9 回 第 3 課 (1) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第 10 回 第 3 課 (2) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第 11 回 第 4 課 (1) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第 12 回 第 4 課 (2) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第 13 回 第 5 課 (1) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第 14 回 第 5 課 (2) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第 15 回 前期のまとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%) 但し状況により変更の可能性もあります。			
実務経験について				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅰ (C)		担当者	孟 卓然
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度(後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーションCEFR A1レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 発音編1:単母音、複合母音、声調について学ぶ</p> <p>第3回 発音編2:鼻母音、子音について学ぶ</p> <p>第4回 発音編3:発音編まとめ</p> <p>第5回 第1課:「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ</p> <p>第6回 第1課:自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ</p> <p>第7回 第2課:指示代名詞、疑問文について学ぶ</p> <p>第8回 第2課:指示代名詞、疑問文について復習する</p> <p>第9回 第3課:数字の表現について学ぶ</p> <p>第10回 第3課:「有/没有」の文型について学ぶ</p> <p>第11回 第4課:時間と曜日の表現について学ぶ</p> <p>第12回 第4課:時刻の表現について学ぶ</p> <p>第13回 第5課:形容詞について学ぶ</p> <p>第14回 第5課:程度副詞について学ぶ</p> <p>第15回 前期授業内容のまとめと復習</p>			
授業外学習(予習・復習)	単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。			
成績評価の方法	授業での発言内容(50%)＋定期試験(50%)			
実務経験について	なし			

(注) 英語英文学専攻、経済専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅰ (D)		担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人</p> <p>第2回 我叫王平</p> <p>第3回 这里是南京路</p> <p>第4回 现在几点了?</p> <p>第5回 今天是星期几?</p> <p>第6回 你家有几口人?</p> <p>第7回 没关系 (映画)</p> <p>第8回 香港的夏天热吗? (映画)</p> <p>第9回 四川菜很好吃 (中間テスト)</p> <p>第10回 我经常散步</p> <p>第11回 牌价是多少?</p> <p>第12回 汉语难不难?</p> <p>第13回 我没吃蒜</p> <p>第14回 我想去超市</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			
実務経験について				

(注) 英語英文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅰ (E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了時に対応
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース。</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする</p> <p>【到達目標】1 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。2 ピンイン、声調記号が読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 発音、声調</p> <p>第2回 発音、声調</p> <p>第3回 発音、声調</p> <p>第4回 発音、声調</p> <p>第5回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 “的”、“是”について</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 動詞述語文、連動文</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 “在”構文、方位詞</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部准教授。		

(注) 経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅰ (F)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 中国語について 教科書の使い方</p> <p>第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音</p> <p>第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ</p> <p>第4回 第0課 名前について話す</p> <p>第5回 第1課(1) 身分や出身について話す</p> <p>第6回 第1課(2) 身分や出身について話す</p> <p>第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す</p> <p>第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す</p> <p>第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す</p> <p>第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す</p> <p>第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進捗その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		
実務経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語 I (G)		担当者	土肥 克己			
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること			
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 声調と母音</p> <p>第3回 子音</p> <p>第4回 発音のまとめ</p> <p>第5回 表記の規則</p> <p>第6回 クラス名簿, あいさつ (1)</p> <p>第7回 クラス名簿, あいさつ (2)</p> <p>第8回 数字, お金, 時刻 (1)</p> <p>第9回 数字, お金, 時刻 (2)</p> <p>第10回 数字, お金, 時刻 (3)</p> <p>第11回 簡単な動詞の文 (1)</p> <p>第12回 簡単な動詞の文 (2)</p> <p>第13回 意思表示, 誘いかた (1)</p> <p>第14回 意思表示, 誘いかた (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。						
成績評価の方法	作文と小テスト 50%, 定期試験 50%						
実務経験について	なし						

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語 I (H)		担当者	孟 卓然			
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで対応します。			
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注) [授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心にを行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度(後期終了時の目標)</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 発音編1: 単母音、複合母音、声調について学ぶ</p> <p>第3回 発音編2: 鼻母音、子音について学ぶ</p> <p>第4回 発音編3: 発音編まとめ</p> <p>第5回 第1課: 「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ</p> <p>第6回 第1課: 自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ</p> <p>第7回 第2課: 指示代名詞、疑問文について学ぶ</p> <p>第8回 第2課: 指示代名詞、疑問文について復習する</p> <p>第9回 第3課: 数字の表現について学ぶ</p> <p>第10回 第3課: 「有没有」の文型について学ぶ</p> <p>第11回 第4課: 時間と曜日の表現について学ぶ</p> <p>第12回 第4課: 時刻の表現について学ぶ</p> <p>第13回 第5課: 形容詞について学ぶ</p> <p>第14回 第5課: 程度副詞について学ぶ</p> <p>第15回 前期授業内容のまとめと復習</p>						
授業外学習(予習・復習)	単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。						
成績評価の方法	授業での発言内容(50%)＋定期試験(50%)						
実務経験について	なし						

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (A)		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語12課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、前期の復習</p> <p>第2回 動詞「有」の導入、練習</p> <p>第3回 動詞「在」の導入、練習</p> <p>第4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第5回 年月日、曜日の言い方の練習</p> <p>第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入、練習</p> <p>第7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第8回 復習(1) これまでの内容の復習</p> <p>第9回 形容詞述語文の導入、練習</p> <p>第10回 時刻の言い方の導入、練習</p> <p>第11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第12回 お金の言い方の導入、練習</p> <p>第13回 量詞の導入、練習</p> <p>第14回 復習(4)：全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト(40%)と中国に関するレポート(10%)、口頭試験(50%)で評価する			
実務経験について				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (B)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課(1) 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課(2) 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。			
実務経験について				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (C)		担当者	孟 卓然
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールで対応します。
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、趣味、経験などの日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度(後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーションCEFR A1レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、前期の復習</p> <p>第2回 第6課:趣味や好みについての表現を学ぶ</p> <p>第3回 第6課:「会」、「能」の文型について学ぶ</p> <p>第4回 第7課:家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ</p> <p>第5回 第7課:量詞について学ぶ</p> <p>第6回 第8課:場所、方向についての表現を学ぶ</p> <p>第7回 第8課:「在」の文型について学ぶ</p> <p>第8回 第9課:交通手段についての表現を学ぶ</p> <p>第9回 第9課:交通手段についての表現を復習する</p> <p>第10回 第10課:動作の発生と進行についての表現を学ぶ</p> <p>第11回 第10課:動作の発生と進行についての表現を復習する</p> <p>第12回 第11課:中国のお金の単位について学ぶ</p> <p>第13回 第11課:「是...的」と「些」の文型について学ぶ</p> <p>第14回 パフォーマンス課題</p> <p>第15回 後期授業内容のまとめと復習</p>			
授業外学習(予習・復習)	単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。			
成績評価の方法	授業での発言内容(50%)＋定期試験(50%)			
実務経験について	なし			

(注) 英語英文学専攻, 経済専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (D)		担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳-日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过, 听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			
実務経験について				

(注) 英語英文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了時に対応
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース。</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</p> <p>第2回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</p> <p>第4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 時間の長さの言い方、完了の“了”</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 前置詞、助動詞1</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%		
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部准教授。		

(注) 経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (F)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで対応します。k9553472@kadai.jp
		[必修/選択]	選択(注) [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す</p> <p>第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す</p> <p>第5回 第8課(1) 場所や存在について話す</p> <p>第6回 第8課(2) 場所や存在について話す</p> <p>第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す</p> <p>第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す</p> <p>第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す</p> <p>第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す</p> <p>第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語</p> <p>第15回 授業まとめ*スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%)+授業中に実施する小テスト(10%)+授業での発言内容(40%)但し状況により変更の可能性もあります。		
実務経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (G)		担当者	土肥 克己		
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること		
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 連続動作, 意向確認 (1)</p> <p>第2回 連続動作, 意向確認 (2)</p> <p>第3回 なに? どこ? だれ? (1)</p> <p>第4回 なに? どこ? だれ? (2)</p> <p>第5回 モノ (1)</p> <p>第6回 モノ (2)</p> <p>第7回 場所 (1)</p> <p>第8回 場所 (2)</p> <p>第9回 状態 (1)</p> <p>第10回 状態 (2)</p> <p>第11回 態度, ある瞬間 (1)</p> <p>第12回 態度, ある瞬間 (2)</p> <p>第13回 1年間の復習 (1)</p> <p>第14回 1年間の復習 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。					
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%					
実務経験について	なし					

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅱ (H)		担当者	孟 卓然		
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで対応します。		
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる。</p> <p>【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、趣味、経験などの日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心にいきます。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度(後期終了時の目標)</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 寺西光輝『使って学ぶ! 中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社</p> <p>(2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、前期の復習</p> <p>第2回 第6課: 趣味や好みについての表現を学ぶ</p> <p>第3回 第6課: 「会」、「能」の文型について学ぶ</p> <p>第4回 第7課: 家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ</p> <p>第5回 第7課: 量詞について学ぶ</p> <p>第6回 第8課: 場所、方向についての表現を学ぶ</p> <p>第7回 第8課: 「在」の文型について学ぶ</p> <p>第8回 第9課: 交通手段についての表現を学ぶ</p> <p>第9回 第9課: 交通手段についての表現を復習する</p> <p>第10回 第10課: 動作の発生と進行についての表現を学ぶ</p> <p>第11回 第10課: 動作の発生と進行についての表現を復習する</p> <p>第12回 第11課: 中国のお金の単位について学ぶ</p> <p>第13回 第11課: 「是...的」と「些」の文型について学ぶ</p> <p>第14回 パフォーマンス課題</p> <p>第15回 後期授業内容のまとめと復習</p>					
授業外学習(予習・復習)	単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。					
成績評価の方法	授業での発言内容(50%)＋定期試験(50%)					
実務経験について	なし					

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20~25人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	中国語Ⅲ		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】 この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験4級を取得することを旨とする。同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習</p> <p>第2回 年齢の言い方と尋ね方</p> <p>第3回 前置詞「在」(～で～をする)の導入、練習</p> <p>第4回 完了の「了」の導入、練習</p> <p>第5回 時間量の言い方の導入、練習</p> <p>第6回 文末詞「了」の導入、練習</p> <p>第7回 場所の言い方の導入、練習</p> <p>第8回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習</p> <p>第9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。</p> <p>第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成</p> <p>第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正</p> <p>第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読む練習</p> <p>第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習、通し稽古</p> <p>第14回 中国語で寸劇⑤：発表</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	小テスト (50%)、口頭試験 (50%) で評価する							
実務経験について								

(注) 生活科学科を除く。

授業科目	中国語Ⅳ		担当者	土肥 克己				
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 発音の復習 (1)</p> <p>第3回 発音の復習 (2)</p> <p>第4回 発音の復習 (3)</p> <p>第5回 発音の復習 (4)</p> <p>第6回 講読 (1)</p> <p>第7回 講読 (2)</p> <p>第8回 講読 (3)</p> <p>第9回 講読 (4)</p> <p>第10回 講読 (5)</p> <p>第11回 講読 (6)</p> <p>第12回 講読 (7)</p> <p>第13回 講読 (8)</p> <p>第14回 講読 (9)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。							
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。							
実務経験について	なし							

(注) 生活科学科を除く。

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ健康論		担当者	浜田 幸史	
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯を通じて自他のスポーツライフや健康を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】する、見る、支える、知るといった生涯にわたる豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにするため、運動やスポーツが健康に与える効果、運動やスポーツの行い方、ライフスタイルの在り方等について理解したり、考察したりする。</p> <p>【到達目標】個人・社会生活におけるスポーツと健康について理解し、その課題を他者に伝えることができる。現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとする態度を示すことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の教科書 その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、健康とは、保健科教育・健康教育の概要</p> <p>第 2 回 スポーツとは、体育科教育・スポーツ教育の概要</p> <p>第 3 回 スポーツと健康、生活習慣病の予防、レポート①</p> <p>第 4 回 スポーツ・健康と食</p> <p>第 5 回 スポーツ・健康とストレス、休養・睡眠</p> <p>第 6 回 スポーツ・健康と実践計画、運動処方、レポート②</p> <p>第 7 回 スポーツ・健康と環境</p> <p>第 8 回 まとめ</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p>				
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び提出課題、筆記試験（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

教職必修

食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

授業科目	生涯スポーツ実習 (A)		担当者	浜田 幸史	
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第 2 回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第 3 回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第 4 回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第 5 回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第 6 回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第 7 回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第 8 回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 9 回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第 10 回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第 11 回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第 12 回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第 13 回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第 14 回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第 15 回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>				
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

教職必修

授業科目	生涯スポーツ実習 (B)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを継続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

教職必修

授業科目	生涯スポーツ実習 (C)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを継続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

教職必修

授業科目	生涯スポーツ実習 (D)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

教職必修

授業科目	生涯スポーツ実習 (E)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

授業科目	生涯スポーツ実習 (E)		担当者	道向
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前または終了後
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり (体力づくり、仲間づくり)</p> <p>【概要】ラケットスポーツとしてテニス、卓球、バドミントンをとりあげ、クラスメートと各種ゲーム、活動を楽しめるようになることを目指す。体力づくりや仲間づくりを意識しつつ、ペアまたはグループで段階的に学習することを通して、各自の能力に応じた技術や動き、プレイスタイルなどを模索する。あわせてスポーツの持つ「コミュニケーション促進力」や「健康増進可能性」など、さまざまな可能性を全体的に追求する。</p> <p>【到達目標】各種目でシングルス、団体戦のゲームができるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 必要に応じてプリントを配布する。※シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること (2)			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション テニス グループ分け、器具・用具の準備と使い方の理解、基本練習 1</p> <p>第 2回 テニス 基本練習 2、ミニゲームへのトライ 1</p> <p>第 3回 テニス 基本練習 3、2分間ラリー、ミニゲームへのトライ 2</p> <p>第 4回 テニス 基本練習 4、戦い方の模索、ミニゲームへのトライ 3</p> <p>第 5回 テニス ミニゲーム団体戦</p> <p>第 6回 卓球 グループ分け、器具・用具の準備と使い方の理解、基本練習 1</p> <p>第 7回 卓球 基本練習 2、シングルスルールの理解、ゲーム 1</p> <p>第 8回 卓球 基本練習 3、2分間ラリー、ゲーム 2</p> <p>第 9回 卓球 基本練習 4、戦い方の模索、ゲーム 3</p> <p>第 10回 卓球 団体戦</p> <p>第 11回 バドミントン グループ分け、器具・用具の準備と使い方の理解、基本練習 1</p> <p>第 12回 バドミントン 基本練習 2、ハーフコートシングルス</p> <p>第 13回 バドミントン 基本練習 3、シングルスルールの理解、ゲーム</p> <p>第 14回 バドミントン 基本練習 4、シングルスゲーム団体戦 1</p> <p>第 15回 バドミントン シングルスゲーム団体戦 2、</p>			
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保つておくこと			
成績評価の方法	出席・課題への取り組み状況 (40%)、運動能力全般 (20%)、小レポートおよび期末レポート (40%)			
実務経験について				

授業科目	生涯スポーツ実習 (F)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動 (誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等)、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 体育・スポーツ・健康概論 (ナカニシヤ出版、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第 2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第 3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第 4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第 5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第 6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第 7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第 8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第 10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第 11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第 12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第 13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第 14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第 15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況 (80%)、レポート (20%) 等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

授業科目	生涯スポーツ実習 (F)	担当者	浜田 幸史
	[履修年次] 1年	授業外対応	随時
	[学期] 後期 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第 2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第 3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第 4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第 5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第 6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第 7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第 8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第 10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第 11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第 12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第 13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第 14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第 15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>		
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。		
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。		
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。		

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	上野 祐子	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応(要予約)	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集、段落罫線)、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)、Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(3)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力、オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照)、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ)、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	上野 祐子	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応(要予約)	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)、USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集、段落罫線)、課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)、Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)、情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(3)、検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力、オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照)、ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ)、課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期 [単位] 1単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用), Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用), 情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(3), 検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期 [単位] 1単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用), Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用), 情報セキュリティ 10 大脅威</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(3), 検索練習問題</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (配布プリント使用), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)		担当者	永仮 ゆかり
	〔履修年次〕 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2023 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1：ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成：表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用：ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（30%）の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師			

授業科目	情報リテラシー I (F)		担当者	永仮 ゆかり
	〔履修年次〕 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2024 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1：ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成：表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用：ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（30%）の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師			

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商PC検定3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題1</p> <p>第5回 第13章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商PC検定3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題1</p> <p>第5回 第13章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。				
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期 [単位] 1単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商PC検定3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題1</p> <p>第5回 第13章アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期 [単位] 1単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し, 必要な情報を収集・選択・加工し, 受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために, 日商PC検定3級問題集を用いて, ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット, 情報セキュリティを守る技術等, ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて, 簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Word 及び Excel の基本操作の復習, レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第2回 第10章 PowerPoint さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第3回 第11章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ, スライドの作成, 図形, SmartArt グラフィック)</p> <p>第4回 第12章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果, アニメーション, 印刷), 課題1</p> <p>第5回 第13章アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携, Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第6回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第7回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第8回 Word 練習問題 (配布プリント使用), 課題2</p> <p>第9回 第9章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第10回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第11回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用), 課題3</p> <p>第12回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第13回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第14回 ビジネス実務を想定した問題演習2 (配布プリント使用)</p> <p>第15回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)		担当者	刈屋 美枝子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級(経験者：E)と初級(初心者：F)に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>				
(1)テキスト	(1) なし				
(2)参考文献	(2) 随時、資料ファイルを配信。				
授業スケジュール	第 1回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への要望など) 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 インターネット検索の基本 第1回課題 第 7回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択 第 8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第 9回 WORD での画像の活用 (1) 第 10回 WORD での画像の活用 (2) 第2回課題 第 11回 ファイルの応用的処理…圧縮・展開 第 12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト 第 13回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携 第 14回 インターネットの活用…クラウドの利用 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	授業前後。メールでの質問にも随時対応。				
成績評価の方法	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
実務経験について	2回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価				

本学パソコン講師 20年以上、実務翻訳業 20年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)		担当者	刈屋 美枝子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の3専攻を合わせて中級(経験者：E)と初級(初心者：F)に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール(学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>				
(1)テキスト	(1) なし				
(2)参考文献	(2) 随時、資料ファイルを配信。				
授業スケジュール	第 1回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への要望など) 第 5回 パソコンによる効率的な検索 第 6回 インターネット検索の基本 第2回課題 第 7回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択 第 8回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第 9回 WORD での画像の活用 (2) 第 10回 WORD での画像の活用 (2) 第3回課題 第 11回 ファイルの応用的処理…圧縮・展開 第 12回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト 第 13回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携 第 14回 インターネットの活用…クラウドの利用 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	授業前後。メールでの質問にも随時対応。				
成績評価の方法	3回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
実務経験について	2回の課題 (70%) と実技試験 (31%) の総合評価				

本学パソコン講師 20年以上、実務翻訳業 21年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論		担当者	木戸裕子・竹本寛秋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社(担当者:木戸)</p> <p>(2) プリント(担当者:竹本)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは、仮名史について:くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学(写本と板本)、書誌学について:くずし字の読み方2</p> <p>第4回 古典の季節観と暦:くずし字の読み方3</p> <p>第5回 古典文学研究の方法1:くずし字小テスト</p> <p>第6回 古典文学研究の方法2:くずし字の読み方4</p> <p>第7回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり:くずし字の読み方5</p> <p>第8回 総括1:前半のまとめ</p> <p>第9回 近代文学を学ぶとは:文学理論について</p> <p>第10回 「読む」ときに行われていること:解釈モデルについて</p> <p>第11回 「作者」とは何か:作者/作品/テキストについて</p> <p>第12回 「語り」とは何か:ナラトロジーについて</p> <p>第13回 「物語」とは何か:物語の構造について</p> <p>第14回 論文の書き方</p> <p>第15回 総括2:後半のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。							
成績評価の方法	授業で指示する課題など。							
実務経験について	なし							

授業科目	言語学概論		担当者	楊虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1):調音音声学、子音・母音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2):モーラ、音節①</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3):モーラ、音節②</p> <p>第5回 音声学・音韻論(4):連濁、枝分かれ制約</p> <p>第6回 形態論(1):形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第7回 形態論(2):新語、流行語</p> <p>第8回 意味論(1):単語の意味</p> <p>第9回 意味論(2):類義語と対義語</p> <p>第10回 語用論(1):発話行為論①</p> <p>第11回 語用論(2):発話行為論②</p> <p>第12回 語用論(3):発話機能と語学教育</p> <p>第13回 言語コミュニケーションと社会:対人関係と地域差</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題:50%、期末試験:50%							
実務経験について	なし							

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第2回 現代日本語の音声と音韻1：音声器官、音声記号</p> <p>第3回 現代日本語の音声と音韻2：日本語の母音、母音の無声化、促音化</p> <p>第4回 現代日本語の音声と音韻3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第5回 現代日本語の音声と音韻4：音声と音韻、音素と異音</p> <p>第6回 現代日本語の音声と音韻5：相補分布、条件異音と自由異音、特殊音素</p> <p>第7回 現代日本語の音声と音韻6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第8回 現代日本語の音声と音韻7：アクセント、イントネーション、プロミネンス</p> <p>第9回 現代日本語の文字・表記1：日本語の表記の特色</p> <p>第10回 現代日本語の文字・表記2：漢字表、字音と字訓、漢字の成り立ち</p> <p>第11回 現代日本語の文字・表記3：平仮名、片仮名、ローマ字</p> <p>第12回 現代日本語の語彙1：語と語彙、語構成</p> <p>第13回 現代日本語の語彙2：語種（和語、漢語、外来語、混種語）</p> <p>第14回 現代日本語の文法3：語彙と語彙量（語彙の系統性、理解語彙と使用語彙）</p> <p>第15回 復習とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。			
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%）、小テストの成績（40%）			
実務経験について				

(注) 日本語日文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語日文学専攻では、2年次 選択科目。
なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②：授業見学</p> <p>第9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%			
実務経験について				

授業科目	日本語史		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】 古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】 上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 沖森卓也『日本語全史』(ちくま新書)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分</p> <p>第 2回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則</p> <p>第 3回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語</p> <p>第 4回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生</p> <p>第 5回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用</p> <p>第 6回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化</p> <p>第 7回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混濁文，直音と拗音，開合，連声</p> <p>第 8回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊</p> <p>第 9回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化</p> <p>第 10回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達</p> <p>第 11回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第 12回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字</p> <p>第 13回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化</p> <p>第 14回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用</p> <p>第 15回 日本語学史</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通していただくこと。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）							
実務経験について								

(注) 日本語日本文学専攻の学生は、1年次 必修科目かつ教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代日本語の文法について学ぶ。</p> <p>【概要】 現代日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】 現代日本語文法の基礎的な知識を身につけ、身の回りの言語現象について分析できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：文とは，文法とは</p> <p>第 2回 品詞論 1：名詞（普通名詞・固有名詞，代名詞，形式名詞）</p> <p>第 3回 品詞論 2：動詞（活用，自動詞・他動詞，意志動詞・無意志動詞，本動詞・補助動詞）</p> <p>第 4回 品詞論 3：形容詞，副詞，連体詞，接続詞，感動詞</p> <p>第 5回 品詞論 4：助詞（格助詞，副助詞，係助詞，接続助詞，終助詞）</p> <p>第 6回 品詞論 5：復習とまとめ</p> <p>第 7回 構文論 1：文の種類</p> <p>第 8回 構文論 2：ヴォイス（受身，使役）</p> <p>第 9回 構文論 3：アスペクト</p> <p>第 10回 構文論 4：テンス</p> <p>第 11回 構文論 5：モダリティ</p> <p>第 12回 構文論 6：連体修飾</p> <p>第 13回 構文論 7：条件節</p> <p>第 14回 構文論 8：「は」と「が」</p> <p>第 15回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでいただくこと。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講義		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題について、より専門的な見地から分析・考察する。 また「日本語学概論」で扱わなかった内容についても検討し、より広範な日本語学的知識を獲得する。</p> <p>【概要】 日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ 第 2回 音の作り方1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション 第 3回 音の作り方2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論 第 4回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析 第 5回 意味の世界1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー 第 6回 意味の世界2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ 第 7回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞 第 8回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法） 第 9回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性 第 10回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析 第 11回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用 第 12回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画 第 13回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動 第 14回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング 第 15回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績及び授業での発言内容（30%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講読 I		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか，具体的にはどのような現象を対象とするのか，観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか，といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 普段何気なく使用している「日本語」という言語について，客観的に眺めることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞 第 2回 意味1：2つのカテゴリー観について 第 3回 意味2：意味の拡張，同音異義と多義 第 4回 意味3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩） 第 5回 意味4：「意義・言葉・経験」（渡辺実） 第 6回 意味5：日本語の助詞・助動詞の多義 第 7回 日本語と他言語との比較（言語類型論） 第 8回 音声と文字：文字と標記の不一致，長音 第 9回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し 第 10回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略 第 11回 話し言葉と書き言葉1：話し言葉の特徴 第 12回 話し言葉と書き言葉2：書き言葉の特徴 第 13回 コミュニケーションの失敗：会話の意図 第 14回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆 第 15回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績（30%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講読Ⅱ		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の方言 (学) に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】 日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらおう。</p> <p>【到達目標】 方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の進め方の説明 第 2 回 方言の区画と東西差, 方言周囲論 第 3 回 発音・アクセント・イントネーションの地域差① 第 4 回 発音・アクセント・イントネーションの地域差② 第 5 回 アスペクト・条件表現の地域差 第 6 回 オノマトペ・あいさつの地域差 第 7 回 研究発表準備 第 8 回 研究発表 第 9 回 話の進め方・コミュニケーション意識の地域差 第 10 回 敬語表現・卑罵表現の地域差 第 11 回 共通語化の進行, 方言と共通語の使い分け 第 12 回 方言に対する受け止め方の変化, 方言コンプレックス, 方言プレステージ 第 13 回 リアル方言とヴァーチャル方言, 方言コスプレ 第 14 回 研究発表準備 第 15 回 研究発表</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習: 次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。/復習: 毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート等持ち込み可) と研究発表の成績 (70%), 小テストの成績 (30%)			
実務経験について				

授業科目	日本語学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入: 授業の概要を説明, 担当者を決める。 第 2 回 導入: 教師による発表 第 3 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 4 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 5 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 6 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 7 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 8 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 9 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 10 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 11 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 12 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 13 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 14 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。			
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)			
実務経験について				

授業科目	日本語学演習Ⅱ		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。適切にレポートを書くことができる。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。				
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。</p> <p>第 2 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)				
実務経験について					

授業科目	日本語学演習Ⅳ・Ⅵ		担当者	楊 虹	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。				
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第 2 回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3 回 配慮を考えるとときの視点① (2年生担当)</p> <p>第 4 回 配慮を考えるとときの視点② (2年生担当)</p> <p>第 5 回 配慮を考えるとときの視点③ (2年生担当)</p> <p>第 6 回 日本語の配慮の多面性① (1年生担当)</p> <p>第 7 回 日本語の配慮の多面性② (1年生担当)</p> <p>第 8 回 卒論中間報告 (2年生)</p> <p>第 9 回 役割語① (2年生担当)</p> <p>第 10 回 役割語② (2年生担当)</p> <p>第 11 回 談話分析 (1年生)</p> <p>第 12 回 会話分析 (1年生)</p> <p>第 13 回 卒論計画発表 (1年生)</p> <p>第 14 回 卒論発表練習 (2年生)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価、期末レポート：50%				
実務経験について					

授業科目	日本語学演習Ⅴ		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。</p> <p>第 2回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 レポート作成指導①</p> <p>第 6回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 レポート作成指導②</p> <p>第 8回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 レポート作成指導③</p> <p>第 11回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 レポート作成指導④</p> <p>第 13回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。							
成績評価の方法	期末レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%							
実務経験について								

授業科目	日本語表現法		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば (特に文章表現) によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 ことば (特に文章表現) によって事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を身につける。</p> <p>【到達目標】 口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：自己紹介</p> <p>第 2回 絵をことばに変える，ことばを絵に変える (図，空間，地図)</p> <p>第 3回 情報収集の方法：辞典・事典類の活用法，図書館の利用法</p> <p>第 4回 ネット利用：ドメイン，電子メール利用，リンク集作成</p> <p>第 5回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報</p> <p>第 6回 調査開始：班分け発表，リーダー選出，図書館・ネット調査</p> <p>第 7回 調査実施：課題についての調査続行，中間報告</p> <p>第 8回 中間発表：口頭発表と質疑応答</p> <p>第 9回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第 10回 レポート：文章表現の基本 (文体，表記，原稿の使い方)</p> <p>第 11回 レポート：文章を書く技法 (パラグラフライティング，推敲)</p> <p>第 12回 レポート：電子ツールを用いた文書作成法 (マッピング，アウトラインプロセッサ，編集)</p> <p>第 13回 レポート：わかりやすく書く技法</p> <p>第 14回 レポート：提出</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課す。また，毎授業冒頭に小テストを行う。							
成績評価の方法	レポート (40%) + 小テスト (30%) + 課題 (30%)							
実務経験について								

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】 前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらおう。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。 その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト	(1) 未定			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。			
授業スケジュール	第 1回 プレゼンテーションの基本 (目的と態度) 第 2回 スライドのデザインと制作1 第 3回 スライドのデザインと制作2 第 4回 プレゼンテーション実践 第 5回 課題レポート1：作成 第 6回 課題レポート1：発表 第 7回 課題レポート1：討論 第 8回 課題レポート2：作成 第 9回 課題レポート2：発表 第 10回 課題レポート2：討論 第 11回 課題レポート3：作成 第 12回 課題レポート3：発表 第 13回 課題レポート3：討論 第 14回 試験レポート：資料収集 第 15回 試験レポート：テーマに関する討論			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査, 図書館調査, レポート作成など, 毎回授業の中で指示する。なお, 毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	成果資料 (レポート, PPT) の出来 (50%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (20%)			
実務経験について				

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語 (英語, 中国語) の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。			
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照 (1)：主語の立て方 第 3回 日英中の対照 (2)：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照 (3)：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照 (4)：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照 (5)：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照 (6)：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照 (7)：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照 (8)：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照 (9)：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照 (10)：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照 (11)：言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%、レポート：40%			
実務経験について				

授業科目	日本文学史・古典Ⅰ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2回 古代その1：上代の説話文学（1）</p> <p>第 3回 古代その2：上代の説話文学（2）</p> <p>第 4回 古代その3：上代の説話文学（3）</p> <p>第 5回 古代その4：祝詞・宣命</p> <p>第 6回 古代その5：漢詩文</p> <p>第 7回 古代その6：上代の和歌・歌謡（1）</p> <p>第 8回 古代その7：上代の和歌・歌謡（2）</p> <p>第 9回 古代その8：上代の和歌・歌謡（3）</p> <p>第10回 古代その9：中古の漢詩文（1）</p> <p>第11回 古代その10：中古の漢詩文（2）</p> <p>第12回 古代その11：中古の和歌（1）</p> <p>第13回 古代その12：中古の和歌（2）</p> <p>第14回 古代その13：中古の物語（1）</p> <p>第15回 古代その14：中古の物語（2）</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 古代その15：中古の物語（3）源氏物語</p> <p>第 2回 古代その16：中古の物語（4）源氏物語</p> <p>第 3回 古代その17：中古の日記</p> <p>第 4回 古代その18：中古の随筆</p> <p>第 5回 古代その19：中古の歴史物語</p> <p>第 6回 古代その20：中古の説話</p> <p>第 7回 中世その1：中世の和歌（1）</p> <p>第 8回 中世その2：中世の和歌（2）</p> <p>第 9回 中世その3：中世の和歌（3）</p> <p>第10回 中世その4：連歌・歌謡</p> <p>第11回 中世その5：中世の漢詩文</p> <p>第12回 中世その6：物語・日記・紀行・随筆</p> <p>第13回 中世その7：歴史物語・説話文学</p> <p>第14回 中世その8：戦記物語・謡曲</p> <p>第15回 中世その9：謡曲・狂言</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】紫式部と一条朝の女房達</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」と批判している。また、その他の同僚女房についても赤染衛門や和泉式部について長所や短所を交えて批評している。自分自身については漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。『紫式部日記』の記述と、それ以外の史料から見て取れる彼女たちの実態はどのように違うのか、又は同じなのか。2024年度の大河ドラマの主人公ともなった紫式部と</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシック『紫式部日記』角川ソフィア文庫 上村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』新典社 久保木寿子『和泉式部実存を見つめる』新典社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：『紫式部日記』に見る女房評</p> <p>第 2回 紫式部（1）：紫式部の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 3回 紫式部（2）：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第 4回 紫式部（3）：源氏物語</p> <p>第 5回 清少納言（1）：清少納言の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 6回 清少納言（2）：『枕草子』随想的章段に見る清少納言の仕事観</p> <p>第 7回 清少納言（3）：『枕草子』日記的章段に見る清少納言と定子</p> <p>第 8回 和泉式部（1）：和泉式部の系図と説話に見る評判</p> <p>第 9回 和泉式部（2）：『和泉式部日記』和泉式部は恋多き女か</p> <p>第 10回 和泉式部（3）：『和泉式部集』歌人和泉式部</p> <p>第 11回 赤染衛門（1）：赤染衛門の系図と赤染衛門良妻賢母説</p> <p>第 12回 赤染衛門（2）：『赤染衛門集』夫大江匡衡との関係</p> <p>第 13回 赤染衛門（3）：『赤染衛門集』代作する赤染衛門</p> <p>第 14回 赤染衛門（4）：『赤染衛門集』赤染衛門と清少納言、和泉式部</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）20% レポート80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『万葉集』巻一、二の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『万葉集』は現存する日本最古の歌集だが、その中でも巻一、巻二はもっとも古い時代の歌が収録されており、また、勅撰集の性質の強い巻と考えられている。この二巻の作品を読むことで、上代人にとっての歌とは何かを考えたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『万葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之校注『万葉集』(1) 岩波文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 『万葉集』について（编者、諸本、万葉仮名など）</p> <p>第 2回 巻一、巻二について。教員による模範演習</p> <p>第 3回 『万葉集』巻一輪読その1：雑歌1</p> <p>第 4回 その2：雑歌2</p> <p>第 5回 その3：雑歌3</p> <p>第 6回 その4：雑歌4</p> <p>第 7回 その5：雑歌5</p> <p>第 8回 『万葉集』巻二輪読その1：相聞1</p> <p>第 9回 その2：相聞2</p> <p>第 10回 その3：相聞3</p> <p>第 11回 その4：相聞4</p> <p>第 12回 その5：挽歌1</p> <p>第 13回 その6：挽歌2</p> <p>第 14回 その7：挽歌3</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>				
(1)テキスト	(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院				
(2)参考文献	(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2：二条後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講読Ⅲ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「桐壺」を読む。「桐壺」は源氏物語五十四帖の冒頭で、高等学校の国語の時間にその書き出しの部分『いずれの御時にか、女御更衣.....』は必ず学ぶ、有名な巻である。桐壺帝と桐壺更衣の間に生まれた皇子が、なぜ皇族ではなく源の姓を賜り臣下となったのか、その後の光源氏の人生を方向付ける巻を丁寧に読んでいく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>				
(1)テキスト	(1) 片桐 洋一 編『首書 源氏物語 総論・桐壺』和泉書院				
(2)参考文献	(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺』至文堂				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第3回 「桐壺」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第4回 「桐壺」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第5回 「桐壺」輪読：その2</p> <p>第6回 「桐壺」輪読：その4</p> <p>第7回 「桐壺」輪読：その5</p> <p>第8回 補足説明：紫式部と「桐壺」と漢詩文</p> <p>第9回 「桐壺」輪読：その6</p> <p>第10回 「桐壺」輪読：その7</p> <p>第11回 「桐壺」輪読：その8</p> <p>第12回 「桐壺」輪読：その9</p> <p>第13回 「桐壺」輪読：その10</p> <p>第14回 「桐壺」輪読：その11</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『篁物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方</p> <p>第3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習</p> <p>第4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2</p> <p>第5回 篁物語を読む：2</p> <p>第6回 篁物語を読む：3</p> <p>第7回 篁物語を読む：4</p> <p>第8回 篁物語を読む：5</p> <p>第9回 篁物語を読む：6</p> <p>第10回 篁物語を読む：7</p> <p>第11回 篁物語を読む：8</p> <p>第12回 篁物語を読む：9</p> <p>第13回 篁物語を読む：10</p> <p>第14回 篁物語を読む：11</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	<p>日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート 80%</p> <p>日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表 80%</p>				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『篁物語(たかむらものがたり)』を読む。篁物語は平安初期に実在した文人・官僚であった小野篁を主人公とした歌物語で、『小野篁集』の題で私家集として扱われることもある。篁と妹をめぐる物語を読む中で、平安時代における、物語と家集の関係を考えてとともに、平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認</p> <p>第2回 篁物語について：</p> <p>第3回 篁物語を読む：1</p> <p>第4回 篁物語を読む：2</p> <p>第5回 篁物語を読む：3</p> <p>第6回 篁物語を読む：4</p> <p>第7回 篁物語を読む：5</p> <p>第8回 篁物語を読む：6</p> <p>第9回 篁物語を読む：7</p> <p>第10回 篁物語を読む：8</p> <p>第11回 篁物語を読む：9</p> <p>第12回 篁物語を読む：10</p> <p>第13回 篁物語を読む：11</p> <p>第14回 篁物語を読む：12</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言(質問、意見など) 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講義Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】 今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』(思潮社)、他授業中に紹介する							
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために 第 2回 北村透谷『楚囚之詩』 第 3回 島崎藤村『若菜集』 第 4回 薄田泣菫『白羊宮』 第 5回 高村光太郎『道程』 第 6回 高村光太郎『道程』 第 7回 萩原朔太郎『月に吠える』 第 8回 萩原朔太郎『氷島』 第 9回 前半のまとめ 第 10回 大手拓次『藍色の墓』 第 11回 宮澤賢治『春と修羅』 第 12回 宮澤賢治『春と修羅』 第 13回 中原中也『山羊の歌』 第 14回 中原中也『山羊の歌』 第 15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。							
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学講義Ⅳ		担当者	丹羽 謙治				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	授業終了後に対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】井原西鶴の浮世草子を読む</p> <p>【概要】江戸時代前期の散文作品を鑑賞する。浮世草子という娯楽的な作品を多数世に送り出した大坂の作者、井原西鶴が当世をどのようなまなざしで描いたのかを考えながら、町人もの・雑話ものの浮世草子を中心に鑑賞する。</p> <p>【到達目標】江戸時代前期の風俗や習慣を正しく理解する。西鶴の人間を描く手法、文章表現の方法を理解する。</p>							
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。							
(2)参考文献	(2) 新編日本古典文学全集『井原西鶴集 一～三』(小学館) その他は授業中に紹介する。							
授業スケジュール	第 1回 導入 文学史における時代区分 第 2回 近世文学・近世文学の特質について 第 3回 仮名草子と浮世草子 第 4回 『好色一代男』の成立 第 5回 『西鶴諸国はなし』巻1の2「見せぬ所は女大工」 第 6回 『西鶴諸国はなし』巻1の4「傘の御託宣」 第 7回 『西鶴諸国はなし』巻3の2「面影の焼残り」 第 8回 『西鶴諸国はなし』巻3の5「行末の宝船」 第 9回 『懐硯』巻4の4「人真似は猿の行水」 第 10回 『西鶴置土産』巻1の1「大釜のぬく残し」 第 11回 『西鶴置土産』巻2の2「人には棒振虫同前に思はれ」 第 12回 『西鶴織留』巻6の1「官女の移り気」 第 13回 『西鶴織留』巻4の1「家主どのの鼻柱」 第 14回 『世間胸算用』巻1の4「鼠の文づかひ」 第 15回 『世間胸算用』巻4の3「亭主の入替り」							
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。							
成績評価の方法	期末試験							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽 謙治					
	〔履修年次〕	1,3年	授業外対応	授業終了後に対応					
		〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近世紀行文を読む。江戸後期の大名島津斉宣の紀行とその娘で佐土原藩に嫁いだ島津随真院の紀行を読み比べる。</p> <p>【概要】本授業では江戸後期、江戸から南九州まで旅をした人物の紀行文について、注釈を付けながら読み進め、作者の目がどのような点に注がれていたのかに注目しながら鑑賞する。</p> <p>【到達目標】江戸後期の言語・風俗・習慣などについて正しく認識し、文章表現のジェンダーの差について理解する。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 板坂耀子『江戸の紀行文』（中公新書）、崎山健文「史料紹介 文化二年春帰国紀行」（黎明館調査研究報告34）</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 島津斉宣とそのサロンについて</p> <p>第2回 島津斉宣と伊東陵舎</p> <p>第3回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 文化2年（1805）3月16日～25日</p> <p>第4回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年3月26日～27日</p> <p>第5回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年3月28日～4月1日</p> <p>第6回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年4月2日～6日</p> <p>第7回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年4月7日～9日</p> <p>第8回 島津随真院道中日記 文久3（1863）年3月8日～9日</p> <p>第9回 島津随真院道中日記 同年3月10日～14日</p> <p>第10回 島津随真院道中日記 同年3月15日～17日</p> <p>第11回 島津随真院道中日記 同年3月18日～20日</p> <p>第12回 島津随真院道中日記 同年3月21日～22日</p> <p>第13回 島津随真院道中日記 同年3月23日～24日</p> <p>第14回 島津随真院道中日記 同年3月25日～26日</p> <p>第15回 島津随真院道中日記 同年3月27日～28日</p>								
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。								
成績評価の方法	期末試験								
実務経験について									

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋					
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）					
		〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する</p> <p>【概要】</p> <p>日本近代の詩、短歌、小説を、様々な観点から読み解く。小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、テキストについて根拠を持って検討できるようになるとともに、現代を対象化する視点を身につける。</p> <p>※対象とする小説作品は変更の可能性がある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p> <p>テキストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第3回 結核の時代と文学</p> <p>第4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第5回 科学技術と文学</p> <p>第6回 中島敦「マリヤン」</p> <p>第7回 日本の国境と日本文学</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第10回 心理学と文学</p> <p>第11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第12回 原稿、草稿と文学</p> <p>第13回 太宰治「道化の華」</p> <p>第14回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第15回 まとめ</p>								
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。								
成績評価の方法	毎回のミニレポート（40%）、レポート（60%）								
実務経験について	なし								

授業科目	日本文学講読Ⅶ				担当者	竹本 寛秋		
	[履修年次]	1年			授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 文学研究に必要となる、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い 第 2 回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化 第 3 回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」 第 4 回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り 第 5 回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景 第 6 回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異 第 7 回 川端康成「水月」：三人称の語り 第 8 回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史 第 9 回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題 第 10 回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵 第 11 回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題 第 12 回 倉田由美子「暗い旅」：論争について 第 13 回 資料調査について 第 14 回 文学史について 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。							
成績評価の方法	毎回のミニレポートと授業内での活動 (40%)、レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅳ・Ⅵ				担当者	竹本 寛秋		
	[履修年次]	1,2年			授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4 回 口頭発表 (1) 第 5 回 口頭発表 (2) 第 6 回 口頭発表 (3) 第 7 回 口頭発表 (4) 第 8 回 口頭発表 (5) 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表 (6) 第 11 回 口頭発表 (7) 第 12 回 口頭発表 (8) 第 13 回 口頭発表 (9) 第 14 回 口頭発表 (10) 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%)、討議での発言・参加 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅴ		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定、文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14回 論文作成の方法について</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。			
成績評価の方法	口頭発表、ディスカッションでの発言 (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学史Ⅰ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	定期試験 100%			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 楽府 (1)</p> <p>第 2回 楽府 (2)</p> <p>第 3回 楽府 (3)</p> <p>第 4回 五言詩 (1)</p> <p>第 5回 五言詩 (2)</p> <p>第 6回 五言詩 (3)</p> <p>第 7回 志怪小説 (1)</p> <p>第 8回 志怪小説 (2)</p> <p>第 9回 志怪小説 (3)</p> <p>第 10回 近体詩 (1)</p> <p>第 11回 近体詩 (2)</p> <p>第 12回 近体詩 (3)</p> <p>第 13回 伝奇 (1)</p> <p>第 14回 伝奇 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 基本文型 (1)</p> <p>第 3回 基本文型 (2)</p> <p>第 4回 基本文型 (3)</p> <p>第 5回 基本文型 (4)</p> <p>第 6回 基本文型 (5)</p> <p>第 7回 基本文型 (6)</p> <p>第 8回 副詞</p> <p>第 9回 基本文型の連続</p> <p>第 10回 フレーズ (1)</p> <p>第 11回 フレーズ (2)</p> <p>第 12回 フレーズ (3)</p> <p>第 13回 フレーズ (4)</p> <p>第 14回 フレーズ (5)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
			[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)			
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 漢字 (1) 第 3回 漢字 (2) 第 4回 漢字 (3) 第 5回 漢字 (4) 第 6回 漢字 (5) 第 7回 漢文 (1) 第 8回 漢文 (2) 第 9回 漢文 (3) 第 10回 漢文学 (1) 第 11回 漢文学 (2) 第 12回 中国文学 (1) 第 13回 中国文学 (2) 第 14回 中国文学 (3) 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)			
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 講読 (1) 第 3回 講読 (2) 第 4回 講読 (3) 第 5回 講読 (4) 第 6回 講読 (5) 第 7回 講読 (6) 第 8回 講読 (7) 第 9回 講読 (8) 第 10回 講読 (9) 第 11回 講読 (10) 第 12回 講読 (11) 第 13回 講読 (12) 第 14回 講読 (13) 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学演習Ⅱ		担当者	土肥 克己	
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島県の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 文献調査の基礎 (1) 第 3回 文献調査の基礎 (2) 第 4回 論文の読み方 第 5回 石碑調査 (1) 第 6回 石碑調査 (2) 第 7回 石碑調査 (3) 第 8回 石碑調査 (4) 第 9回 石碑調査 (5) 第 10回 プレゼン練習 (1) 第 11回 プレゼン練習 (2) 第 12回 プレゼン練習 (3) 第 13回 プレゼン練習 (4) 第 14回 プレゼン練習 (5) 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	中国文学演習Ⅲ		担当者	土肥 克己	
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 論文整理と発表 (1) 第 3回 論文整理と発表 (2) 第 4回 論文整理と発表 (3) 第 5回 論文整理と発表 (4) 第 6回 論文整理と発表 (5) 第 7回 論文整理と発表 (6) 第 8回 論文整理と発表 (7) 第 9回 論文整理と発表 (8) 第 10回 論文整理と発表 (9) 第 11回 論文整理と発表 (10) 第 12回 論文整理と発表 (11) 第 13回 論文整理と発表 (12) 第 14回 論文整理と発表 (13) 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。				
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱ		担当者	専攻教員全員				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応					
	〔学期〕	前期・後期	〔単位〕	各1単位	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します</p> <p>【到達目標】授業中に紹介します</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)							
授業スケジュール	第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1			
	第2回		論文作成：その1		論文作成：その2			
	第3回		論文作成：その2		論文作成：その3			
	第4回		論文作成：その3		論文作成：その4			
	第5回		論文作成：その4		論文作成：その5			
	第6回		論文作成：その5		論文作成：その6			
	第7回		論文作成：その6		論文作成：その7			
	第8回		論文作成：その7		論文作成：その8			
	第9回		論文作成：その8		論文作成：その9			
	第10回		論文作成：その9		論文作成：その10			
	第11回		論文作成：その10		論文作成：その11			
	第12回		論文作成：その11		論文作成：その12			
	第13回		論文作成：その12		論文作成：その13			
	第14回		論文作成：その13		論文作成：その14			
	第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ			
授業外学習(予習・復習)								
成績評価の方法	I：中間報告100% II：卒業論文75%、口頭発表25%							
実務経験について								

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）							
授業スケジュール	第1回		異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か					
	第2回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味					
	第3回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し					
	第4回		空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間					
	第5回		「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界					
	第6回		女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー					
	第7回		異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと					
	第8回		異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか					
	第9回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史					
	第10回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？					
	第11回		異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応					
	第12回		異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば					
	第13回		異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは					
	第14回		異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践					
	第15回		異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）							
実務経験について	なし							

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18～20世紀の「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】授業では学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。まず、グループ内で情報交換しながら世紀ごとに取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説（一つの考え方）を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴、19世紀の小説（ピクトリア朝小説）の特徴、20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明）、「小説の誕生、そして成長」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第2回 18世紀の小説（1）：小説の誕生とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン、D.デフォー、J.スウィフト、S.リチャードソン）</p> <p>第3回 18世紀の小説（2）：小説の確立におけるH.フィールディング、L.スターン、T.G.スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール、A.ラドクリフ夫人）</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説：小説の成熟に貢献したJ.オースティン</p> <p>第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（1）：C.ディケンズの役割</p> <p>第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（2）：ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説</p> <p>第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（3）：W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』、E.ブロンテの小説『嵐が丘』</p> <p>第10回 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説：ダーウィニズムとT.ハーディの小説</p> <p>第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有、20世紀小説の特徴（S.フロイトの影響）</p> <p>第12回 20世紀の小説（1）：H.G.ウェルズの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（2）：V.ウルフの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説（3）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説（4）：H.ジェイムズの小説、E.M.フォスターの小説、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適時指示			
成績評価の方法	授業への取り組み+学習単元ごとのまとめ（100%）			
実務経験について	なし			

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学（1）</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学（2）</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛（1）</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛（2）</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学（1）</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学（2）</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）			
実務経験について	なし			

授業科目	書道Ⅰ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の学習</p> <p>【概要】書道は、文字を素材とする芸術である。本講座では、まず書体の変遷について概要を学ぶとともに、中学校の書写教育の概観を捉える。そして、中学校書写の楷書・行書の教材を練習し、その執筆法を習得することにより、書写学習の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の書き方を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 書について(書体の特徴とその変遷), 中学校における書写教育</p> <p>第2回 楷書の特徴とその書法(基本点画1)</p> <p>第3回 楷書の特徴とその書法(基本点画2)</p> <p>第4回 楷書作品制作</p> <p>第5回 楷書に調和する仮名</p> <p>第6回 楷書と仮名の調和</p> <p>第7回 楷書(硬筆)</p> <p>第8回 行書の特徴とその書法</p> <p>第9回 行書の特徴とその書法</p> <p>第10回 行書作品制作</p> <p>第11回 行書に調和する仮名</p> <p>第12回 行書と仮名の調和</p> <p>第13回 行書(硬筆)</p> <p>第14回 作品制作</p> <p>第15回 作品制作, 学習のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書・仮名の古典学習</p> <p>【概要】中学校書写の楷書・行書の教材と関連しながら、楷書・行書・仮名の古典学習を通して、それぞれの筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の楷書・行書の書き方を、古典学習を通し深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 中学校における書写教育</p> <p>第2回 楷書の古典(基本点画)</p> <p>第3回 楷書の古典(九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑)</p> <p>第4回 楷書の古典(雁塔聖教序・顔氏家廟碑)</p> <p>第5回 楷書の古典(造像記)</p> <p>第6回 行書の古典(基本点画)</p> <p>第7回 行書の古典(蘭亭序)</p> <p>第8回 行書の古典(争坐位文稿他)</p> <p>第9回 行書の古典(蜀素帖他)</p> <p>第10回 仮名の書(いろは单体)</p> <p>第11回 仮名の書(連綿)</p> <p>第12回 仮名の書(高野切)</p> <p>第13回 仮名の書(三色紙)</p> <p>第14回 作品制作</p> <p>第15回 作品制作, 学習のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の古典学習</p> <p>【概要】漢字の書には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体がある。書道Ⅰ・Ⅱで日常生活において多用される楷書と行書を学習した。書道Ⅲでは、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、書の幅広い技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】書道Ⅰ・Ⅱの楷書・行書学習の発展として、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、それぞれの筆法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法 第2回 草書の古典(書譜) 第3回 草書の古典(十七帖) 第4回 草書の古典(王鐸・傅山等) 第5回 作品制作 第6回 篆書の特徴とその書法 第7回 篆書の古典(泰山刻石) 第8回 篆書の古典(甲骨文・金文) 第9回 篆書の古典(帛書・木簡) 第10回 隸書の特徴とその書法 第11回 隸書の古典(曹全碑・礼器碑) 第12回 隸書の古典(古隸) 第13回 隸書の古典(木簡) 第14回 作品制作 第15回 作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

授業科目	書道Ⅳ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】書作品制作</p> <p>【概要】書道学習の集大成として、書作品制作にチャレンジする。漢字作品、仮名作品、漢字仮名交じり作品の制作を通して書の楽しさと魅力を味わうことを目的とする。また、自分の名を刻した印を制作し、作品に押印する。</p> <p>【到達目標】書作品の製作を通して、書への興味・関心を高め、その技法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 作品制作の計画 第2回 篆刻(自用印の制作) 第3回 篆刻(自用印の制作) 第4回 篆刻(自用印の制作) 第5回 漢字作品制作 第6回 漢字作品制作 第7回 漢字作品制作 第8回 漢字作品制作 第9回 仮名作品制作 第10回 仮名作品制作 第11回 仮名作品制作 第12回 仮名作品制作 第13回 漢字仮名交じり作品制作 第14回 漢字仮名交じり作品制作 第15回 漢字仮名交じり作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	English Skills A		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声についての学習を通して、基礎的な語彙と文法の確認をする。</p> <p>【概要】英語の音声について基礎的な知識と技能を学びます。併せて、音読、ディクテーションなどを通して英語の基礎的な語彙と文法確認します。</p> <p>【到達目標】英語音声の基礎を身につける。基礎的な文法と語彙について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか(2012)『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂、東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 英語の音の分類方法</p> <p>第3回 紛らわしい母音(1) アと聞こえる音を区別する</p> <p>第4回 紛らわしい母音(2) イと聞こえる音を区別する</p> <p>第5回 紛らわしい母音(1) ウと聞こえる音を区別する</p> <p>第6回 紛らわしい母音(2) エと聞こえる音を区別する</p> <p>第7回 紛らわしい母音(2) オと聞こえる音を区別する</p> <p>第8回 紛らわしい子音(1) 日本語にない子音の発音方法 RとLの区別など</p> <p>第9回 紛らわしい子音(2) 摩擦音、鼻音、閉鎖音</p> <p>第10回 紛らわしい子音(3) 破擦音、側音、半母音</p> <p>第11回 英語のリズム(1)</p> <p>第12回 英語のリズム(2)</p> <p>第13回 英語のリズム(3)</p> <p>第14回 英語のイントネーション</p> <p>第15回 まとめと試験</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習1時間二条必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み(60%) + レポートまたは試験(40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	English Skills B		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J.オースティンの『分別と多感』を読みます(授業はグループでテキストを読んで日本語に訳す精読方式です)。また、担当者が準備したプリントに基づいて章ごとの内容と問題点も確認します。作品は映像化されているので、プロットと背景が理解できるように映像(DVD)を活用します。</p> <p>【到達目標】文学作品を正確に読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英潮社フェニックス)</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方の説明: グループ活動及び章ごとの訳の提出方法など)、映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞(1)</p> <p>第2回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞(2)</p> <p>第3回 映画のみどころ及び登場人物たちの確認、映画から感じられる問題点の確認</p> <p>第4回 グループ活動1: 英文テキストの第1章と第2章の内容の検討と発表</p> <p>第5回 第1章と第2章の訳の訂正</p> <p>第6回 グループ活動2: 第3章の内容の検討と発表</p> <p>第7回 第3章の訳の訂正</p> <p>第8回 グループ活動3: 第4章の内容の検討と発表</p> <p>第9回 第4章の訳の訂正</p> <p>第10回 グループ活動4: 第5章の内容の検討と発表</p> <p>第11回 第5章の訳の訂正</p> <p>第12回 グループ活動5: 第6章の内容の検討と発表</p> <p>第13回 第6章の訳の訂正</p> <p>第14回 グループ活動6: 第7章の内容の検討と発表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各章の訳および担当者が用意した課題プリント(予習)			
成績評価の方法	予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容(60%)、筆記試験(40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	English Skills C		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	使用しない		
	(2)	適宜、紹介する。		
授業スケジュール	第 1回	ガイダンス：講義の目的と方法		
	第 2回	国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか		
	第 3回	国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化		
	第 4回	国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦		
	第 5回	国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1		
	第 6回	国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2		
	第 7回	国際関係のなりたち 4：核兵器について		
	第 8回	国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム		
	第 9回	国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序		
	第 10回	国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題		
	第 11回	国際社会における諸問題 2：貧困と開発		
	第 12回	国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題		
	第 13回	国際社会における諸問題 4：保守化する世界		
	第 14回	国際社会における諸問題 5：コロナ、ウクライナ後の社会		
	第 15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。			
実務経験について	NGO での勤務経験あり			

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	[履修年次] 1年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. 『Speakout pre-intermediate 2nd Edition』, Pearson</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: past simple.</p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of past simple endings (-ed). Unit 1 review.</p> <p>第 4 回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: present simple and continuous.</p> <p>第 6 回 Unit 2 Communication skills: intonation; express likes and dislikes. Unit 2 review</p> <p>第 7 回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary.</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review.</p> <p>第 10 回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe.</p> <p>第 11 回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: present continuous and the be going to future.</p> <p>第 12 回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review.</p> <p>第 13 回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English.</p> <p>第 14 回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: past simple and past continuous.</p> <p>第 15 回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5.</p> <p>第 16 回 Unit 5 short presentation. The best day of your life.</p> <p>第 17 回 Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living in the city or in the countryside.</p> <p>第 18 回 Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review.</p> <p>第 19 回 Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games.</p> <p>第 20 回 Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them.</p> <p>第 21 回 Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review.</p> <p>第 22 回 Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band</p> <p>第 23 回 Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie or videogame.</p> <p>第 24 回 Unit 8. Communication skills: polite intonations and contrastive stress. Unit 8 review.</p> <p>第 25 回 Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game.</p> <p>第 26 回 Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals.</p> <p>第 27 回 Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review.</p> <p>第 28 回 Unit 9. Short presentation. The cost of fame.</p> <p>第 29 回 Preparation for the final presentation.</p> <p>第 30 回 Review of the course.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%); Final presentation (40%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.		

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380003133)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Daily Life and Routines</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Linking words</p> <p>第 4 回 Listening: Listen for Details</p> <p>第 5 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 6 回 Presentation (1)</p> <p>第 7 回 Speaking: Talking about Likes and Dislikes</p> <p>第 8 回 Pronunciation: Sentence Stress</p> <p>第 9 回 Listening: Predicting What Will Be Said</p> <p>第 10 回 Conversation Activities</p> <p>第 11 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 12 回 Presentation (2)</p> <p>第 13 回 Speaking: Making Requests / Responding to Requests</p> <p>第 14 回 Pronunciation: Linking Sounds</p> <p>第 15 回 Test (1) / Conversation Activities</p> <p>第 16 回 Speaking: Talking about Hobbies and Interests</p> <p>第 17 回 Pronunciation: Past Forms</p> <p>第 18 回 Listening: Listen for Keywords</p> <p>第 19 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 20 回 Presentation (3)</p> <p>第 21 回 Speaking: Talking about Something That Happened To You</p> <p>第 22 回 Pronunciation: "Schwa"</p> <p>第 23 回 Listening: Listen for Specific Information</p> <p>第 24 回 Conversation Activities</p> <p>第 25 回 Presentation (4) Preparation</p> <p>第 26 回 Presentation (4)</p> <p>第 27 回 Speaking: Talking about Important Celebrations</p> <p>第 28 回 Pronunciation: Shortening Words</p> <p>第 29 回 Listening: Listen for Context</p> <p>第 30 回 Test (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択] 必修	授業終了後 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice.</p> <p>【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合があります。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第 15 回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) +発表・スピーチ(期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。		
実務経験について			

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	[履修年次] 1年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	[学期] 後気 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course focused on improving the students' communicative skills in English.</p> <p>【概要】 The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English.</p> <p>【到達目標】 The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.</p>		
(1)テキスト	(1) Antonia Clare, JJ Wilson. 『Speakout pre-intermediate 2nd Edition』, Pearson		
(2)参考文献	(2)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on <i>past simple</i> and <i>present perfect</i></p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of <i>have, had, was</i> (weak forms); intonation: sounding interested.</p> <p>第 4 回 Unit 1. Presentation: reporting news.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (<i>will</i> tense).</p> <p>第 6 回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (<i>going to</i> future); linking in connected speech.</p> <p>第 7 回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and <i>used to</i> and <i>simple conditional</i> tense</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress.</p> <p>第10 回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.</p> <p>第11 回 Unit 4. Taking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals</p> <p>第12 回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (<i>would</i>); intonation: giving bad news.</p> <p>第13 回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it.</p> <p>第14 回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on <i>present perfect</i> VS <i>present continuous</i></p> <p>第15 回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.</p> <p>第16 回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far.</p> <p>第17 回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice</p> <p>第18 回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect.</p> <p>第19 回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event.</p> <p>第20 回 Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech.</p> <p>第21 回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes.</p> <p>第22 回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world.</p> <p>第23 回 Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers.</p> <p>第24 回 Unit 8. Communication skills: verb phrases; stress pattern: short phrases.</p> <p>第25 回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like.</p> <p>第26 回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives.</p> <p>第27 回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests.</p> <p>第28 回 Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner.</p> <p>第29 回 Unit 10 Speaking: talking about communities. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words.</p> <p>第30 回 Review of the course</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%); Final presentation (40%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.		

授業科目	オーラルコミュニケーション II	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English.</p> <p>【到達目標】 The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson, Speakout. Intermediate. Pearson Education</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on <i>past simple</i> and <i>present perfect</i></p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of <i>have, had, was</i> (weak forms); intonation: sounding interested.</p> <p>第 4 回 Unit 1. Presentation: reporting news.</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (<i>will tense</i>).</p> <p>第 6 回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (<i>going to</i> future); linking in connected speech.</p> <p>第 7 回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and <i>used to</i> and <i>simple conditional tense</i></p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress.</p> <p>第 10 回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.</p> <p>第 11 回 Unit 4. Taking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals</p> <p>第 12 回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (<i>would</i>); intonation: giving bad news.</p> <p>第 13 回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it.</p> <p>第 14 回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on <i>present perfect VS present continuous</i></p> <p>第 15 回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.</p> <p>第 16 回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far.</p> <p>第 17 回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice</p> <p>第 18 回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect.</p> <p>第 19 回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event.</p> <p>第 20 回 Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech.</p> <p>第 21 回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes.</p> <p>第 22 回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world</p> <p>第 23 回 Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers.</p> <p>第 24 回 Unit 8. Communication skills: verb phrases; stress pattern: short phrases.</p> <p>第 25 回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like.</p> <p>第 26 回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives.</p> <p>第 27 回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests.</p> <p>第 28 回 Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner</p> <p>第 29 回 Unit 10 Speaking: talking about communities. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words.</p> <p>第 30 回 Review of the cours</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ		担当者	ニコライ・ギュレメトヴ	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[単位]	1単位	[必修/選択]	必修
				[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice.</p> <p>【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合があります。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第 15 回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				
実務経験について					

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ	
	[履修年次]	2年	授業外対応	By coming to my office or by email.	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[単位]	1単位	[必修/選択]	必修
				[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. 『Speakout intermediate plus 2nd Edition』, Pearson .</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English?</p> <p>第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions.</p> <p>第 3 回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses; Verb + preposition</p> <p>第 4 回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know</p> <p>第 5 回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative have.</p> <p>第 6 回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects; stress: causative have.; connected speech: linking</p> <p>第 7 回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any).</p> <p>第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures.</p> <p>第 9 回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate.</p> <p>第 10 回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life.</p> <p>第 11 回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and present perfect simple and continuous.</p> <p>第 12 回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic).</p> <p>第 13 回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks.</p> <p>第 14 回 Review of the course.</p> <p>第 15 回 Preparation for the final presentation.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class presentations (60%) + final presentation (40%)				
実務経験について	I have been teaching this class since 2019				

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, Breakthrough Plus 3, 2nd Edition, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things. 第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 第 4 回 Presentation (1) Preparation 第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice 第 6 回 Speaking: Talking about Experiences 第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion. / Listening: News Reports. 第 8 回 Test (1) / Conversation Practice 第 9 回 Presentation (2) Preparation 第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice 第 11 回 Speaking: Talking about Opinions. 第 12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 第 13 回 Presentation (3) Preparation 第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice 第 15 回 Test (2) / Conversation Practice		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. Initially, they will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation. In addition to this, they will be given guidance that will encourage and allow them to take part in debates and presentations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' communication skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Bridging Communication Skills: Author(s): S. Suzuki, M. Miller & P. McClue Publisher: Kinseido (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations (導入ーコースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Getting to know your classmates 第 3 回 Unit 2: Memories and Experiences 第 4 回 Unit 3: Food and Cooking 第 5 回 Unit 4: Health 第 6 回 Unit 5: Humans and Animals 第 7 回 Unit 6: Telling Stories 第 8 回 Unit 7: Review 第 9 回 Unit 8: Emotions? 第 10 回 Unit 9: Talking About the Summer Holidays 第 11 回 Unit 10: Intelligence 第 12 回 Unit 11: Superstitions 第 13 回 Unit 12: Comparing Cultures 第 14 回 Unit 13: Apologies! 第 15 回 Unit 14: Communication & Future Plans 第 16 回 Test & Review The pace and range of progress will very much depend on the characteristics of the class.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%		
実務経験について			

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, Breakthrough Plus 3, 2nd Edition, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Practice</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Possibilities</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion</p> <p>第 4 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice</p> <p>第 6 回 Speaking: Making Deductions</p> <p>第 7 回 Pronunciation: Reduced Forms / Listening: Inferring Meaning</p> <p>第 8 回 Test (1) / Conversation Practice</p> <p>第 9 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice</p> <p>第 11 回 Speaking: Talking about Key Events from the Past</p> <p>第 12 回 Pronunciation: Stress and Rhythm / Listening: Listen for Specific Information`</p> <p>第 13 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice</p> <p>第 15 回 Test (2) / Conversation Practice</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	パトリック・ゴースラム
	[履修年次] 1年	授業外対応	
	[学期] 後期 [単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The goal is to familiarize students with cultural and news events in the world, but with a focus mainly on the United States.</p> <p>【概要】 Class time will be spent watching and listening to news stories. Students will then complete information gap exercises, cloze exercises and information exchange on topics presented in the textbook and current events in Japan and the world.</p> <p>【到達目標】 The goal of the course is for students to improve their overall listening and speaking fluency while becoming more aware of the world outside of Japan.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ABC NEWSROOM 2, Shigeru & Kathleen Yamane, Kinseido, ISBN978-4-7647-4190-4</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Honoring Earth Day</p> <p>第 2 回 Student Loan Showdown</p> <p>第 3 回 Celebrating as American Citizens</p> <p>第 4 回 New Zealand Warning on Climate</p> <p>第 5 回 Students Help 80-Year-Old Janitor</p> <p>第 6 回 Biden Signs Marriage Law</p> <p>第 7 回 David's Toy Project</p> <p>第 8 回 Safe Drinking Water</p> <p>第 9 回 Students Create Prosthesis for Dog</p> <p>第 10 回 Inside ChatGPT Technology</p> <p>第 11 回 Sister Jean, the Beloved Chaplin</p> <p>第 12 回 Paralyzed Man Walks Again</p> <p>第 13 回 Drilling Project in Alaska</p> <p>第 14 回 Fury in France</p> <p>第 15 回 Increased Outreach in East Palestine</p>		
授業外学習(予習・復習)	Review previous week's material and complete any given homework assignments.		
成績評価の方法	Participation 10%, Vocabulary notebook 20%, Speech/Presentation 20%, Final exam 50%		
実務経験について			

授業科目	英語表現法 I	担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction / Writing Practice</p> <p>第 2回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information</p> <p>第 3回 Unit 1: Topic Sentences</p> <p>第 4回 Unit 2: Organizing Ideas</p> <p>第 5回 Unit 2: Inference Sentences</p> <p>第 6回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs</p> <p>第 7回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech</p> <p>第 8回 Unit 4: Descriptive Paragraphs</p> <p>第 9回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition</p> <p>第 10回 Unit 5: Topic Sentences</p> <p>第 11回 Unit 5: Organizing Information</p> <p>第 12回 Unit 6: Plans and Instructions</p> <p>第 13回 Unit 6: Using "so", "that", and "to"</p> <p>第 14回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment</p> <p>第 15回 Final Writing Assignment</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		
実務経験について			

授業科目	英語表現法 I	担当者	パトリック・ゴーラム
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Press</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Class Orientation</p> <p>第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph</p> <p>第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph</p> <p>第 4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph</p> <p>第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph</p> <p>第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph</p> <p>第 7回 Unit 2, Descriptive Paragraph</p> <p>第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft</p> <p>第 9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft</p> <p>第 10回 Unit 3, Example paragraph</p> <p>第 11回 Unit 3, Example paragraph</p> <p>第 12回 Unit 3, Example paragraph</p> <p>第 13回 Unit 3, Example paragraph</p> <p>第 14回 Example paragraph in-class assignment 1st draft</p> <p>第 15回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%		
実務経験について			

授業科目	英語表現法Ⅱ		担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)			
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Writing Practice 第 2回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons 第 3回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 4回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 5回 Unit 8: Using Pronouns 第 6回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions 第 7回 Unit 9: Supporting Sentences 第 8回 Unit 10: Using Examples 第 9回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __, I would __." 第 10回 Unit 11: Attention-Getters 第 11回 Unit 11: Using Persuasive Language 第 12回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions 第 13回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice 第 14回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment 第 15回 Final Writing Assignment			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%			
実務経験について				

授業科目	英語表現法Ⅱ		担当者	パトリック・ゴーラム
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be req</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express (2)			
授業スケジュール	第 1回 Unit 4, Process paragraph 第 2回 Unit 4, Process paragraph 第 3回 Unit 4, Process paragraph 第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 6回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 11回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13回 Unit 6, Narrative paragraph 第 14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%			
実務経験について				

授業科目	英語表現法Ⅲ		担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)			
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Writing Practice 第 2回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15回 Final Writing Assignment			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の割合 10%			
実務経験について				

授業科目	英語表現法Ⅲ		担当者	パトリック・ゴーラム
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 授業終了後
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write intro</p> <p>【概要】 Students will examine different writing styles using critical thinking topics. Students will be required to research topics and discuss in class.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the paragraph level and to become more aware of the world outside of Japan.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Academic Reading and Writing 1, Abax, ISBN978-1-78547-023-3 (2)			
授業スケジュール	第 1回 International NPOs 第 2回 Pollution 第 3回 Early Exploration 第 4回 The Masaai 第 5回 Famous Explorers 第 6回 Claude Monet 第 7回 Whales 第 8回 Language Study 第 9回 Behaviorism 第 10回 Economic Systems 第 11回 Concorde Flight 4590 第 12回 Scientific terminology 第 13回 TBD (To be determined) 第 14回 TBD 第 15回 Final Evaluation			
授業外学習(予習・復習)	Complete any given assignments			
成績評価の方法	Essay writing 70%, Freewriting 10%, Attendance 10%, Class Participation 10%			
実務経験について				

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅰ		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 コミュニケーション概論で学習したことをさらに深めるため、テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、読むことと書くことを中心に、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) McConachy, T. et al. (2017). Intercultural communication for English language learners in Japan. Nan'un-do.</p> <p>(2) 授業で紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 演習 1</p> <p>第 3回 演習 2</p> <p>第 4回 演習 3</p> <p>第 5回 演習 4</p> <p>第 6回 演習 5</p> <p>第 7回 演習 6</p> <p>第 8回 演習 7</p> <p>第 9回 演習 8</p> <p>第 10回 演習 9</p> <p>第 11回 演習 10</p> <p>第 12回 演習 11</p> <p>第 13回 演習 12</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2時間以上必要である。			
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% 期末レポート 40% Extensive Reading 30%で評価する。			
実務経験について				

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅱ		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 コミュニケーション概論, 英語コミュニケーション演習Ⅱで学習したことをさらに深めるため、テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布, 初回で指示する。</p> <p>(2) Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). Intercultural interactions: A practical guide. Sage Publications.</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 演習 1</p> <p>第 3回 演習 2</p> <p>第 4回 演習 3</p> <p>第 5回 演習 4</p> <p>第 6回 演習 5</p> <p>第 7回 演習 6</p> <p>第 8回 演習 7</p> <p>第 9回 演習 8</p> <p>第 10回 演習 9</p> <p>第 11回 演習 10</p> <p>第 12回 演習 11</p> <p>第 13回 演習 12</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2時間以上必要である。			
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% Final Presentation 30% 期末レポート 40%で評価する。			
実務経験について				

(注) 教職必修

授業科目	コミュニケーション概論		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年		授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で学ぶ異文化コミュニケーション入門, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 この授業は、領域統合型の言語活動を実践する授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語の説明を聞いて、概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Vincent, P. (2017). Speaking of intercultural communication. Nan'un-do.</p> <p>(2) Stringer M. D. & Cassiday, A. P. (2009). 52 activities for improving cross-cultural communication. Intercultural Press.</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 Communication</p> <p>第 3回 Culture</p> <p>第 4回 Nonverbal Communication</p> <p>第 5回 Communicating Clearly</p> <p>第 6回 Culture and Values</p> <p>第 7回 Culture and Perception</p> <p>第 8回 Diversity</p> <p>第 9回 Stereotypes</p> <p>第 10回 Culture Shock</p> <p>第 11回 Culture and Change</p> <p>第 12回 Talking about Japan</p> <p>第 13回 Becoming a Global Person</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む)2時間以上必要である。			
成績評価の方法	毎回の授業でのプレゼンテーション 30% Final Presentation 30% レポート課題 40%で評価する。			
実務経験について				

(注) 教職必修

授業科目	英語学概論		担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。英語の実例分析も併せて行う。</p> <p>【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 白畑知彦 (2021) 『英語教師がおさえておきたいことばの基礎的知識』大修館書店, 東京。/大名力 (2023) 『英語の発音と綴り-なぜ walk がウォークで、work がワークなのか?』中央公論新社, 東京。その他随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス, 英語学とは何か</p> <p>第 2回 音声学・音韻論(1) 言語音の作られ方, 英語の母音</p> <p>第 3回 音声学・音韻論(2) 英語の子音</p> <p>第 4回 音声学・音韻論(3) 音素と異音、綴りと発音の対応</p> <p>第 5回 音声学・音韻論(4) 英語のアクセントとイントネーション</p> <p>第 6回 音声学・音韻論(5) 英語の音変化と音脱落</p> <p>第 7回 形態論(1) 派生, 屈折</p> <p>第 8回 形態論(2) 複合, その他の語形成過程</p> <p>第 9回 形態論(3) 授業で学習した語形成について実例の検討</p> <p>第 10回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性 統合的關係と範列的關係</p> <p>第 11回 統語論(2) 句構造規則</p> <p>第 12回 統語論(3) 品詞, コロケーション, 文法と意味の接点</p> <p>第 13回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第 14回 意味論(2) 比喩</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上, 復習3時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英文法		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現）</p> <p>【概要】本授業は時制と相、冠詞・名詞を重点的に取り上げる。加えて、関係節、仮定法などについても学習する。</p> <p>【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第4版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。</p> <p>(2) 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』 シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス, 時制と相 (1) 現在形と現在進行形</p> <p>第 2 回 時制と相 (2) 過去形と現在完了形</p> <p>第 3 回 時制と相 (3) 現在完了進行形, 過去完了形, 過去完了進行形</p> <p>第 4 回 時制と相 (4) 未来の表現</p> <p>第 5 回 法 (1) 直説法と仮定法, 仮定法過去</p> <p>第 6 回 法(2) 仮定法過去完了, 関連表現</p> <p>第 7 回 関係節(1) 制限関係代名詞</p> <p>第 8 回 関係節(2) 非制限関係代名詞</p> <p>第 9 回 関係節(3) 関係副詞</p> <p>第 10 回 冠詞と名詞(1) 可算名詞と不可算名詞, 不定冠詞</p> <p>第 11 回 冠詞と名詞(2) 定冠詞</p> <p>第 12 回 冠詞と名詞(3) 総称</p> <p>第 13 回 冠詞と名詞(4) 問題演習</p> <p>第 14 回 総合問題演習</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上, 復習 2 時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (50%) + 授業内活動への積極的な参加 (10%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英語史		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言語の通時的変化）の観点から学ぶ。</p> <p>【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。</p> <p>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 寺澤渾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店, 東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部, 東京。井口篤, 寺澤渾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会, 東京。ブラッグ, メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社, 東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) The Adventure of English. (DVD)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 英語の始まり</p> <p>第 3 回 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第 4 回 古英語 英語のアルファベットの起源と豊富な語尾</p> <p>第 5 回 古英語を読む</p> <p>第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語</p> <p>第 7 回 ノルマン征服と中英語</p> <p>第 8 回 中英語を読む</p> <p>第 9 回 初期近代英語 ルネッサンス、シェイクスピアと英語</p> <p>第 10 回 初期近代英語を読む</p> <p>第 11 回 海外に広がった英語 アメリカ英語</p> <p>第 12 回 アジア諸国における英語</p> <p>第 13 回 ビジンとクレオール</p> <p>第 14 回 現代イギリス英語と現代アメリカ英語に見られる変化</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 3 時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的な参加 (30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英語音声学		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声の仕組み</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。英語の分節音の調音方法を復習した後、超分節音素（ストレス、ピッチ、接続）を概略する。授業では、講義に加えてCALL機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。</p> <p>【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂, 東京。</p> <p>(2) キャットフォード, J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子 (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店, 東京。</p> <p>今井, ジュミック (2012) 『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社, 東京。その他随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 英語の母音</p> <p>第 3回 英語の子音</p> <p>第 4回 英語のアクセント</p> <p>第 5回 句と複合語のアクセントの違い</p> <p>第 6回 文のアクセント</p> <p>第 7回 文のアクセントと強く読まれる単語と弱く読まれる単語</p> <p>第 8回 連結</p> <p>第 9回 同化</p> <p>第 10回 脱落</p> <p>第 11回 英語のイントネーションの基本パターン</p> <p>第 12回 英語のイントネーションと文アクセントの関係</p> <p>第 13回 World Englishes</p> <p>第 14回 数の読み方</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 3 時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (実技課題を含む) (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)			
実務経験について	なし			

授業科目	Second Language Acquisition		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】第二言語習得と言語学習 Second Language Acquisition (SLA) and Language Learning</p> <p>【概要】本来言葉の学びとはどういうものであるのかということについて、母語習得と第二言語習得の観点から先行研究データを概観する。これまでの思い込みを捨て、新たな視点で英語学習、そして英語教育について考える。</p> <p>【到達目標】言語理解、談話理解、言語学習の心理、母語、第二言語の習得過程、学習ストラテジー、外国語の学習・教育の情意的側面などについて説明できる。それらの知識を、実際の指導場面で応用して、よりよい授業を行うための工夫を考えることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Brown, H. D. (2002). Strategies for success: A practical guide to learning English, Adison Wesley Longman</p> <p>(2) Brown, H. D. (2014). Principles of language learning and teaching, Adison Wesley Longman</p> <p>和泉伸一 (2016). 『第 2 言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える～より良い英語学習と英語教育へのヒント～』アルク</p> <p>Lightbown, P., & Spada, N. (2013). How languages are learned. 4th edition. New York: Oxford University P</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 What kind of learner are you?</p> <p>第 2回 Discovering your learning styles</p> <p>第 3回 Left brain and right brain</p> <p>第 4回 Motivating yourself and setting goals</p> <p>第 5回 Developing self-confidence and lowering anxiety</p> <p>第 6回 Learning to take risks</p> <p>第 7回 What's your language-learning IQ?</p> <p>第 8回 The Influence of your native language</p> <p>第 9回 Learning a second culture</p> <p>第 10回 Using individual learning strategies</p> <p>第 11回 Using group strategies</p> <p>第 12回 Workshop 1</p> <p>第 13回 Workshop 2</p> <p>第 14回 Workshop 3</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業内課題 20% グループワーク 20% Final Presentation 30% レポート課題 30%			
実務経験について	なし			

授業科目	英文学概論		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】「劇」「散文」「小説」のジャンルの作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力（探求能力）を身に付ける。</p> <p>【概要】【概要】「劇」「散文」「小説」のジャンルの作品を読んで、作品の問題点を探求します。問題点の探求においては、グループ活動をとおして受講生とのディスカッションを取り入れ、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます（受講生は発言が求められるので、前もってテキストをしっかりと読んでおくこと）。</p> <p>【到達目標】【到達目標】イギリス文学の「劇」「散文」「小説」に関する5つの作品を理解する。また、作品に潜む問題点を探求しながら、多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫 高橋源次『英文学概論』（南雲堂）、高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』（大修館書店）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、「英語文学の学習とは何か」を考察 第2回 『アーサー王物語』に関する考察（1）：アーサー王伝説の映像鑑賞+映像のまとめ 第3回 『アーサー王物語』に関する考察（2）：大衆文化のなかで生き続けるアーサー王伝説 第4回 『アーサー王物語』に関する考察（3）：作品研究（物語内容の比較研究） 第5回 W.シェイクスピア『リア王』に関する考察（1）：悲劇の原因の探究 第6回 W.シェイクスピア『リア王』に関する考察（2）：道化の役割（嵐の場面、途中で退場し出場しなくなる理由） 第7回 W.シェイクスピア『リア王』に関する考察（3）：コーディリアの死の役割と意味 第8回 J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察（1）：映像鑑賞+映像のまとめ 第9回 J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察（2）：作品研究（子供が読む作品と大人が読む作品） 第10回 C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察（1）：アニメ映画と原作（作品の魅力と作者の主張） 第11回 C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察（2）：作品研究（19世紀イギリスの社会的背景） 第12回 E.ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（1）：ワイラー監督の映画『嵐が丘』（1939）と原作 第13回 E.ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（2）：榎太郎演出家による『嵐が丘』（2015）と原作 第14回 E.ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（3）：アダプテーション映画『嵐が丘』の魅力 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	作品を読んで授業に臨む(予習)、授業で学習したことをまとめる(復習)			
成績評価の方法	学習単元ごとの「まとめ」及び予習を含む授業への取り組み(100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18～20世紀の「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】授業では学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。まず、グループ内で情報交換しながら世紀ごとに取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説（一つの考え方）を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴、19世紀の小説（ビクトリア朝小説）の特徴、20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明）、「小説の誕生、そして成長」に関わる作者と作品の共有 第2回 18世紀の小説（1）：小説の誕生とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン、D.デフォー、J.スウィフト、S.リチャードソン） 第3回 18世紀の小説（2）：小説の確立におけるH.フィールドイング、L.スターン、T.G.スモレットの役割 第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール、A.ラドクリフ夫人） 第5回 19世紀初頭の小説：小説の成熟に貢献したJ.オースティン 第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有 第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（1）：C.ディケンズの役割 第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（2）：ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説 第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（3）：W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』、E.ブロンテの小説『嵐が丘』 第10回 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説：ダーウィニズムとT.ハーディの小説 第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有、20世紀小説の特徴（S.フロイトの影響） 第12回 20世紀の小説（1）：H.G.ウェルズの小説 第13回 20世紀の小説（2）：V.ウルフの小説 第14回 20世紀の小説（3）：D.H.ロレンスの小説 第15回 20世紀の小説（4）：H.ジェイムズの小説、E.M.フォスターの小説、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適時指示			
成績評価の方法	授業への取り組み+学習単元ごとのまとめ(100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学 (2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛 (2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出發—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学 (1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学 (2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度 (40%)、小レポート (20%)、最終レポート (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	比較文学		担当者	小林 朋子	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison Beloved Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：対話的文学論とは</p> <p>第2回 Beloved と神話批評</p> <p>第3回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話 (1)</p> <p>第4回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話 (2)</p> <p>第5回 Beloved とヨルバ族神話</p> <p>第6回 大衆文化の中のトリックスター</p> <p>第7回 名称付与とは何か</p> <p>第8回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第9回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第10回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(3)</p> <p>第11回 言語の表象不可能性</p> <p>第12回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(1)</p> <p>第13回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(2)</p> <p>第14回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(3)</p> <p>第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度 (10%)、テーマごとに提出する小レポート (30%)、最終レポート (60%)				
実務経験について	なし				

授業科目	英米文学講読Ⅰ		担当者	山下 孝子
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス名作小説を楽しもう—『フランケンシュタイン』を読む</p> <p>【概要】超自然的小説ジャンルであるゴシック・ロマンスの傑作、メアリ・シェリー作『フランケンシュタイン』を英語で読み解きます。怪物の固定化したイメージが突出して焼きついているのに反して、実際の物語はあまり知られていない作品ですが、原作を丁寧に読み解くことで有名小説をそのまま原文で味わう楽しみを分かちあえればと考えています。授業の展開としては、あらかじめ決めた毎回分のテキスト範囲について、内容の概要を把握する速読と、一部分を細かく読み解く精読を行なっていきます。精読部分についてはあらかじめ次回分の和訳を提出してもらうことで、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】英文の内容を正しく理解できる。英語のパラグラフを簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 文学におけるゴシック・ロマンスの系譜と作品『フランケンシュタイン』の概説</p> <p>第2回 『フランケンシュタイン』前書きの書簡、および第1巻第1章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第3回 『フランケンシュタイン』第1巻第2章～4章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第4回 『フランケンシュタイン』第1巻第5章～6章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第5回 『フランケンシュタイン』第1巻第7章～第2巻第1章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第6回 『フランケンシュタイン』第2巻第2章～第3章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第7回 『フランケンシュタイン』第2巻第4章～第5章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第8回 『フランケンシュタイン』第2巻第6章～第7章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第9回 『フランケンシュタイン』第2巻第8章～第9章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第10回 『フランケンシュタイン』第3巻第1章～第2章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第11回 『フランケンシュタイン』第3巻第3章～第4章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第12回 『フランケンシュタイン』第3巻第5章～6章のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第13回 『フランケンシュタイン』第3巻第7章、および結びの書簡のパラグラフ要約、英文和訳</p> <p>第14回 『フランケンシュタイン』におけるゴシック・ロマンス的表現</p> <p>第15回 理解度チェックとまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎授業前に指示された部分の英語和訳を提出しておくこと。毎授業後に配布される課題で復習しておくこと			
成績評価の方法	レポート(20%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み(50%)、小テスト(30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英米文学講読Ⅱ		担当者	山下 孝子
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ名作小説を楽しもう—『グレート・ギャツビー』を読む</p> <p>【概要】1920年代アメリカ文学を代表する作家F. スコット・フィッツジェラルド作『グレート・ギャツビー』は、第一次大戦後のニューヨーク郊外を舞台に、ひたむきな情熱に駆られた青年の夢の羽ばたきと失墜、物質的繁栄に酔った「ジャズ・エイジ」の非情な生態と虚しさを描いた傑作です。その魅力的な文体を原文で味わう楽しみを分かちあえればと考えています。授業の展開としては、あらかじめ決めた毎回分のテキスト範囲について、内容の概要を把握する速読と、一部分を細かく読み解く精読を行なっていきます。精読部分についてはあらかじめ次回分の和訳を提出してもらうことで、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】英文の内容を正しく理解できる。英語のパラグラフを簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 作品『グレート・ギャツビー』の概説および『グレート・ギャツビー』第1章前半</p> <p>第2回 『グレート・ギャツビー』第1章後半</p> <p>第3回 『グレート・ギャツビー』第2章</p> <p>第4回 『グレート・ギャツビー』第3章</p> <p>第5回 『グレート・ギャツビー』第4章前半</p> <p>第6回 『グレート・ギャツビー』第4章後半</p> <p>第7回 『グレート・ギャツビー』第5章</p> <p>第8回 『グレート・ギャツビー』第6章</p> <p>第9回 『グレート・ギャツビー』第7章前半</p> <p>第10回 『グレート・ギャツビー』第7章後半</p> <p>第11回 『グレート・ギャツビー』第8章前半</p> <p>第12回 『グレート・ギャツビー』第8章後半</p> <p>第13回 『グレート・ギャツビー』第9章前半</p> <p>第14回 『グレート・ギャツビー』第9章後半</p> <p>第15回 理解度チェックとまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎授業前に指示された部分の英語和訳を提出しておくこと。毎授業後に配布される課題で復習しておくこと			
成績評価の方法	レポート(20%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み(50%)、小テスト(30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	英米文学講読Ⅲ		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学の作品に親しむ。</p> <p>【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読みます。授業は速読形式です（テキストの英文を読んで、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとの内容と問題点を確認していきます。少人数であれば、学生中心のゼミ形式で授業を展開します）。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるように映像（DVD）を活用します。</p> <p>【到達目標】文学作品を速読で読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、『オリヴァー・トゥイスト』の映画鑑賞</p> <p>第2回 『オリヴァー・ツイスト』の映画鑑賞（続き）および作品の確認</p> <p>第3回 テキストを読む：第1章～第3章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第4回 第1章～第3章の確認（復習）。テキストを読む：第4章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第5回 テキストを読む：第5章～第6章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第6回 第4章～第6章の確認（復習）。テキストを読む：第7章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第7回 テキストを読む：第8章～第9章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第8回 第7章～第9章の確認（復習）。テキストを読む：第10章～第11章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第9回 テキストを読む：第12章～第13章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第10回 第10章～第13章の確認（復習）。テキストを読む：第14章～第15章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第11回 テキストを読む：第16章～第17章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第12回 第14章～第17章の確認（復習）。テキストを読む：第18章～第19章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第13回 テキストを読む：第20章～第21章。プリント学習：問題点の確認</p> <p>第14回 第18章～第21章の確認（復習）</p> <p>第15回 まとめ『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったかを考える</p>			
授業外学習(予習・復習)	担当者が用意したプリント（予習）			
成績評価の方法	予習と復習を含む授業への取り組み及び授業での発言内容（70%）、レポート（30%）			
実務経験について	なし			

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ-自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			
実務経験について	なし			

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマーコ
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials provided by the professor</p> <p>(2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明</p> <p>第 2 回 Choosing the Project theme</p> <p>第 3 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 4 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 5 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 6 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 7 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 8 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 9 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 10 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 11 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 12 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 13 回 Planning and implementation of Project</p> <p>第 14 回 Final Presentation</p> <p>第 15 回 Course Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40%+最終テスト 60%の合計		
実務経験について			

(注) 教職必修

授業科目	アメリカ事情	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	By coming to my office or by email. [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American history; American cultural history.</p> <p>【概要】 In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit.</p> <p>【到達目標】 The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1.</p> <p>第 2 回 Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion.</p> <p>第 3 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries)</p> <p>第 4 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion.</p> <p>第 5 回 Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny.</p> <p>第 6 回 Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion.</p> <p>第 7 回 Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts).</p> <p>第 8 回 Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion.</p> <p>第 9 回 Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics.</p> <p>第10 回 Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion.</p> <p>第11 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts).</p> <p>第12 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video). Unit 5 discussion.</p> <p>第13 回 Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11th (video).</p> <p>第14 回 Unit 7 discussion.</p> <p>第15 回 Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class discussions (40%) + final report (60%).		
実務経験について	I am specialized in world history, specially from 16th to 18th centuries.		

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステータスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013年)</p> <p>(2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995年)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1)</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2)</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム (1)</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム (2)</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム (3)</p> <p>第7回 大西洋奴隷貿易 (1): ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 大西洋奴隷貿易 (2): 海洋国家オランダ</p> <p>第9回 大西洋奴隷貿易 (3): 奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 資本主義世界と奴隷制: 地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 資本主義世界と奴隷制: ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 まとめ: 砂糖と紅茶—ティータイム儀礼化に内包された歴史</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、発表 (30%)、最終レポート (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語 (英語、中国語) の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 日英中の対照 (1): 主語の立て方</p> <p>第3回 日英中の対照 (2): 主語の顕示と暗示</p> <p>第4回 日英中の対照 (3): 実際の発話における文の形</p> <p>第5回 日英中の対照 (4): 時に関する比較①</p> <p>第6回 日英中の対照 (5): 時に関する比較②</p> <p>第7回 日英中の対照 (6): 呼びかけ語の比較①</p> <p>第8回 日英中の対照 (7): 呼びかけ語の比較②</p> <p>第9回 日英中の対照 (8): 待遇表現に関する比較①</p> <p>第10回 日英中の対照 (9): 待遇表現に関する比較②</p> <p>第11回 日英中の対照 (10): 言語行動に関する比較①</p> <p>第12回 日英中の対照 (11): 言語行動に関する比較②</p> <p>第13回 発表準備</p> <p>第14回 学生による発表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度及び発表: 60%, レポート: 40%			
実務経験について	なし			

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第 2回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音</p> <p>第 3回 音声学・音韻論 (2)：モーラ、音節①</p> <p>第 4回 音声学・音韻論 (3)：モーラ、音節②</p> <p>第 5回 音声学・音韻論 (4)：連濁、枝分かれ制約</p> <p>第 6回 形態論 (1)：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第 7回 形態論 (2)：新語、流行語</p> <p>第 8回 意味論 (1)：単語の意味</p> <p>第 9回 意味論 (2)：類義語と対義語</p> <p>第 10回 語用論 (1)：発話行為論①</p> <p>第 11回 語用論 (2)：発話行為論②</p> <p>第 12回 語用論 (3)：発話機能と語学教育</p> <p>第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差</p> <p>第 14回 これまでの復習</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題：50%、期末試験：50%							
実務経験について								

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官、音声記号</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音、母音の無声化、促音化</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻、音素と異音</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布、条件異音と自由異音、特殊音素</p> <p>第 7回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第 8回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント、イントネーション、プロミネンス</p> <p>第 9回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色</p> <p>第 10回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表、字音と字訓、漢字の成り立ち</p> <p>第 11回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名、片仮名、ローマ字</p> <p>第 12回 現代日本語の語彙 1：語と語彙、語構成</p> <p>第 13回 現代日本語の語彙 2：語種（和語、漢語、外来語、混種語）</p> <p>第 14回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性、理解語彙と使用語彙）</p> <p>第 15回 復習とまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%）、小テストの成績（40%）							
実務経験について								

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。
なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本文学史Ⅰ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2回 古代その1：上代の説話文学（1）</p> <p>第 3回 古代その2：上代の説話文学（2）</p> <p>第 4回 古代その3：上代の説話文学（3）</p> <p>第 5回 古代その4：祝詞・宣命</p> <p>第 6回 古代その5：漢詩文</p> <p>第 7回 古代その6：上代の和歌・歌謡（1）</p> <p>第 8回 古代その7：上代の和歌・歌謡（2）</p> <p>第 9回 古代その8：上代の和歌・歌謡（3）</p> <p>第10回 古代その9：中古の漢詩文（1）</p> <p>第11回 古代その10：中古の漢詩文（2）</p> <p>第12回 古代その11：中古の和歌（1）</p> <p>第13回 古代その12：中古の和歌（2）</p> <p>第14回 古代その13：中古の物語（1）</p> <p>第15回 古代その14：中古の物語（2）</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学史Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 古代その15：中古の物語（3）源氏物語</p> <p>第 2回 古代その16：中古の物語（4）源氏物語</p> <p>第 3回 古代その17：中古の日記</p> <p>第 4回 古代その18：中古の随筆</p> <p>第 5回 古代その19：中古の歴史物語</p> <p>第 6回 古代その20：中古の説話</p> <p>第 7回 中世その1：中世の和歌（1）</p> <p>第 8回 中世その2：中世の和歌（2）</p> <p>第 9回 中世その3：中世の和歌（3）</p> <p>第10回 中世その4：連歌・歌謡</p> <p>第11回 中世その5：中世の漢詩文</p> <p>第12回 中世その6：物語・日記・紀行・随筆</p> <p>第13回 中世その7：歴史物語・説話文学</p> <p>第14回 中世その8：戦記物語・謡曲</p> <p>第15回 中世その9：謡曲・狂言</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本簿教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第 6回 教材分析</p> <p>第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 8回 教授法②：授業見学</p> <p>第 9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第 10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第 11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第 14回 模擬授業の準備</p> <p>第 15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%			
実務経験について				

授業科目	国際経済論		担当者	野村 俊郎
	[履修年次]		授業外対応	
	[学期]		[単位]	
			[必修/選択]	
			[授業形態]	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				
実務経験について				

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠広
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化</p> <p>第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1</p> <p>第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2</p> <p>第 7 回 国際関係のなりたち 4：核兵器について</p> <p>第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発</p> <p>第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題</p> <p>第 13 回 国際社会における諸問題 4：保守化する世界</p> <p>第 14 回 国際社会における諸問題 5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。			
実務経験について	NGO での勤務経験あり			

授業科目	検定対策講座 I		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】実用英語技能検定試験 2 級レベルの語彙力強化と長文読解力の養成および英文法の再確認</p> <p>【概要】授業では語彙力とリーディング力の強化をはかります。長文読解問題を読んで、ある程度正確に訳して内容を理解してもらいたいことを求めます。つまり、提出された訳をチェックして間違い等を指摘し、正しい読解へと導く授業を展開します(個別指導型授業)。また、授業中に文法・語彙問題を解いてもらいます。</p> <p>【到達目標】実用英語技能検定試験 2 級レベルの長文読解問題をある程度正確に理解する力および文法・語彙力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明)、受講生のレベルの確認</p> <p>第 2 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (1)</p> <p>第 3 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (2)</p> <p>第 4 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (3)</p> <p>第 5 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (4)</p> <p>第 6 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (5)</p> <p>第 7 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (6)</p> <p>第 8 回 確認のための小テスト</p> <p>第 9 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (7)</p> <p>第 10 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (8)</p> <p>第 11 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (9)</p> <p>第 12 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (10)</p> <p>第 13 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (11)</p> <p>第 14 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題 (12)</p> <p>第 15 回 確認のための小テスト+まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	プリント問題を訳して授業に臨む(予習)、確認のための小テスト(復習)			
成績評価の方法	予習および確認のための小テストを含む授業への取り組み (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	演習 I		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2 回 発表と討論：多文化主義的家族像 (1)</p> <p>第 3 回 発表と討論：多文化主義的家族像 (2)</p> <p>第 4 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶 (1)</p> <p>第 5 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶 (2)</p> <p>第 6 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象 (1)</p> <p>第 7 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象 (2)</p> <p>第 8 回 発表と討論：エキゾティズム—他者憧憬と他者恐怖 (1)</p> <p>第 9 回 発表と討論：エキゾティズム—他者憧憬と他者恐怖 (2)</p> <p>第 10 回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である (1)</p> <p>第 11 回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である (2)</p> <p>第 12 回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ (1)</p> <p>第 13 回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ (2)</p> <p>第 14 回 発表と討論：表象とその臨界 (1)</p> <p>第 15 回 発表と討論：表象とその臨界 (2) とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%)、演習全体への積極的な参加態度 (40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	演習 I		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】認知と言語の関係、日本語と英語の対照。</p> <p>【概要】認知言語学の立場から、主に意味に関する言語事象について理解を深める。</p> <p>【到達目標】人間の認知と言語の接点について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村益寛 (2014) 『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 第1章 世界の立ち現われ方1</p> <p>第 3 回 第2章 世界の立ち現われ方2</p> <p>第 4 回 第3章 意味とは何か?</p> <p>第 5 回 第4章 比喩1</p> <p>第 6 回 第5章 比喩2</p> <p>第 7 回 第6章 意味変化</p> <p>第 8 回 第7章 多義語</p> <p>第 9 回 第8章 語から文へ</p> <p>第 10 回 第9章 文法とは何か?</p> <p>第 11 回 第10章 文法マーカ―・品詞・文法関係</p> <p>第 12 回 第11章 他動性</p> <p>第 13 回 第12章 文法化</p> <p>第 14 回 第14章 日英対照研究</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上、復習2時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + レポートとプレゼンテーション (40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	演習 I		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文学とアダプテーション映画の比較考察</p> <p>【概要】1～9回は小泉堯史監督『博士の愛した数式』およびアン・リー監督『いつか晴れた日に』の映画を用いてアダプテーション映画の魅力を考えます。10～15回は『クリスマス・キャロル』の小説と映画を用いてゼミ生に「アダプテーション理論」を実践してもらい、結果報告を求めます。授業は作品に関するディスカッションおよびプレゼンテーションが中心です。</p> <p>【到達目標】アダプテーション映画の魅力を理解する。文学的視点から映画を鑑賞する力を身に付ける。プレゼンをとおして自らの考えを発信できる力を身に付け、同時に他の学生のプレゼンを聴いて質問できる力を養う（発信力とディスカッション力）。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小川洋子『博士の愛した数式』 新潮文庫</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明)</p> <p>第 2回 映画『博士の愛した数式』に関するディスカッション (1)</p> <p>第 3回 映画『博士の愛した数式』に関するディスカッション (2)</p> <p>第 4回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察 (1)</p> <p>第 5回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察 (2)</p> <p>第 6回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察 (3)</p> <p>第 7回 プレゼンテーション</p> <p>第 8回 映画『いつか晴れた日に』とソネット 116 番に関するディスカッション (1)</p> <p>第 9回 映画『いつか晴れた日に』とソネット 116 番に関するディスカッション (2)</p> <p>第 10回 プレゼンテーション</p> <p>第 11回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画：「アダプテーション理論」の実践 (1)</p> <p>第 12回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画：「アダプテーション理論」の実践 (2)</p> <p>第 13回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画：「アダプテーション理論」の実践 (3)</p> <p>第 14回 各自の実践報告 (プレゼンテーション)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	ディスカッションの準備としてスクリプトを読む, 小川洋子の小説を読む, プレゼンのためのパワーポイント作り			
成績評価の方法	授業への取り組み (70%), プレゼンテーション (30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	演習 I		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年		授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション, 英語教育学, ワークショップのデザインと実践</p> <p>【概要】グループごとに異文化コミュニケーション, 英語教育学に関する文献を読み, 内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。</p> <p>【到達目標】①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション, 英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ゼミの進め方についてのガイダンス</p> <p>第 2回 グループ発表 1 の準備 1</p> <p>第 3回 グループ発表 1 の準備 2</p> <p>第 4回 グループ発表 1</p> <p>第 5回 グループ発表 2 の準備 1</p> <p>第 6回 グループ発表 2 の準備 2</p> <p>第 7回 グループ発表 2</p> <p>第 8回 グループ発表 3 の準備 1</p> <p>第 9回 グループ発表 3 の準備 2</p> <p>第 10回 グループ発表 3</p> <p>第 11回 グループ発表 4 の準備 1</p> <p>第 12回 グループ発表 4 の準備 2</p> <p>第 13回 グループ発表 4</p> <p>第 14回 研究テーマと研究構想についての報告 1</p> <p>第 15回 研究テーマと研究構想についての報告 2</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上, 復習が 3 時間以上必要である。			
成績評価の方法	グループ発表 30% グループ調査報告 30% レポート 40% で評価する。			
実務経験について				

授業科目	演習Ⅰ		担当者	ガルシア・アロヨ・ホルヘ
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American pop culture in relation to that of Japan.</p> <p>【概要】 In this class we will study and discuss how American values are represented in American popular culture and compare it to that of Japan.</p> <p>We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures.</p> <p>【到達目標】 The students will understand the main points of American popular culture in relation with American values and its differences with that of Japan</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher.</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 Brief introduction to American cultural values.</p> <p>第 3 回 American values in American music I. Introduction. The 19th century.</p> <p>第 4 回 American values in American music II. The 1940s-1950s</p> <p>第 5 回 American values in music III. The 1960s-1970s</p> <p>第 6 回 American Values values in American music IV: 1980s-1990s</p> <p>第 7 回 Discussion: K-pop vs J-pop vs American pop music</p> <p>第 8 回 American values in pop culture characters I. Introduction. The 1930s-1940s</p> <p>第 9 回 American values in pop culture characters II. The 1950s-1960s</p> <p>第 10 回 American values in pop culture characters II. The 1970s-1990s</p> <p>第 11 回 Special activity I: viewing of the MCU movie “Captain America, the First Avenger”. Discussion on the movie.</p> <p>第 12 回 Special activity II: viewing of Zack Snyder’s “Watchmen”.</p> <p>第 13 回 Discussion: comments on Zack Snyder’s “Watchmen”</p> <p>第 14 回 Discussion: American superheroes vs Japanese manga heroes.</p> <p>第 15 回 Course review.</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Participation in class (40%) + final report (60%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.			

授業科目	演習Ⅱ		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 2単位	[授業外対応] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 翻訳で学ぶ異文化接触</p> <p>【概要】 二つの言語と文化が真っ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会 左記以外も授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション</p> <p>第 2 回 英和辞典活用法：抽象語を翻訳する</p> <p>第 3 回 入試英語とは何か</p> <p>第 4 回 英語の女言葉：ジェンダーと敬語</p> <p>第 5 回 英英辞典活用法：歴史的テキストを翻訳する</p> <p>第 6 回 行間の＜傾向＞を読みとる</p> <p>第 7 回 正しい翻訳とは</p> <p>第 8 回 小説の翻訳：日本語の得意技</p> <p>第 9 回 論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い</p> <p>第 10 回 漢文訓読と英文解釈</p> <p>第 11 回 直訳から「超訳」へ</p> <p>第 12 回 映し合う二つのテキスト：英訳された『雪国』</p> <p>第 13 回 哲学の言葉の翻訳</p> <p>第 14 回 翻訳の記号論：虚構としての言語</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (50%)、討論への積極的な参加態度 (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	演習Ⅱ		担当者	遠峯 伸一郎				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語表現に見られる人間の認知モード、日本語と英語の対照。英語研究の手法。</p> <p>【概要】「演習Ⅰ」に続いて、事態把握の方法について学習を深める。併せて、卒業研究執筆に向けて、論文執筆のためのルールを学ぶ。</p> <p>【到達目標】人間の認知と言語の接点について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業で紹介する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 レポートや論文のルール</p> <p>第3回 プレゼンテーションからレポートへ</p> <p>第4回 論文講読1 (尾野 (2014) (1))</p> <p>第5回 論文講読1 (尾野 (2014) (2))</p> <p>第6回 論文講読1 (尾野 (2014) (3))</p> <p>第7回 論文講読1 (尾野 (2014) (4))</p> <p>第8回 論文講読1 (尾野 (2014) (5))</p> <p>第9回 論文講読2 (尾野 (2008) (1))</p> <p>第10回 論文講読2 (尾野 (2008) (2))</p> <p>第11回 論文講読2 (尾野 (2008) (3))</p> <p>第12回 論文講読2 (尾野 (2008) (4))</p> <p>第13回 論文講読2 (尾野 (2008) (5))</p> <p>第14回 受講者による発表</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習2時間, 復習3時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポートとプレゼンテーション (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	演習Ⅱ		担当者	轟 義昭				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「アダプテーション理論」の実践と報告および卒業論で取り組む土台作り</p> <p>【概要】1～5回は『クリスマス・キャロル』の小説と映画を用いて学生に「アダプテーション理論」を実践してもらい、結果報告を求めます。6～10回は先輩たちが取り組んだ卒業論文を読んで、「アダプテーション理論」に基づく作成の仕方を学習します。11～15回は後期の「卒業研究」で取り組みたい題材を見つけて、各自調査を進めてもらいます。</p> <p>【到達目標】「アダプテーションの理論」を実践し、文学的な視点から映画の良さと魅力を理解する。後期から卒の卒業研究論文にムーズに取り組めるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明)</p> <p>第2回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (1)</p> <p>第3回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (2)</p> <p>第4回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (3)</p> <p>第5回 取り組みの実践報告</p> <p>第6回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (1)</p> <p>第7回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (2)</p> <p>第8回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (3)</p> <p>第9回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (4)</p> <p>第10回 報告 (先輩たちの卒業論文から学んだこと)</p> <p>第11回 卒論の取り組み: 各自の調査 (1)</p> <p>第12回 卒論の取り組み: 各自の調査 (2)</p> <p>第13回 卒論の取り組み: 各自の調査 (3)</p> <p>第14回 卒論の取り組み: 各自の調査 (4)</p> <p>第15回 まとめ (各自の調査報告)</p>							
授業外学習(予習・復習)	実践報告のパワーポイント作り							
成績評価の方法	授業への取り組み (70%), 実践報告 (プレゼンテーション) (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	演習Ⅱ		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年		授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 浦野研・亘陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 (2016) 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社</p> <p>佐野正之 (2000) 『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』 大修館書店</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス、研究テーマと研究構想についての報告</p> <p>第 2 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1</p> <p>第 3 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2</p> <p>第 4 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3</p> <p>第 5 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4</p> <p>第 6 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5</p> <p>第 7 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6</p> <p>第 8 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7</p> <p>第 9 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8</p> <p>第 10 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 9</p> <p>第 11 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 10</p> <p>第 12 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 11</p> <p>第 13 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 12</p> <p>第 14 回 中間発表 1</p> <p>第 15 回 中間発表 2</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。			
成績評価の方法	報告とディスカッション 30% 中間発表 30% レポート 40%で評価する。			
実務経験について				

授業科目	演習Ⅱ		担当者	ガルシア・アロヨ・ホルヘ
	[履修年次] 2年		授業外対応	By coming to my office or by email
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American pop culture in comparison of that of Japan, and through interaction to the analysis of Ernest Hemingway's works</p> <p>【概要】 Continuation of the 「演習Ⅰ」 this time focusing on fast-food culture and Hollywood. Finally through the topic of Hollywood we will connect with Ernest Hemingway and his works.</p> <p>【到達目標】 【到達目標】 The students will understand the main points of American popular culture in relation with American values and its differences with that of Japan. Also they will have a clear general vision of Ernest Hemingway and his works in order to understand this author's views on America, Europe and other topics such as war.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 The Hamburger Country. Fast-food and the American way I. Introduction.</p> <p>第 3 回 The Hamburger Country. Fast-food and the American way II. The emergence of the fast-food industry: White Castle</p> <p>第 4 回 The Hamburger Country. Fast-food and the American way III. The consolidation of the fast-food industry: the real American dreamers.</p> <p>第 5 回 The Hamburger Country. Fast-food and the American way IV. Fast-food in American life.</p> <p>第 6 回 Special activity: viewing of the movie "The Founder". Discussion on the movie.</p> <p>第 7 回 Discussion: Japanese "American" fast food.</p> <p>第 8 回 Hollywood, the land of dreams I. Introduction</p> <p>第 9 回 Hollywood, the land of dreams II. Two typical American movie genres: Gangsters and cowboys.</p> <p>第 10 回 Hollywood, the land of dreams III. The movies of the 1950s-1960. Discussion: Disney Princesses and American values.</p> <p>第 11 回 Hollywood, the land of dreams IV: The movies from the 1970s-2000s. Discussion: Hollywood in Japan?</p> <p>第 12 回 Ernest Hemingway I. Who was this guy?</p> <p>第 13 回 Ernest Hemingway II. His works and topics. Spanish Hemingway.</p> <p>第 14 回 Hemingway at war</p> <p>第 15 回 Hemingway final discussion (conclusion). Course review.</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class discussion (40%) + final presentation (60%)			
実務経験について	I am specialized in 19th and 20th centuries American literature			

授業科目	卒業研究		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 テーマの確認と指導</p> <p>第 3回 研究論文執筆の指導：文献収集など</p> <p>第 4回 研究論文執筆の指導：論文の構成1</p> <p>第 5回 研究論文執筆の指導：論文の構成2</p> <p>第 6回 研究論文執筆の指導：論文の構成3</p> <p>第 7回 中間発表1</p> <p>第 8回 研究論文執筆の指導：論文の書き方1</p> <p>第 9回 研究論文執筆の指導：論文の書き方2</p> <p>第 10回 研究論文執筆の指導：論文の書き方3</p> <p>第 11回 中間発表2</p> <p>第 12回 中間発表3</p> <p>第 13回 中間発表4</p> <p>第 14回 卒業研究発表について</p> <p>第 15回 まとめ及び卒業研究発表の練習</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への取り組み態度 (30%)、卒業研究論文 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎演習 I、英語学演習での学習成果を卒業研究にまとめる。</p> <p>【概要】基礎演習 I と英語学演習 I を通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 個別指導(1)</p> <p>第 3回 個別指導(2)</p> <p>第 4回 卒業研究テーマについての中間発表</p> <p>第 5回 個別指導(3)</p> <p>第 6回 個別指導(4)</p> <p>第 7回 先行研究と資料についての中間発表(1)</p> <p>第 8回 先行研究と資料についての中間発表(2)</p> <p>第 9回 個別指導(5)</p> <p>第 10回 個別指導(6)</p> <p>第 11回 考察についての中間発表</p> <p>第 12回 個別指導(7)</p> <p>第 13回 個別指導(8)</p> <p>第 14回 英文サマリーの作成</p> <p>第 15回 プレゼンテーション資料の作成</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (10%) + 卒業研究 (90%)			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「課題探求・解決能力」の育成（各自が設定したテーマに基づいて研究を進める）</p> <p>【概要】各自が設定した研究を進めることとします。担当者はアドバイスして論文の完成を補助します。 *卒業研究論文は日本語で作成しても構いません。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付してもらいます。もちろん、英語での作成が望ましいと思っています。</p> <p>【到達目標】卒業研究論文を完成する（「課題探求・解決能力」の集大成）。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 随時プリントを配布する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、卒業論文作成のスケジュール等の確認、テーマの選定と絞り込みの指導（過去の事例の紹介）、文献収集の指導、卒業論文（論の展開の仕方、「はじめに」の書き方）の指導</p> <p>第 2 回 個別指導（1）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 3 回 個別指導（2）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 4 回 個別指導（3）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 5 回 個別指導（4）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 6 回 個別指導（5）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 7 回 中間発表：進捗状況の確認</p> <p>第 8 回 中間発表：進捗状況の確認</p> <p>第 9 回 個別指導（6）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 10 回 個別指導（7）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 11 回 個別指導（8）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 12 回 個別指導（9）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第 13 回 英文サマリーの作成指導</p> <p>第 14 回 提出前の最終指導（レイアウト、目次、参考文献などの確認、英文サマリーの確認）</p> <p>第 15 回 プレゼンテーションのためのパワーポイント作り</p>			
授業外学習(予習・復習)	担当者が指導・助言ができるように、1日前に原稿を送る。アドバイスを受けて修正し、次回分に取り組む			
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（60%）、授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション（10%）			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究		担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
			[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究し、卒業研究を完成させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス、夏休みの報告、卒業研究 first draft 提出</p> <p>第 2 回 研究報告 1</p> <p>第 3 回 研究報告 2</p> <p>第 4 回 研究報告 3</p> <p>第 5 回 研究報告 4</p> <p>第 6 回 研究報告 5</p> <p>第 7 回 研究報告 6</p> <p>第 8 回 研究報告 7</p> <p>第 9 回 研究報告 8、卒業研究発表原稿 first draft 提出</p> <p>第 10 回 卒業研究発表会の資料作成 1、</p> <p>第 11 回 卒業研究発表会の資料作成 2</p> <p>第 12 回 卒業研究発表の練習 1</p> <p>第 13 回 卒業研究発表の練習 2</p> <p>第 14 回 卒業研究発表の練習 3</p> <p>第 15 回 まとめと全体討論</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。			
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60%で評価する。			
実務経験について				

授業科目	卒業研究	担当者	ガルシア・アロヨ・ホルヘ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	By coming to my office or by email
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper.</p> <p>【概要】 Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation.</p> <p>【到達目標】 To make the students able to write and present their graduation thesis.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. 第 2 回 What is an academic research? 第 3 回 Research topic guidance (1) 第 4 回 Research topic guidance (2) 第 5 回 How a research is conducted? (1) 第 6 回 How a research is conducted? (2) 第 7 回 Student research guidance (1) 第 8 回 Student research guidance (2) 第 9 回 Student research guidance (3) 第 10 回 Student presentation guidance (1) 第 11 回 Student presentation guidance (2) 第 12 回 Student presentation guidance (3) 第 13 回 Some hints on academic English. Preparation of presentation materials. 第 14 回 Presentation (1) 第 15 回 Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	in-class activities (40%) + final presentation (60%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2020.		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論		担当者	多田 司 浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か?についても考えていく。(第1回～第8回:多田担当, 第9回～第15回:浅海担当)</p> <p>【到達目標】生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス－生活を科学する?</p> <p>第2回 食生活の科学1－自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2－栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3－安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4－食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1－生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2－生活に及ぼす化学物質の影響について・その1</p> <p>第8回 生活環境の科学3－生活に及ぼす化学物質の影響について・その2</p> <p>第9回 衣生活の現状1－戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える</p> <p>第10回 衣生活の現状2－衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能－住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する1－25歳一人暮らしの生活費について考える(理想の生活パターンと改善)</p> <p>第13回 将来の生活を設計する2－25歳一人暮らしの生活費について考える(生活を維持するための手段や工夫)</p> <p>第14回 自立した消費者になるために－消費者の権利と責任について考える</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けて－SDGsやエシカル消費について考える</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	多田担当分(50%):レポート(40%)+講義への取り組み状況(10%) 浅海担当分(50%):ワークシート(25%)+レポート(25%)							
実務経験について	なし							

授業科目	生活経営学		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	生活1年, 食栄2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活経営とは何かを含め、生活を営む上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1:生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2:家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3:男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4:労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5:経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6:経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7:家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8:子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9:高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1:地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2:環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3:政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4:自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験(70%)+授業での活動内容(30%)							
実務経験について	なし							

(注)生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論	担当者	飯田 都
	〔履修年次〕 生活1年, 食栄2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		〔必修/選択〕	必修(生活〔授業形態〕 (注) 選択(食栄)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】理論的な見地から人間関係を理解し,自分自身を取り巻く人間関係について振り返る。</p> <p>【概要】私たち人間は他者との関わりなしには社会生活を送ることができない。しかし,一人一人が異なる価値観と対人態度を持つ以上,なかなか円滑には良好な関係を築くのは難しいものである。本講義においては,家族から職場に至るまで,様々な場面で人間関係についての基礎的な知見を概観するとともに,体験的なワークを通し,コミュニケーションのスキルを学んでいく。</p> <p>【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を理解する。②人間関係のスキルを体験的に理解することを通し,自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 服部祥子(2003).『人を育む人間関係論 ―援助専門職者として,個人として―』 医学書院</p> <p>(2) 岡堂哲雄編(2000).『人間関係論入門 ―ナースのための心理学―』金子書房</p> <p>谷口弘一・福岡欣治編著(2006).『対人関係と適応の心理学 ―ストレス対処の理論と実践―』 北大路書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間関係論の視点</p> <p>第3回 自分と他者の関係性</p> <p>第4回 他者とのコミュニケーション</p> <p>第5回 人間関係のスキルトレーニング</p> <p>第6回 人間関係の発達</p> <p>第7回 人間関係に関する基礎知識:家族</p> <p>第8回 人間関係に関する基礎知識:夫婦</p> <p>第9回 人間関係に関する基礎知識:親子</p> <p>第10回 人間関係に関する基礎知識:教師と生徒</p> <p>第11回 人間関係に関する基礎知識:職場</p> <p>第12回 対人態度</p> <p>第13回 人間関係と集団のダイナミクス</p> <p>第14回 実習体験:援助的コミュニケーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題 (50%) ,試験 (50%)		
実務経験について			

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	社会福祉論	担当者	石踊 紳一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	授業終了時
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉とは何か?について,社会福祉の歴史的展開,法と行財政,ソーシャルワーク,地域ケアシステムなど,実践の中から総合的に理解する。</p> <p>【概要】1. 日本及びヨーロッパの社会福祉の歴史的変遷を概観する。 2. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 3. 社会福祉のそれぞれの領域での実践活動を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 社会福祉の歴史,制度,政策を理解し,これからの社会福祉の方向性を探ることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「新社会福祉とはなにか 第4版」 大久保秀子著 中央法規出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会福祉とは何かについて学ぶ。</p> <p>第2回 日本・ヨーロッパにおける社会福祉の歴史的展開について学ぶ。</p> <p>第3回 社会福祉基礎構造改革について学ぶ。</p> <p>第4回 契約制度における福祉サービス提供の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第5回 ソーシャルワークについて理解する。</p> <p>第6回 生活保護制度について学ぶ。</p> <p>第7回 児童福祉と次世代育成の展開について学ぶ。</p> <p>第8回 障がい者の自立と福祉について学ぶ。</p> <p>第9回 高齢者福祉の歴史について学ぶ。</p> <p>第10回 介護保険制度について学ぶ。</p> <p>第11回 ケアマネジメントの実践について学ぶ。</p> <p>第12回 身体拘束適正化・虐待防止について学ぶ。</p> <p>第13回 高齢者の認知症について理解する。</p> <p>第14回 地域福祉の展開と地域包括ケアシステムを理解する。</p> <p>第15回 これからの社会福祉を探る。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習では該当する箇所をテキストで確認する。復習は学んだ内容を資料等で読み直す。		
成績評価の方法	授業ごとに期間中に3回程度的小論文30% 学期末テスト(記述)70%		
実務経験について	社会福祉法人理事長, 高齢者福祉施設の施設長, 非常勤講師(大学)		

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ		担当者	中島 一喜
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	必修
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分の概要と、その働きについて学習する。</p> <p>【概要】食品の三つの機能「栄養面での一次機能(栄養機能)」「嗜好面での二次機能(感覚機能)」「病気予防面での三次機能(生体調節機能)」を中心に、食品の構成成分や役割について解説する。</p> <p>【到達目標】食品に含まれる成分とその機能について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食品</p> <p>第2回 食品の一次機能:水分</p> <p>第3回 食品の一次機能:たんぱく質</p> <p>第4回 食品の一次機能:アミノ酸</p> <p>第5回 食品の一次機能:酵素</p> <p>第6回 食品の一次機能:炭水化物</p> <p>第7回 食品の一次機能:脂質</p> <p>第8回 食品の一次機能:ビタミン</p> <p>第9回 食品の一次機能:ミネラル</p> <p>第10回 食品の二次機能:色素成分</p> <p>第11回 食品の二次機能:呈味成分</p> <p>第12回 食品の二次機能:におい成分</p> <p>第13回 食品の三次機能:食品の機能性</p> <p>第14回 食品の三次機能:保健機能食品</p> <p>第15回 食品の表示</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%			
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品学Ⅱ		担当者	中島 一喜
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	必修
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の種類と成分について学ぶとともに、食品の加工利用に対する考え方を理解する。</p> <p>【概要】植物性食品、動物性食品、調味料、油脂、香辛料、嗜好性飲料について、その成分や特性および機能性について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と特徴、および含有する主要な成分について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 植物性食品:穀類</p> <p>第2回 植物性食品:穀類の利用</p> <p>第3回 植物性食品:いも類</p> <p>第4回 植物性食品:豆類</p> <p>第5回 植物性食品:種実類</p> <p>第6回 植物性食品:野菜類</p> <p>第7回 植物性食品:野菜類の利用</p> <p>第8回 植物性食品:果実類</p> <p>第9回 植物性食品:果実類の利用</p> <p>第10回 動物性食品:きのこ類、藻類</p> <p>第11回 動物性食品:食肉類</p> <p>第12回 動物性食品:魚介類</p> <p>第13回 動物性食品:乳類</p> <p>第14回 動物性食品:卵類</p> <p>第15回 油脂, 調味料, 香辛料, 嗜好性飲料</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%			
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品学実験		担当者	中島 一喜	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分などを分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。</p> <p>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。</p> <p>【到達目標】各種実験器具の取り扱いや食品成分の基礎的な分析方法について理解する。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社のほか、適宜紹介する。				
授業スケジュール	<p>第1回 食品学実験の基礎(実験器具や試薬類の取り扱い方法)</p> <p>第2回 溶液の濃度計算 1(溶液の調製法)</p> <p>第3回 溶液の濃度計算 2(溶液の希釈法)</p> <p>第4回 溶液の濃度計算 3(微濃度溶液の調製法)</p> <p>第5回 酸性水溶液の調整(酸の濃度と pH の関連)</p> <p>第6回 アルカリ性水溶液の調製(アルカリの濃度と pH の関連)</p> <p>第7回 タンパク質の定量 1(検量線の作成)</p> <p>第8回 タンパク質の定量 2(試料中のたんぱく質定量)</p> <p>第9回 アミノ酸の検出(ニンヒドリン法による検出)</p> <p>第10回 アミノ酸の同定(薄層クロマトグラフィーによる同定)</p> <p>第11回 食品に含まれる糖類の分析(還元糖)</p> <p>第12回 食品に含まれる色素の分析(カロテノイド)</p> <p>第13回 食品の酵素的褐変(りんごの酵素的褐変とその防止法)</p> <p>第14回 糖酸度の測定(ポケット糖酸度計による測定法)</p> <p>第15回 食品学実験の総括(実験器具類の整理と保管)</p>				
授業外学習(予習・復習)	レポート課題を中心に、復習を確実にすること。				
成績評価の方法	実験レポート 70%、実験への取り組み 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品加工学		担当者	中島 一喜	
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術、それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品、発酵食品、調味料、嗜好食品、インスタント食品、油脂食品について解説する。</p> <p>【到達目標】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p>				
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2) 太田英明ら著『イラスト 食品加工・食品機能実験 第4版』東京教学社のほか、適宜紹介する。				
授業スケジュール	<p>第1回 食品保蔵技術(水分と水分活性 他)</p> <p>第2回 食品保蔵技術(低温保存 殺菌 他)</p> <p>第3回 食品保蔵技術(CA 貯蔵 他)</p> <p>第4回 食品加工技術(物理的操作, 化学的操作, 生物的操作)</p> <p>第5回 食品加工技術(バイオテクノロジー)</p> <p>第6回 食品加工と成分変化(成分間反応, 褐変, 酸化 他)</p> <p>第7回 食品添加物と加工食品の安全性確保(食品添加物の目的と種類)</p> <p>第8回 保健機能食品と特別用途食品(保健機能食品の種類)</p> <p>第9回 食品の表示と規格(品質表示, 栄養成分表示, 遺伝子組換え表示, アレルギー表示, 食品の規格)</p> <p>第10回 加工食品の実習(ケチャップの試作)</p> <p>第11回 加工食品の実習(ケチャップの分析評価)</p> <p>第12回 加工食品の実習(ヨーグルトの試作)</p> <p>第13回 加工食品の実習(ヨーグルトの分析評価)</p> <p>第14回 加工食品の実習(パンの試作)</p> <p>第15回 加工食品の実習(パンの分析評価)</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業後のノート整理やレポート課題など、復習を確実にすること。				
成績評価の方法	筆記試験 50%、実習レポート 30%、授業および実習への取り組みや授業中の課題 20%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

授業科目	食品衛生学		担当者	中島 一喜
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全性を確保するために不可欠な食品衛生に関する知識を習得する。</p> <p>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。</p> <p>【到達目標】食品の安全性と衛生管理、食品の安全確保の手段と手法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西瀬弘・桧垣俊介・和島孝浩著『食品衛生学』化学同人 (2)			
授業スケジュール	第 1回 食品衛生と法規 第 2回 食品の変質(発酵と腐敗) 第 3回 食品の変質(微生物による成分変化) 第 4回 食品の変質(変質の防止) 第 5回 食中毒 1(細菌性食中毒 サルモネラ菌 他) 第 6回 食中毒 2(細菌性食中毒 ボツリヌス菌 他) 第 7回 食中毒 3(ウイルス性食中毒 他) 第 8回 食中毒(自然毒 食中毒の予防 他) 第 9回 経口感染症・寄生虫症 第 10回 食品中の汚染・有害物質(カビ毒 他) 第 11回 食品中の汚染・有害物質(化学物質 内分泌かく乱物質 他) 第 12回 食品中の汚染・有害物質(食物アレルギー 他) 第 13回 食品添加物 第 14回 食品の衛生管理(HACCP 他) 第 15回 食品の安全性(遺伝子組み換え 放射線 農薬 他)			
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%			
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品衛生学実験		担当者	中島 一喜
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品衛生化学実験や食品衛生微生物実験に関する実験器具の取り扱いや基礎的な方法について学ぶ。</p> <p>【概要】食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用法、化学試験および微生物試験について実習する。</p> <p>【到達目標】食品衛生化学および食品生成微生物学実験の実施に必要な知識と技術を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 一戸正勝ら編著『図解 食品衛生学実験 第3版』講談社のほか、適宜紹介する。			
授業スケジュール	第 1回 食品衛生化学実験(食品添加物着色料の検査) 第 2回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留たんぱく質の検査) 第 3回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留たんぱく質の検査) 第 4回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留でんぷんの検査) 第 5回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留脂質の検査) 第 6回 食品衛生化学実験(中性洗剤の検出) 第 7回 食品衛生化学実験(容器のホルムアルデヒドの溶出試験) 第 8回 食品衛生微生物学実験(微生物観察:細菌のグラム染色) 第 9回 食品衛生微生物学実験(微生物観察::培地の調製) 第 10回 食品衛生微生物学実験(微生物観察::画線培養) 第 11回 食品衛生微生物学実験(手指の衛生検査) 第 12回 食品衛生微生物学実験(食品の細菌検査) 第 13回 食品衛生微生物学実験(環境のふき取り検査) 第 14回 食品衛生微生物学実験(環境の落下菌検査) 第 15回 食品衛生微生物学実験(微生物の簡易検査方法，実験器具の整理と保管)			
授業外学習(予習・復習)	レポート課題を中心に、復習を確実にすること。			
成績評価の方法	実験レポート 70%、実験への取り組み 30%			
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	調理学		担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理操作と調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶとともに、ヒトの生理学やライフステージにおける食嗜好、食形態の変化とも絡めながら、実践的な知識を理解する。</p> <p>【到達目標】調理操作による食品素材の変化(組織・物性・栄養成分・嗜好性)を学び、調理の役割や食事設計について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山崎英恵編『調理学 食品の調理と食事設計』中山書店・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版社・日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂</p> <p>(2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 調理学の目的と意義：栄養効果・安全性・嗜好性</p> <p>第 2 回 調理操作：非加熱調理操作(計量・洗浄・切断・混合・攪拌・成形など)</p> <p>第 3 回 調理操作：加熱調理操作(湿式加熱・乾式加熱など)</p> <p>第 4 回 調理操作：調味料による操作と特徴・化学的な調理</p> <p>第 5 回 調味と味：旨味成分・香気成分</p> <p>第 6 回 調理と栄養：植物性食品①(米・小麦・いも類)</p> <p>第 7 回 調理と栄養：植物性食品②(野菜類・果物・種実類)</p> <p>第 8 回 調理と栄養：動物性食品①(卵類・乳類)</p> <p>第 9 回 調理と栄養：動物性食品②(食肉類)</p> <p>第 10 回 調理と栄養：動物性食品③(魚介類)</p> <p>第 11 回 調理と栄養：油脂類・ゲル化材料・調味料類</p> <p>第 12 回 調理と栄養：調理による栄養学的・機能的利点</p> <p>第 13 回 食事設計の意義と内容：食生活指針・食事摂取基準・食事バランスガイド</p> <p>第 14 回 献立作成：献立作成手順</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	調理学実習 I		担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】調理理論と関連づけた様々な食品の調理方法・基礎的な料理について実践しながら基本的な調理技術を習得する。</p> <p>【到達目標】調理器具の正しい使用方法と調理技術の基本、日本料理の基本調理・技術を身につけて実践できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版社</p> <p>(2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 調理学実習概要：実習実施のための諸注意・レポート作成</p> <p>第 2 回 調理技術：調理機器の使い方・包丁の使い方・切り方の基本・炊飯条件</p> <p>第 3 回 汁物・焼き物：鰹節と昆布だしを取り方と利用法、焼き物の要点(種類・調理方法と温度・前盛り)</p> <p>第 4 回 ご飯物・汁物：塩味飯と調味料の割合・煮干しだしの取り方と利用方法</p> <p>第 5 回 煮物：煮物の要点(種類・適する食品・調理方法・調味料の割合)</p> <p>第 6 回 大量調理：炊飯・スチームコンベクション料理(操作手順・揚げ物・蒸し物)</p> <p>第 7 回 蒸し物：蒸し物の要点(種類・加熱温度による蒸し方の分類・卵液の蒸し物希釈割合)</p> <p>第 8 回 揚げ物：揚げ物の要点(種類・調理方法・吸油量・揚げ温度と時間)</p> <p>第 9 回 ご飯物・和え物：味つけの具と調味料の割合・和え物の種類と和え衣の配合</p> <p>第 10 回 電子レンジ活用：スピード調理(操作手順・出力ワット数・加熱時間)</p> <p>第 11 回 冷凍食品</p> <p>第 12 回 ご飯物・酢の物：親子井用の鍋の扱い・酢の物(適する食品・調味料の割合)</p> <p>第 13 回 麺類：麺類の要点(種類・茹で方・茹で麺の重量に対する割合・調味料の割合)</p> <p>第 14 回 郷土料理：郷土料理の分類・行事食・お盆料理(にがごりの扱い)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。			
成績評価の方法	実技試験(40%)、実習ノート(30%)、実習への取り組み・参加状況(30%)により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ		担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概要】 日本料理・西洋料理・中国料理の3分野を中心に個人の食事から給食施設における大量調理への応用を習得する。 【到達目標】 献立作成、衛生観念を身につけ、少人数の家庭料理から大量調理への応用ができる力を養う。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版社 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版社			
授業スケジュール	第1回 調理学実習概要：課題の報告 第2回 日本料理の特徴と調理：もち米の扱い・三色おはぎ・魚のすり流し汁 第3回 西洋料理の特徴と調理：プイヨンの分類と取り方・挽肉の扱い・ヴィネグレットソース 第4回 中国料理の特徴と調理：軍湯の分類と取り方・中華素材と器具の扱い 第5回 日本料理の特徴と調理：炊き込みご飯・きのこのホイル焼き・茶碗蒸し 第6回 西洋料理の特徴と調理：チキンピラフ・クラムチャウダー・マセドワーズサラダ (マヨネーズ作成) 第7回 中国料理の特徴と理解：海老の扱い・乾焼蝦仁・玉米湯・棒棒鶏 第8回 西洋料理の特徴と調理：チキンカレー・バターライス・シーフードサラダ・ピクルス 第9回 中国料理の特徴と理解：中華麺の扱い・中華の蒸し物・什景炒麵・焼売 第10回 真空調理の特徴と調理：正月料理 (仕込み) 第11回 真空調理の特徴と調理：正月料理 (本料理) 第12回 西洋料理の特徴と調理：えびグラタン (パンシメルソース)・コンソメスープ・コールスローサラダ 第13回 日本料理の特徴と調理：散らし寿司・すまし汁・お浸し 第14回 給食のための献立作成と調理 (大量調理への応用) 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。			
成績評価の方法	実技試験 (40%)、実習ノート (30%)、実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ		担当者	有村 恵美
	[履修年次] 2年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 調理学実習Ⅱの調理技術の応用 【概要】 給食施設における大量調理への応用を考慮し、食品の持つ特徴 (糊化作用・凝固作用・膨張作用など) を十分活かした調理法について習得する。 【到達目標】 おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版社 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版社			
授業スケジュール	第1回 調理学実習概要：課題の報告 第2回 日本料理の特徴と調理：郷土料理 (芋ご飯・さつま汁・さつまあげ) 第3回 西洋料理の特徴と調理：パン・ミネストローネ・サラダ 第4回 中国料理の特徴と調理：蛋花湯・酢豚・凉拌海蜇 第5回 日本料理の特徴と調理：郷土料理 (鶏飯・豚骨・ぬた) 第6回 中国料理の特徴と理解：炸春捲・奶湯龍鬚・凉拌蕃茄 第7回 実施献立 (献立作成・調理方法) 第8回 実施献立 (献立作成・調理方法) 第9回 日本料理の特徴と調理：魚講習会 (霜降りの方法と役目・刺身・三枚下ろし・魚のだし) 第10回 日本料理の特徴と調理：正月料理 (重箱の詰め方・雑煮・飾り切り) 第11回 西洋料理の特徴と調理：ビーフシチュー (ブラウンルー)・トマトファルシー・サラダ 第12回 西洋料理の特徴と調理：クリスマスケーキ 第13回 災害食・おいしいお茶の入れ方 第14回 テーブルマナー (西洋料理) 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。			
成績評価の方法	実技試験 (40%)、実習ノート (30%)、実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学総論		担当者	多田 司
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。</p> <p>【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。</p> <p>【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編、『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的</p> <p>第2回 食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について</p> <p>第3回 消化・吸収と栄養1：消化器系の構造と機能や消化酵素について</p> <p>第4回 消化・吸収と栄養2：栄養素の体内動態について</p> <p>第5回 糖質の栄養1：糖質の概要・分類について</p> <p>第6回 糖質の栄養2：体内代謝や血糖調節について</p> <p>第7回 脂質の栄養1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について</p> <p>第8回 脂質の栄養2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生体活性物質について</p> <p>第9回 タンパク質の栄養1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について</p> <p>第10回 タンパク質の栄養2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について</p> <p>第11回 エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について</p> <p>第12回 ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について</p> <p>第13回 ビタミンの栄養1：脂溶性ビタミンについて</p> <p>第14回 ビタミンの栄養2：水溶性ビタミンについて</p> <p>第15回 水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(30%)により評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学各論		担当者	寺師 睦美
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理</p> <p>【概要】【概要】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び、栄養評価法、栄養摂取法、疾患との関連等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】【到達目標】妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人・更年期、高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実践について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山下絵美ほか『応用栄養学』(化学同人)</p> <p>伊藤貞嘉、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p> <p>香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準(概要)</p> <p>第2回 食事摂取基準(活用・実践)</p> <p>第3回 乳児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第4回 乳児期の栄養(栄養補給法)</p> <p>第5回 幼児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第6回 幼児期の栄養(食事摂取基準)</p> <p>第7回 学童期の栄養(特性・食事摂取基準)</p> <p>第8回 高齢期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第9回 献立作成演習(食事摂取基準と調理方法)</p> <p>第10回 思春期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第11回 妊娠期の栄養(特性・栄養と病態)</p> <p>第12回 授乳期の栄養(特性・栄養ケア)</p> <p>第13回 成人・更年期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第14回 成人・更年期の栄養(生活習慣病)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%)，課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。			
実務経験について	病院や福祉施設等で管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学実習		担当者	寺師 睦美				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】【概要】 各ライフステージ (妊娠期, 授乳期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 成人・更年期, 高齢期など) 別の健康保持・疾病予防のための食事, 各治療食 (形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食)</p> <p>【到達目標】【到達目標】 各ライフステージ別の食形態, 疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し, 実践できる力を養う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 乳児期 (乳児期栄養の実際)</p> <p>第2回 離乳期 (離乳食の進め方の目安・実際)</p> <p>第3回 幼児期・学童期 (幼児期・学童期栄養の実際)</p> <p>第4回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第5回 幼児期・学童期 (食物アレルギー食)</p> <p>第6回 高齢期 (高齢期栄養の実際)</p> <p>第7回 一般食治療食 (形態別治療食)</p> <p>第8回 特別治療食 (エネルギー調整食)</p> <p>第9回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第10回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第11回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第12回 特別治療食 (糖尿病食)</p> <p>第13回 特別治療食 (腎臓病食)</p> <p>第14回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ,実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。							
成績評価の方法	実技試験 (40%), 実習ノート (30%), 実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。							
実務経験について	病院や福祉施設等で管理栄養士として勤務							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学		担当者	多田 司				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ</p> <p>【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 河田光博・三木健寿編、『栄養科学シリーズ NEXT 解剖生理学』, 講談社 佐藤達夫監修、『新版 からだの地図帳』, 講談社</p> <p>(2) 山口和克ほか、『新版 病気の地図帳』, 講談社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 人体の構造1:細胞・組織・器官</p> <p>第2回 人体の構造2:消化器系 (1)</p> <p>第3回 人体の構造3:消化器系 (2)</p> <p>第4回 人体の構造4:心臓・血管系</p> <p>第5回 人体の構造5:呼吸器系</p> <p>第6回 人体の機能1:内分泌系 (1)</p> <p>第7回 人体の機能2:内分泌系 (2)</p> <p>第8回 人体の機能3:代謝系</p> <p>第9回 人体の機能4:血液系</p> <p>第10回 人体の機能5:免疫系 (1)</p> <p>第11回 人体の機能6:免疫系 (2)</p> <p>第12回 人体の機能7:脳・神経系</p> <p>第13回 人体の機能8:骨格・筋肉系</p> <p>第14回 人体の機能9:感覚器官</p> <p>第15回 人体の機能10:腎臓系</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。							
成績評価の方法	期末試験 (70%) + レポート (30%) により評価する。							
実務経験について	なし							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験		担当者	多田 司
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。</p> <p>【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>			
(1)テキスト	(1) プリント			
(2)参考文献	(2) 青峰正裕、藤田守編著、『N ブックス実験シリーズ解剖生理学実験』、建帛社			
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第 2 回 骨格観察 1：頭・体躯</p> <p>第 3 回 骨格観察 2：手・足</p> <p>第 4 回 人体モデル観察 1：各種臓器</p> <p>第 5 回 人体モデル観察 2：各種臓器</p> <p>第 6 回 組織標本観察 1：胃・肝臓</p> <p>第 7 回 組織標本観察 2：膵臓・腎臓</p> <p>第 8 回 血液に関する実験 1：血球数の測定（赤血球・白血球）</p> <p>第 9 回 血液に関する実験 2：ヘモグロビンの定量</p> <p>第 10 回 血液に関する実験 3：ヘマトクリットの測定</p> <p>第 11 回 血液に関する実験 4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比）</p> <p>第 12 回 血液に関する実験 5：血糖値の定量</p> <p>第 13 回 血液に関する実験 6：総コレステロール値の定量</p> <p>第 14 回 血液に関する実験 7：HDL-コレステロール値の定量</p> <p>第 15 回 まとめ：器具洗浄、片付け</p>			
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。			
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学 I		担当者	多田 司
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。</p> <p>【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学 I では、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学 II で学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。</p>			
(1)テキスト	(1) 藪田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』、羊土社			
(2)参考文献	(2) 講義の際に適宜紹介する。			
授業スケジュール	<p>第 1 回 人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて</p> <p>第 2 回 タンパク質・アミノ酸 1：アミノ酸・ペプチドについて</p> <p>第 3 回 タンパク質・アミノ酸 2：タンパク質の種類と機能について</p> <p>第 4 回 糖質 1：単糖類・二糖類・多糖類について</p> <p>第 5 回 糖質 2：糖質の機能について</p> <p>第 6 回 脂質 1：脂質の種類と分類について</p> <p>第 7 回 脂質 2：脂質の機能について</p> <p>第 8 回 ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について</p> <p>第 9 回 ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について</p> <p>第 10 回 核酸：ヌクレオチドの構造について</p> <p>第 11 回 酵素 1：酵素の分類と性質について</p> <p>第 12 回 酵素 2：酵素反応速度について</p> <p>第 13 回 酵素 3：酵素活性の調節について</p> <p>第 14 回 ホルモン 1：ホルモンの分類について</p> <p>第 15 回 ホルモン 2：個体の調節機構とホメオスタシスについて</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅱ		担当者	多田 司
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する</p> <p>【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解することと、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 藪田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』, 羊土社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 代謝とは? : 生体エネルギーと代謝について</p> <p>第 2 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 1 : タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について</p> <p>第 3 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 2 : アミノ酸の代謝とその代謝異常について</p> <p>第 4 回 糖質の代謝 1 : 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について</p> <p>第 5 回 糖質の代謝 2 : グリコーゲンの合成と分解について</p> <p>第 6 回 糖質の代謝 3 : 糖新生、ペントース・リン酸経路、グルクロン酸経路について</p> <p>第 7 回 脂質の代謝 1 : 脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について</p> <p>第 8 回 脂質の代謝 2 : トリグリセリドとリン脂質の代謝について</p> <p>第 9 回 脂質の代謝 3 : コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について</p> <p>第 10 回 ヌクレオチドの代謝 : 塩基の合成と分解について</p> <p>第 11 回 遺伝子発現とその制御 1 : 遺伝情報の複製、転写、翻訳について</p> <p>第 12 回 遺伝子発現とその制御 2 : RNA の合成 (転写) について</p> <p>第 13 回 遺伝子発現とその制御 3 : タンパク質合成 (翻訳) について</p> <p>第 14 回 生体防御機構 1 : 非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について</p> <p>第 15 回 生体防御機構 2 : 免疫系の成り立ちについて</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験		担当者	多田 司
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定性・定量的分析</p> <p>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの分析を通してさらに理解を深める。</p> <p>【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林淳三、『新訂生化学実験』, 建帛社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験を始めるにあたって : 実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第 2 回 尿に関する実験 (1) : 尿タンパク質の定量</p> <p>第 3 回 尿に関する実験 (2) : 尿糖の検出</p> <p>第 4 回 尿に関する実験 (3) : ケトン体の検出</p> <p>第 5 回 尿に関する実験 (4) : クレアチニンの定量</p> <p>第 6 回 酵素に関する実験 : 唾液アミラーゼ活性</p> <p>第 7 回 ホルモンに関する実験 : ステロイドホルモンの分離定性</p> <p>第 8 回 ビタミンに関する実験 (1) : ビタミン B1 の定量</p> <p>第 9 回 ビタミンに関する実験 (2) : ビタミン B2 の定性</p> <p>第 10 回 栄養成分に関する実験 (1) : タンパク質の定量 (1)</p> <p>第 11 回 栄養成分に関する実験 (2) : タンパク質の定量 (2)</p> <p>第 12 回 ミネラルに関する実験 (1) : カルシウムの定量 (1)</p> <p>第 13 回 ミネラルに関する実験 (2) : カルシウムの定量 (2)</p> <p>第 14 回 ミネラルに関する実験 (3) : カルシウムの定量 (3)</p> <p>第 15 回 まとめ : 器具洗浄、器具整理、片付け</p>			
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。			
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

(注) 教職必修

授業科目	公衆衛生学	担当者	未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康管理概論		担当者	浜田 幸史				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	随時				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 自他の健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】 生涯にわたる健康的な生活を主体的に実践できるようにするため、健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進等について理解したり、考察したりする。</p> <p>【到達目標】 個人・社会生活における健康について総合的に理解し、その課題を他者に伝えることができる。現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとする態度を示すことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 保健・栄養系学生のための健康管理概論（光生館） その他、授業時に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、健康とは、保健科教育・健康教育の概要</p> <p>第 2 回 社会と健康</p> <p>第 3 回 環境と健康、レポート①</p> <p>第 4 回 健康の現状、健康増進対策</p> <p>第 5 回 主要疾患と予防対策</p> <p>第 6 回 身体活動・運動と健康、レポート②</p> <p>第 7 回 食、歯科行動と健康</p> <p>第 8 回 ストレス、休養・睡眠と健康</p> <p>第 9 回 飲酒・喫煙・薬物乱用と健康、レポート③</p> <p>第 10 回 感染症対策と健康</p> <p>第 11 回 社会保障制度と健康管理</p> <p>第 12 回 地域の健康管理、レポート④</p> <p>第 13 回 学校・職場の健康管理</p> <p>第 14 回 ライフステージ毎の健康管理</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。							
成績評価の方法	授業参画及び提出課題、筆記試験（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。							
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。							

授業科目	運動生理学		担当者	塗木 淳夫				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し、栄養学との関係を学ぶ。</p> <p>【概要】 健康の維持・増進に必要な運動と食事との関係など、運動生理学の視点から考察する。さらに、管理栄養士として運動・栄養指導を行う際に必要となる知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 運動に関する体の仕組みについて理解する。</p> <p>2) 運動遂行時に伴う生理学的な現象について理解する。</p> <p>運動・健康・スポーツの関係を意識した栄養についての視点を養う。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>(2) 「運動生理学」羊土社、「運動生理学」化学同人、「運動生理・栄養学」建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション～運動生理学と栄養学のかかわり～</p> <p>第 2 回 骨格筋の構造</p> <p>第 3 回 骨格筋の筋収縮</p> <p>第 4 回 神経系の構造</p> <p>第 5 回 神経系の役割</p> <p>第 6 回 運動と循環</p> <p>第 7 回 運動と呼吸</p> <p>第 8 回 運動パフォーマンスと呼吸循環系の関係</p> <p>第 9 回 運動とエネルギー源</p> <p>第 10 回 エネルギー消費量</p> <p>第 11 回 運動強度と栄養素の関係</p> <p>第 12 回 運動と身体組成・体格</p> <p>第 13 回 筋肉づくりとタンパク質</p> <p>第 14 回 骨づくりと栄養素・身体活動</p> <p>第 15 回 スポーツ選手の食事管理</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回及び次回授業内容を確認すること。							
成績評価の方法	筆記試験（60%）＋ 授業ごとに実施する小論文（40%）							
実務経験について	特になし							

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 給食の概念：給食の定義と目的</p> <p>第2回 給食の栄養・食事管理：献立計画・献立作成・評価</p> <p>第3回 給食の調理管理：食材管理</p> <p>第4回 給食の調理管理：調理作業管理</p> <p>第5回 給食の調理管理：安全・衛生管理</p> <p>第6回 給食の施設・設備管理：施設・設備管理の目的と調理能力</p> <p>第7回 給食の組織・人事管理：給食の組織・人事労務管理</p> <p>第8回 給食の原価管理：原価管理・収入と支出のバランス</p> <p>第9回 給食の事務管理：帳票と帳票管理・事務管理の実際</p> <p>第10回 施設種別の給食の運営：学校給食</p> <p>第11回 施設種別の給食の運営：入院時食事療養（病院給食）</p> <p>第12回 施設種別の給食の運営：児童福祉施設給食・高齢者福祉施設給食</p> <p>第13回 施設種別の給食の運営：栄養管理・献立作成</p> <p>第14回 施設種別の給食の運営：栄養管理・献立作成</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , 課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習 I		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	通年	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】給食としての食事計画、献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院</p>			
授業スケジュール	<p>オリエンテーション (実習の概要)</p> <p>献立計画：食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。</p> <p>食材購入計画：市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画：大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食：献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画：給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画：評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画：対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス：計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価：実習後のデータ整理・総合評価・まとめ (実習結果報告と反省会)</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。			
成績評価の方法	実習ノート (20%) , 報告発表 (10%) , 実習への取り組み状況 (70%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ		担当者	有村 恵美			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	〔学期〕	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学ぶ。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院</p>						
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食施設の概要 2. 給食業務の流れ 3. 給食組織と業務分担および栄養士業務 4. 栄養教育 5. 献立内容 6. 大量調理の技術 7. 食材管理 8. 衛生管理 9. 各調査と評価 10. 報告会（実習終了後、学内にて実施） 						
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み, 実習ノート作成, 報告会準備						
成績評価の方法	実習ノート (20%), 報告発表 (10%), 実習への取り組み状況 (70%) により評価する。						
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士						

(注) 栄養士必修

※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

授業科目	給食管理実習Ⅲ		担当者	有村 恵美			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	〔学期〕	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設（学校給食）での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学ぶ。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版</p> <p>(2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院</p>						
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食施設の概要 2. 給食業務の流れ 3. 給食組織と業務分担および栄養士業務 4. 栄養教育 5. 献立内容 6. 大量調理の技術 7. 食材管理 8. 衛生管理 9. 各調査と評価 10. 報告会（実習終了後、学内にて実施） 						
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み, 実習ノート作成, 報告会準備						
成績評価の方法	実習ノート (20%), 報告発表 (10%), 実習への取り組み状況 (70%) により評価する。						
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士						

(注) 栄養士必修, 教職必修

※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

授業科目	栄養教育論		担当者	中西 智美
	[履修年次] 2年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】対象とする個人や集団が QOL を高めるための適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、教育的手段を用いて好ましい食行動を実践・習慣化させることや、生活習慣病に対応するため栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することなどを目的とした教育的働きかけについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象のニーズと実態に沿って、健康や QOL の向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Visual 栄養学テキスト『栄養教育論』中山書店一第2版一</p> <p>(2) 日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育</p> <p>第 2 回 行動科学理論とモデル</p> <p>第 3 回 行動変容技法と概念</p> <p>第 4 回 栄養教育におけるカウンセリング</p> <p>第 5 回 組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開</p> <p>第 6 回 食環境づくり、栄養教育の展開</p> <p>第 7 回 栄養教育マネジメント、栄養教育の展開</p> <p>第 8 回 まとめ</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績 (60%) + 小テスト (20%) + 授業への取組・参加状況 (20%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修、教職必修 ※ 7.5 回

授業科目	栄養指導論 I		担当者	中西 智美
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基础理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握</p> <p>【概要】栄養指導に必要な基礎知識と、対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割や、その食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修武、田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学健書院第8版</p> <p>(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 栄養指導の概念、栄養指導の歴史と現状</p> <p>第 2 回 栄養指導に関連する主な法令、指標、栄養指導関連の諸施策</p> <p>第 3 回 食事摂取基準 (身体活動指数、エネルギー)</p> <p>第 4 回 食事摂取基準 (各栄養素)</p> <p>第 5 回 食品構成 (各栄養素の基準値)</p> <p>第 6 回 食品構成 (栄養比率の考え方)</p> <p>第 7 回 食品構成作成 栄養価の算定 (1)</p> <p>第 8 回 食品構成作成 栄養価の算定 (2)</p> <p>第 9 回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間)</p> <p>第 10 回 各種調査による実態把握 (栄養調査)</p> <p>第 11 回 各種調査による実態把握 (食生活調査)</p> <p>第 12 回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導)</p> <p>第 13 回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価)</p> <p>第 14 回 栄養指導の基本的な進め方 (運動、休養)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績 (60%) + 課題と小テスト (20%) + 授業への取組・参加状況 (20%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ		担当者	中西 智美
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	必修
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基本理論に基づいた対象者自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形作った背景を正しく理解し、対象者が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学健書院第8版</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ライフステージ (妊婦・授乳婦の栄養指導)</p> <p>第2回 ライフステージ (乳幼児の栄養指導)</p> <p>第3回 ライフステージ (幼児期 3歳未満児の栄養指導)</p> <p>第4回 ライフステージ (幼児期 3歳以上児の栄養指導)</p> <p>第5回 ライフステージ (保育所給食と栄養指導)</p> <p>第6回 ライフステージ (学童期・思春期の栄養指導)</p> <p>第7回 ライフステージ (学校給食と栄養指導)</p> <p>第8回 ライフステージ (成人期の栄養指導)</p> <p>第9回 ライフステージ (生活習慣病 肥満症・高血圧症・糖尿病・脂質異常症の栄養指導)</p> <p>第10回 ライフステージ (高齢期の栄養指導)</p> <p>第11回 ライフステージごとの栄養指導 (まとめ)</p> <p>第12回 健康障害と栄養指導</p> <p>第13回 病院などの医療機関における栄養食事指導</p> <p>第14回 アスリートと栄養教育 (栄養指導)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (20%) + 授業への取組・参加状況 (10%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ		担当者	中西 智美
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成。</p> <p>【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として、対象者への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導実習の意義と目的、栄養指導の基礎知識 (食事摂取基準)</p> <p>第2回 栄養指導の基礎知識 (食品構成表の作成)</p> <p>第3回 栄養指導の基礎知識 (献立作成)</p> <p>第4回 実態把握の方法 食品構成の算定実習</p> <p>第5回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第6回 実態把握の方法 各種調査方法 (生活習慣調査など)</p> <p>第7回 実態把握の方法 各種調査方法 (身体状況調査, 体力測定など)</p> <p>第8回 指導案の作成 (基本)</p> <p>第9回 指導案の作成 (実践用 グループ)</p> <p>第10回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (グループ)</p> <p>第11回 プレゼンテーション (グループ)</p> <p>第12回 プレゼンテーション (グループ), 指導案の作成 (実践用 個人)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その1)</p> <p>第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その2)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表 (40%) + 課題 (30%) + 実習への取組状況 (30%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ		担当者	中西 智美	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合し、集団・個別を対象とし、福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めるとともに栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(1)</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(2)</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その5</p> <p>第8回 個別対症の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第9回 個別対症の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その6, まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表(40%) + 課題(20%) + 出席状況・実習への取組状況(40%)により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	公衆栄養学		担当者	児玉 敬三	
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域で生活している様々な人々の QOL 向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ</p> <p>【概要】公衆栄養の概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開</p> <p>【到達目標】少子高齢社会における QOL の向上と健康寿命の延伸を達成するための様々な施策を理解し、栄養士としての社会的なはたらきを模索し、具体的な行動目標を立てられる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ウェルネス 公衆栄養学 2024年度版 医歯薬出版株式会社</p> <p>(2) 日本人の食事摂取基準 に関連する図書</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス「公衆栄養学」とは</p> <p>第2回 第1章 公衆栄養学の概念(1)</p> <p>第3回 第1章 公衆栄養学の概念(2)</p> <p>第4回 第2章 健康・栄養問題の現状と課題(1)</p> <p>第5回 第2章 健康・栄養問題の現状と課題(2)</p> <p>第6回 第3章 栄養政策(1)</p> <p>第7回 第3章 栄養政策(2)</p> <p>第8回 第6章 公衆栄養学プログラムの展開(1)</p> <p>第9回 第6章 公衆栄養学プログラムの展開(2)</p> <p>第10回 第4章 栄養疫学(1)</p> <p>第11回 第4章 栄養疫学(2)</p> <p>第12回 第5章 公衆栄養マネジメント(1)</p> <p>第13回 第5章 公衆栄養マネジメント(2)</p> <p>第14回 第5章 公衆栄養マネジメント(3)</p> <p>第15回 まとめ、総括</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 2回分のレポート(20%)				
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士、公衆栄養プログラム作成委員				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養情報処理		担当者	中西 智美	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[単位]	1単位	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に判断する能力</p> <p>【概要】栄養士には、集めた情報を統計的に処理し、客観的に評価することが求められている。科学的根拠を創出するため、コンピュータを使用し、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養士業務に関わる情報処理の基礎並びにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身に付けることを目的とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石村友二郎, 廣田直子著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編 (第3版) 東京図書</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2024年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 コンピュータの役割, 機能, 実際</p> <p>第 2回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (1)</p> <p>第 3回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (2)</p> <p>第 4回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (3)</p> <p>第 5回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (4)</p> <p>第 6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (5)</p> <p>第 7回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (単純集計)</p> <p>第 8回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計)</p> <p>第 9回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計 オッズ比)</p> <p>第 10回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (区間推定, 検定方法)</p> <p>第 11回 調査報告書作成及び報告会</p> <p>第 12回 コンピュータによる献立作成</p> <p>第 13回 コンピュータによる栄養価計算</p> <p>第 14回 コンピュータによる帳簿作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表 (40%) + 課題 (20%) + 出席状況・実習への取組状況 (40%) により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。				

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学 I		担当者	未定	
	[履修年次]		授業外対応		
	[学期]		[単位]		
		[単位]		[授業形態]	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ		担当者	寺師 睦美		
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 (実践から応用)</p> <p>【概要】【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。各疾患別の病態の知識をもとに、治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】主要な疾患の病態を理解し、栄養の関連を認識できること。各疾患別の栄養・食事療法を理解し、具体的な治療食を考えられる力を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 循環器疾患 (病態と栄養管理：動脈硬化症)</p> <p>第2回 循環器疾患 (病態と栄養管理：高血圧)</p> <p>第3回 循環器疾患 (病態と栄養管理：心疾患)</p> <p>第4回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第5回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第6回 栄養評価 (栄養アセスメント・スクリーニング)</p> <p>第7回 一般治療食 (常食)</p> <p>第8回 一般治療食 (形態別治療食)</p> <p>第9回 特別治療食 (エネルギーコントロール食)</p> <p>第10回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第11回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第12回 特別治療食 (腎臓病食品交換表)</p> <p>第13回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第14回 特別治療食 (カリウム制限食・水分制限食)</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	筆記試験 (60%)，課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。					
実務経験について	病院や福祉施設等で管理栄養士として勤務					

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	臨床栄養学実習		担当者	有村 恵美		
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	前期集中	〔単位〕	2	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) の業務による実習</p> <p>【概要】県内外の医療現場における2週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2. 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養食事指導。 3. 対象者の心理を理解し信頼を得る。 <p>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) 業務の習得。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 伊藤貞嘉，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p>					
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導管理栄養士等からの説明 (院内における栄養部門の位置と役割 等) 2. 病院給食管理業務の実際 (施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務 等) 3. 給食状況の実際 (一般治療食・特別治療食 等) 4. 病態栄養管理業務の実際 (栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価 等) 5. 栄養食事指導業務の実際 (個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法 等) 6. 多職種連携の実際 (チーム医療・各種委員会見学 等) 7. 報告会 (実習内容・反省・課題 等) 					
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み，実習ノート作成，報告会準備					
成績評価の方法	実習ノート (20%)，報告発表 (10%)，実習への取り組み状況 (70%) により評価する。					
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，病態栄養専門管理栄養士，糖尿病病態栄養専門管理栄養士					

注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	病理学		担当者	山田 博久
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしぼった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業(医学部3・5年生相当)を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと</p> <p>第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患</p> <p>第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害</p> <p>第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患</p> <p>第5回 補足</p> <p>第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患</p> <p>第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死</p> <p>第8回 補足</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。			
実務経験について	内科神経内科医師として30年以上病院勤務。大学非常勤講師として数年間講義を行う。複数の看護学校で講義を行う。			

※7.5回

授業科目	学校栄養教育論		担当者	中西 智美
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校における食に関する指導の全体計画の下、学級担任や関係職員と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】学校における食育の基本計画策定に参画し、児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導、また学級担任や養護教諭、外部関係者等と連携して教育活動全体を通じた食に関する指導を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金田雅代 編著『四訂 栄養教諭論—理論と実際—第2版』建帛社</p> <p>(2) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』平成31年3月 東山書房</p> <p>文部科学省 『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チームで取り組む食育推進のPDCA～』平成29年</p> <p>文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながらる食育』平成28年2月</p> <p>部科学省 : 中学生用食育教材『食の探究と社会への広がり』令和3年3月</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教諭の制度と役割、現状と課題、職務内容、関係法令等</p> <p>第2回 学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置付け</p> <p>第3回 学校給食の歴史と食文化の変遷</p> <p>第4回 子どもの発達と食生活(国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む)</p> <p>第5回 学校給食における栄養管理の現状と課題</p> <p>第6回 学校給食における衛生管理の現状と課題</p> <p>第7回 食に関する指導の全体計画(実態把握・計画・実施・評価)</p> <p>第8回 食に関する指導の展開</p> <p>第9回 給食の時間における食に関する指導①</p> <p>第10回 発達段階に応じた食に関する指導</p> <p>第11回 教科等における食に関する指導①</p> <p>第12回 教科等における食に関する指導②(演習)</p> <p>第13回 給食の時間における食に関する指導②(演習)</p> <p>第14回 個別栄養相談指導(食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績(60%) + 課題と小テスト(20%) + 授業への取組・参加状況(20%)により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

注) 教職必修

授業科目	化学概論		担当者	木下 朋美・古川 那由太				
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーを参照				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。</p> <p>【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質質量・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します。1～8回：古川、9～15回：木下</p> <p>【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する。②物質質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高校「基礎化学」および「化学」レベルのプリントを配布します。 (2)							
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション、原子の構造 第 2回 化学結合（イオンの成り立ちとイオン結合） 第 3回 化学結合（共有結合、極性、金属結合） 第 4回 質量と濃度（原子量、物質質量、モル濃度） 第 5回 化学反応式（化学反応式のつくり方、化学反応の量的関係） 第 6回 酸と塩基（酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応と塩の性質） 第 7回 酸化と還元（酸化・還元の見分け方、酸化数、酸化還元反応） 第 8回 前半のまとめ 第 9回 有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体） 第 10回 脂肪族炭化水素-1（アルカン） 第 11回 脂肪族炭化水素-2（アルケン、アルキン） 第 12回 酸素を含む脂肪族化合物-1（アルコール、アルデヒド、ケトン） 第 13回 酸素を含む脂肪族化合物-2（カルボン酸、エステル） 第 14回 芳香族化合物-1（フェノール類、芳香族カルボン酸） 第 15回 芳香族化合物-2（ニトロ化合物、芳香族アミン）							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	期末試験（60%）、小テスト（40%）							
実務経験について	なし							

授業科目	生物概論		担当者	古川 那由太				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。</p> <p>【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の1つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。</p> <p>【到達目標】生物を構成する基本的な物質を列挙し、その特徴を説明できる。酵素の特性と細胞内のエネルギー代謝について説明できる。遺伝情報の流れと遺伝の仕組みを説明できる。恒常性維持に関わる情報伝達システムと生体防御機構について説明できる。動物個体の成り立ちを系統的に説明できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 堀田久子ら著「食と栄養を学ぶための生物学」化学同人 2022 (2) 適宜紹介							
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション、生物の基本的な性質（生物の定義、物質と栄養） 第 2回 細胞の構造と機能（細胞膜、細胞の内部構造、細胞骨格とモータータンパク質） 第 3回 細胞を構成する化学成分（アミノ酸とタンパク質、炭水化物、脂質、核酸） 第 4回 酵素（酵素の役割、分類、構造、特性、調節） 第 5回 代謝のしくみ（三大栄養素からのエネルギーの取り出し） 第 6回 遺伝情報の発現のしくみ1（遺伝情報、DNA複製、転写） 第 7回 遺伝情報の発現のしくみ2（翻訳、突然変異、遺伝子発現調節） 第 8回 遺伝（遺伝の基本的なしくみ） 第 9回 遺伝（性と遺伝、連鎖と独立） 第 10回 人体の器官1（消化器） 第 11回 人体の器官2（循環器、呼吸器、泌尿器、骨と筋肉） 第 12回 人体と器官3（神経、感覚器） 第 13回 恒常性の維持（血液の働きと構成成分） 第 14回 恒常性の維持（ホルモンの働き） 第 15回 個体を守る免疫システム（白血球の働き、自然免疫と獲得免疫、免疫寛容と自己免疫疾患、アレルギー）							
授業外学習(予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧							
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小テスト（25%）、レポート（25%）							
実務経験について	なし							

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学		担当者	浅海 真弓	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。</p> <p>【概要】私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしくみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。</p> <p>【到達目標】化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすことができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 生活の中の化学 — 洗濯の化学、染色の化学</p> <p>第 2 回 被服整理 1 — 被服の汚れ（汚れの分類）</p> <p>第 3 回 被服整理 2 — 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤）</p> <p>第 4 回 被服整理 3 — 被服の洗浄（界面活性剤の種類と働き）</p> <p>第 5 回 被服整理 4 — 被服の洗浄（配合剤の種類と働き）</p> <p>第 6 回 被服整理 5 — 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係）</p> <p>第 7 回 被服整理 6 — 被服の洗浄（商業洗濯）</p> <p>第 8 回 被服整理 7 — しみ抜き</p> <p>第 9 回 被服整理 8 — 漂白と増白</p> <p>第 10 回 被服整理 9 — 柔軟仕上げ、被服の保管（防虫・防カビ）</p> <p>第 11 回 染色加工 1 — 染色の方法（浸染と捺染）</p> <p>第 12 回 染色加工 2 — 染料の種類</p> <p>第 13 回 染色加工 3 — 染料と繊維の結合</p> <p>第 14 回 染色加工 4 — 染色堅ろう度（変退色と汚染）</p> <p>第 15 回 染色加工 5 — 繊維加工（外観・風合いを変える加工と機能加工）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	レポート（45%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	ビジュアルデザイン論 I		担当者	北 一浩	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。</p> <p>【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 導入 アイデアとは？</p> <p>第 3 回 発想の準備 1 もっと楽しもう</p> <p>第 4 回 発想の準備 2 自分を信じよう</p> <p>第 5 回 発想の準備 3 「その気」になろう</p> <p>第 6 回 発想の準備 4 子供に戻ろう</p> <p>第 7 回 発想の準備 5 「知りたがり」になろう</p> <p>第 8 回 発想の準備 6 笑われることを恐れるな</p> <p>第 9 回 発想の準備 7 「考え方」のヒント</p> <p>第 10 回 発想の準備 8 いろいろなものを組み合わせよう</p> <p>第 11 回 発想のプロセス 1 質問を変えてみよう</p> <p>第 12 回 発想のプロセス 2 情報をかき集めよう</p> <p>第 13 回 発想のプロセス 3 いったん全部忘れてしまおう</p> <p>第 14 回 発想のプロセス 4 ひらめいたら実践しよう</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	プレゼンテーション（60%） 提出課題（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得</p> <p>【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。</p> <p>【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書</p> <p>(2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス 建築の学び方、考え方</p> <p>第 2回 建築設計の主題 建築設計理念について</p> <p>第 3回 建築技術者の役割 設計競技による設計者選定</p> <p>第 4回 建築計画とは-1 建築行為 (生産) と建築計画</p> <p>第 5回 建築計画とは-2 建築計画と設計図書</p> <p>第 6回 空間と行為-1 建築の機能 その歴史的背景</p> <p>第 7回 空間と行為-2 建築の機能 合理からコミュニティデザインへ</p> <p>第 8回 近現代建築について-1 ル・コルビュジェの建築</p> <p>第 9回 近現代建築について-2 ミース・ファン・デル・ローエの建築</p> <p>第 10回 近現代建築について-3 建築の公共空間</p> <p>第 11回 寸法の計画 人体寸法と動作寸法</p> <p>第 12回 プランニング演習 室空間のプランニング</p> <p>第 13回 風土・文化・建築 日本の住空間</p> <p>第 14回 文化・社会・建築 日本の現代住宅建築</p> <p>第 15回 まとめ・総合レポート出題</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目, 教職必修

授業科目	色彩学		担当者	坂上 ちえ子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】 「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所</p> <p>(2) 随時紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2回 色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み</p> <p>第 3回 色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名</p> <p>第 4回 色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系</p> <p>第 5回 色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色</p> <p>第 6回 色の基礎知識 5：照明：演色性</p> <p>第 7回 色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果</p> <p>第 8回 色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ</p> <p>第 9回 色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式</p> <p>第 10回 色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法</p> <p>第 11回 色の基礎知識 10：色彩調和論</p> <p>第 12回 色の応用 1：色彩計画</p> <p>第 13回 色の応用 2：色と文化</p> <p>第 14回 色の応用 3：商品と色</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	衣生活学		担当者	浅海 真弓				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。</p> <p>【概要】衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】衣服の役割を理解するとともに、日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第 2 回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態</p> <p>第 3 回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷</p> <p>第 4 回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷</p> <p>第 5 回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情</p> <p>第 6 回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴</p> <p>第 7 回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴</p> <p>第 8 回 衣服の管理 1 — 洗濯、漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管</p> <p>第 9 回 衣服の管理 2 — 〈実習〉しみ抜き</p> <p>第 10 回 衣服の品質と表示 — 繊維の組成と取扱い表示、サイズ表示</p> <p>第 11 回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節 (衣服内気候)</p> <p>第 12 回 衣服の機能と快適性 2 — 動きやすさと拘束性 (衣服圧)</p> <p>第 13 回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション</p> <p>第 14 回 衣服の生産と流通 — アパレル産業と既製服</p> <p>第 15 回 衣服と環境 — 衣服の廃棄とリサイクル</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形基礎		担当者	坂上 ちえ子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用方法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 基礎縫い 1：手縫い① 用具の説明、並縫い</p> <p>第 3 回 基礎縫い 2：手縫い② まつり縫い、他</p> <p>第 4 回 基礎縫い 3：手縫い③ ボタン、スナップつけ</p> <p>第 5 回 基礎縫い 4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン</p> <p>第 6 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 1：人体計測と製図</p> <p>第 7 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 2：裁断、しるしつけ</p> <p>第 8 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 3：仮縫い、試着</p> <p>第 9 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 4：本縫い①</p> <p>第 10 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 5：本縫い②</p> <p>第 11 回 上衣 (チュニックブラウス) 製作 6：仕上げ、着装評価</p> <p>第 12 回 工芸 1：織り</p> <p>第 13 回 工芸 2：毛糸かぎ針編み</p> <p>第 14 回 工芸 3：フランス刺繍</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	消費生活論		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。</p> <p>【概要】 2004年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるよう基礎知識を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 消費者問題1：消費者問題とは</p> <p>第3回 消費者問題2：消費者教育</p> <p>第4回 消費者問題3：表示と消費者</p> <p>第5回 消費者問題4：消費者行政</p> <p>第6回 消費者問題5：特定商取引と契約トラブル①</p> <p>第7回 消費者問題6：特定商取引と契約トラブル②</p> <p>第8回 消費者問題7：消費者の安全</p> <p>第9回 消費者問題8：地球環境とエネルギー需給</p> <p>第10回 関連基礎事項1：企業と経営の基礎知識</p> <p>第11回 関連基礎事項2：経済と金融の基礎知識</p> <p>第12回 関連基礎事項3：生活経済と家計</p> <p>第13回 関連基礎事項4：社会保障制度の概要</p> <p>第14回 関連基礎事項5：衣・食・住生活における消費者問題</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 授業での活動内容(30%)							
実務経験について	消費生活アドバイザー、消費生活相談員の有資格者							

授業科目	被服材料学		担当者	浅海 真弓				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】繊維や糸、布の種類や構造などについて概説した後、被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身近な衣服の素材に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、これらの知識を衣服の製作・購入、着用、洗濯、保管などの場面で活用できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 繊維とは？－繊維の歴史と分類</p> <p>第2回 繊維の構造－繊維の構造と性質の関係</p> <p>第3回 天然繊維1－植物繊維(綿、麻)</p> <p>第4回 天然繊維2－動物繊維(羊毛)</p> <p>第5回 天然繊維3－動物繊維(絹)</p> <p>第6回 化学繊維1－再生繊維(レーヨン、キュプラ)</p> <p>第7回 化学繊維2－半合成繊維(アセテート、トリアセテート)</p> <p>第8回 化学繊維3－合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)、繊維の性能比較</p> <p>第9回 新しい繊維－繊維化技術の発展と高機能素材</p> <p>第10回 糸の種類と構造－紡績糸・フィラメント糸の性質、糸の太さとより (ミニ実験：糸の観察)</p> <p>第11回 布の種類と構造1－織物の組織と性質</p> <p>第12回 布の種類と構造2－編物の組織と性質、織物と編物の性能比較</p> <p>第13回 布の種類と構造3－不織布・皮革の性質、布の構造特性 (ミニ実験：織物の観察)</p> <p>第14回 被服材料の性質1－耐久性と形態的性質</p> <p>第15回 被服材料の性質2－快適性と外観的性質</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(予習・復習用のプリント配布)							
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業ごとに提出するワークシート(35%) + 課題(15%)							
実務経験について	なし							

授業科目	生活化学実験		担当者	浅海 真弓		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	実験方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。</p> <p>【概要】被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。</p> <p>※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。</p> <p>【到達目標】実験を通じて被服素材や洗濯、染色への知識や技術を習得する。また、データ処理やレポートの作成方法を習熟するとともに、感覚的にではなく具体的な根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（実験書配布）</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法</p> <p>第 2 回 糸の太さ — 番手の測定</p> <p>第 3 回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定</p> <p>第 4 回 吸水性試験 — パイレック法および吸水率法</p> <p>第 5 回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察</p> <p>第 6 回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性</p> <p>第 7 回 繊維の溶解性 — 混用率の測定</p> <p>第 8 回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定</p> <p>第 9 回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定</p> <p>第 10 回 洗浄試験 — 洗浄力の評価</p> <p>第 11 回 合成染料による染色 — 直接染料および反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成）</p> <p>第 12 回 染色堅ろう度試験 1 — 洗濯堅ろう度</p> <p>第 13 回 染色堅ろう度試験 2 — 摩擦堅ろう度</p> <p>第 14 回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較</p> <p>第 15 回 工芸染色 — 絞り染め</p>					
授業外学習(予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理し、考察してレポートを作成すること。					
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋ 実験への取り組み（30%）					
実務経験について	なし					

授業科目	食物と栄養		担当者	中島 一喜		
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物に含まれている栄養成分と加工利用方法について学ぶ。</p> <p>【概要】食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介し、食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について解説する。</p> <p>【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分やその働き、および加工利用方法について理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第 3 版』南江堂</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 人間と食物、食品加工</p> <p>第 2 回 穀類の栄養</p> <p>第 3 回 穀類の加工利用</p> <p>第 4 回 いも類の栄養と加工利用</p> <p>第 5 回 豆類の栄養と加工利用</p> <p>第 6 回 野菜類の栄養</p> <p>第 7 回 野菜類の加工利用</p> <p>第 8 回 果実類の栄養</p> <p>第 9 回 果実類の加工利用</p> <p>第 10 回 きのこと、海藻類の栄養と加工利用</p> <p>第 11 回 食肉類の栄養と加工利用</p> <p>第 12 回 魚介類の栄養と加工利用</p> <p>第 13 回 乳類の栄養と加工利用</p> <p>第 14 回 卵類の栄養と加工利用</p> <p>第 15 回 油脂、調味料の栄養と加工利用</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業後のノート整理など復習を確実にすること。					
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%					
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事					

(注) 教職必修

授業科目	調理学		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了利
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ。</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う。基本的な調理操作法の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 鏝 吉 外西壽鶴子 NEW 基礎調理学</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション 調理学の意義</p> <p>第 2 回 調理科学：砂糖の温度変化による変化について</p> <p>第 3 回 調理の基本：調味料の働きと特徴について</p> <p>第 4 回 調理の基本：食事と栄養素・調理器具について</p> <p>第 5 回 調理科学：卵の熱変性について</p> <p>第 6 回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について</p> <p>第 7 回 調理科学：小麦粉の特性について</p> <p>第 8 回 調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について</p> <p>第 9 回 調理科学：油の乳化について</p> <p>第 10 回 魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介）</p> <p>第 11 回 調理科学：ゲル化剤の特徴について</p> <p>第 12 回 調理の基本：海藻類・魚類・肉類について</p> <p>第 13 回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について</p> <p>第 14 回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋ 調理操作の授業時に実施する小論文（10%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。			

授業科目	調理実習		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了利
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合。</p> <p>【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる。・食環境整備の有効性を学ぶ。・清潔な食品の取り扱いの習得。・食事の作法とマナーについて学習する</p> <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得。食育による社会適応力の習得。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について）</p> <p>第 2 回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第 3 回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、フレンチサラダ、コーヒー</p> <p>第 4 回 日本料理 親子丼、潮汁、なます、サイダー寒</p> <p>第 5 回 中国料理 白飯、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐</p> <p>第 6 回 非常時の料理 インスタント食品、IH 調理器を用いた調理</p> <p>第 7 回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第 8 回 日本料理 散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹</p> <p>第 9 回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子</p> <p>第 10 回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、もずく酢、抹茶ゼリー</p> <p>第 11 回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ</p> <p>第 12 回 日本料理 きつねうどん、即席付け、ねぎ味噌、黒蜜かけ</p> <p>第 13 回 行事食 ローストチキン、クリスマスケーキ</p> <p>第 14 回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実技試験（40%） 実技試験（40%） 授業ごとの実技内容の評価（20%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。			

(注) 教職必修

授業科目	服飾文化史		担当者	田邊 しづか				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】西洋と日本の服飾文化史、現代衣生活の成り立ち</p> <p>【概要】西洋と日本に分けて古い時代からの変遷を辿り、形態的特徴だけでなく、社会的、文化的背景を踏まえて服飾の歴史を学ぶ。授業は大きく分けて三部構成である。</p> <p>【第一部】西洋服飾史、【第二部】日本服飾史、【第三部】服飾文化史を捉える上で重要なテーマに関する西洋と日本の服飾</p> <p>【到達目標】西洋と日本の服飾の歴史、形態的特徴とその背景を理解する。 多様な文化、服飾観を学ぶことによって、現代衣生活や今後の可能性について考え、自分なりの見解を持つことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部 Web でも公開</p> <p>(2) 深井晃子 (監修) 『増補新装カラー版 世界服飾史』, 美術出版社, 2010 増田美子 (編) 『日本服飾史』, 東京堂出版, 2013.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、服飾文化史の資料 (史料)、衣服の起源と機能</p> <p>第 2 回 西洋服飾文化史 1: 古代エジプト、古代ギリシャ、古代ローマの服飾</p> <p>第 3 回 西洋服飾文化史 2: 中世、ルネサンスの服飾</p> <p>第 4 回 西洋服飾文化史 3: 17 世紀オランダ市民、フランス絶対王政の貴族の服飾</p> <p>第 5 回 西洋服飾文化史 4: 18 世紀フランス宮廷の服飾</p> <p>第 6 回 西洋服飾文化史 5: 19 世紀イギリスのテイラー、フランスのモード</p> <p>第 7 回 西洋服飾文化史 6: オートクチュールとプレタポルテ、主要なデザイナー</p> <p>第 8 回 日本服飾文化史 1: 古代の衣服、服制の時代</p> <p>第 9 回 日本服飾文化史 2: きものの基礎知識、きものの変遷</p> <p>第 10 回 日本服飾文化史 3: 染織、文様、明治以降のきもの</p> <p>第 11 回 日本服飾文化史 4: 洋装化 - 明治、大正、昭和</p> <p>第 12 回 西洋・日本: 戦中・戦後、現代の服飾文化</p> <p>第 13 回 服飾文化史のテーマ 1: 西洋から見た東洋 - シノワズリ、ジャポニスム</p> <p>第 14 回 服飾文化史のテーマ 2: 服飾とジェンダー - 西洋の異性装、きものジェンダー</p> <p>第 15 回 服飾文化史のテーマ 3: 伝統的な染織品、歴史や技術</p>							
授業外学習 (予習・復習)	適宜提示 (予習・復習のためのキーワードや参考文献を提示)							
成績評価の方法	授業毎のコメントペーパー (50%)、期末レポート (50%)							
実務経験について	なし							

授業科目	保育学		担当者	飯田都・奥章三・池堂猛彦				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 (担当 奥) 子どもの発達の特性 ~ 乳幼児の発達と保育環境</p> <p>第 2 回 子どもの発達の過程 (その 1) ~ 身体発育、運動発達</p> <p>第 3 回 子どもの発達の過程 (その 2) ~ 精神発達、人間関係の発達 ~</p> <p>第 4 回 子どもの生活 (その 1) 栄養と食習慣、生活習慣の形成</p> <p>第 5 回 子どもの生活 (その 2) 健康管理 (子どもの病気への対応)</p> <p>第 6 回 子どもの生活 (その 3) 事故の実態と防止</p> <p>第 7 回 子どもの保育 (その 1) 保育の意義と重要性、保育環境</p> <p>第 8 回 子どもの保育 (その 2) 保育の方法</p> <p>第 9 回 子どもの保育 (その 3) 発達障害児への対応</p> <p>第 10 回 講義の振り返り</p> <p>第 11 回 (担当 飯田) 事前事後指導 (その 1): 事前指導</p> <p>第 12 回 (担当 池堂) 保育園における保育実習 (その 1)</p> <p>第 13 回 保育園における保育実習 (その 2)</p> <p>第 14 回 保育園における保育実習 (その 3)</p> <p>第 15 回 (担当 飯田) 事前事後指導 (その 2): 事後指導</p>							
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験 (100%) 各担当者が 100 点 / 3 で点数を算出した後、3 人の合計を総合点として評価する。							
実務経験について	奥 : 病院に小児科医として勤務 池堂 : 保育園の園長として勤務							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	卒業研究A		担当者	浅海 真弓
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】被服材料学，被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し，その成果をまとめる。</p> <p>【概要】各自で研究テーマを設定し，課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し，考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ，卒業研究発表会で発表する。</p> <p>【到達目標】自分で計画を立てて実験を遂行することにより，課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎，園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社</p>			
授業スケジュール	第 1 回	第 1 回	オリエンテーション (研究の進め方・論文の作成方法について)	
	第 2 回	第 2 回～第 4 回	先行研究・参考文献の資料収集	
	第 3 回	第 5 回	資料収集の報告発表，研究テーマの設定	
	第 4 回	第 6 回～第 10 回	予備実験	
	第 5 回	第 11 回	予備実験の報告発表，研究テーマの確定	
	第 6 回	第 12 回～第 22 回	本実験	
	第 7 回	第 23 回～第 26 回	論文作成，追加実験	
	第 8 回	第 27 回～第 29 回	研究発表の準備 (要旨・スライドの作成)	
	第 9 回	第 30 回	まとめ (要旨・スライド・論文の最終確認)	
	第 10 回			
	第 11 回			
	第 12 回			
	第 13 回			
	第 14 回			
	第 15 回			
授業外学習(予習・復習)	報告発表や課題を適宜指示するため，授業外での予習・復習・発表準備 (資料・スライドの作成) が必要である。			
成績評価の方法	卒業論文 (50%) + 研究発表 (20%) + 授業および課題への取り組み (30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究A		担当者	飯田 都
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】心理学に関するテーマについてリサーチ・分析し,成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。</p> <p>【概要】心理学に関する研究テーマ,ならびにリサーチクエストを設定した上で,先行研究の概観,資料・データの収集・分析,結果の整理・考察を行う。成果を卒業論文としてまとめ,卒業研究発表会において発表する。</p> <p>【到達目標】・文献研究をもとに,個々の学生が,自身の研究テーマを決定する。・心理学の研究方法を用いて,自身のテーマに関わる問いにアプローチし,結果の分析・考察を行う。・年度末の発表会を通して,自身の研究をプレゼンテーションする力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜紹介する。</p> <p>(2) 松井豊 (2010) .『改訂新版 心理学論文の書き方…卒業論文や修士論文を書くために』河出書房</p>			
授業スケジュール	第 1 回	第 1 回	オリエンテーション	
	第 2 回	第 2～4 回	「問い」の意義,文献調査の方法,文献講読の方法	
	第 3 回	第 5～8 回	文献講読 (各自が持参した文献をもとにしたディスカッション)	
	第 4 回	第 9～10 回	「問い」の確定 (ゼミ内プレゼンテーション)	
	第 5 回	第 11 回～第 12 回	調査研究の進め方,研究方法	
	第 6 回	第 13 回～第 26 回	テーマ設定,情報収集,分析,結果整理,考察,論文の執筆 (毎回の報告)	
	第 7 回	第 27 回～第 29 回	発表会の資料作成,プレゼンテーションの準備	
	第 8 回	第 30 回	卒業研究発表会	
	第 9 回			
	第 10 回			
	第 11 回			
	第 12 回			
	第 13 回			
	第 14 回			
	第 15 回			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課すため，授業時間外の学習を要す。			
成績評価の方法	卒業論文とプレゼンテーション (70%) + 授業への参加度と毎回の課題 (30%)			
実務経験について				

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	田邊 しづか				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションデザインの基礎とその展開</p> <p>【概要】前半はファッションデザインの基礎である、形態、色、素材、それらを組み合わせたコンポジション、ファッションイメージについて学ぶ。後半は、被服設計を行うとき重要な人体やパターンについて学びつつ、デザイン画に必要な8頭身モデルや着装された衣服を描く。最終課題では、ファッションデザイン画を含むミニポートフォリオを作成する。</p> <p>【到達目標】ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに沿ったファッションデザインを行い、他者に伝えるためのポートフォリオを作成することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部 Web でも公開</p> <p>(2) 文化服装学院編『文化ファッション大系 改訂版 服飾関連専門講座 (2) 服飾デザイン』, 文化出版局, 2021. ファッションクリエイション学科編『文化学園大学ファッションデザイン学講座 ファッション画』, 文化出版局, 2021.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業概要と進め方、デザイン史概説</p> <p>第 2 回 服飾デザインとは、20 世紀ファッション史、最新のコレクションを見る</p> <p>第 3 回 ファッションデザイン基礎 1：形態</p> <p>第 4 回 ファッションデザイン基礎 2：色彩、色彩のイメージ</p> <p>第 5 回 ファッションデザイン基礎 3：素材</p> <p>第 6 回 ファッションデザイン基礎 4：コンポジション、ファッションイメージ</p> <p>第 7 回 デザイン発想</p> <p>第 8 回 アパレル企画、流行</p> <p>第 9 回 最終課題に指定するテーマに関する講義とグループワーク</p> <p>第 10 回 人体の構造と計測点、ファッションデザイン画の 8 頭身モデル</p> <p>第 11 回 デザインとパターン 1：衿、袖/着装画の練習 (しわ)</p> <p>第 12 回 デザインとパターン 2：スカート、パンツ/着装画の練習 (フレア、プリーツ)</p> <p>第 13 回 ファッションデザイン実践 1：デザイン画の表現法/モデルへ着装</p> <p>第 14 回 ファッションデザイン実践 2：デザイン画の着色法/モデルへ着装</p> <p>第 15 回 アパレル動向、ファッションデザインのポートフォリオ、まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	期末課題提出 (40%) + 授業内実践課題 (30%) + 授業毎のコメントペーパー (30%) デザイン画を作成しますが絵が不得手でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッション造形 I		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙 (原型) の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p>【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座 2 スカートの・パンツ』文化出版局</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 下衣 (スカート) 製作 1：スカートの製図</p> <p>第 3 回 下衣 (スカート) 製作 2：表布の裁断、印つけ</p> <p>第 4 回 下衣 (スカート) 製作 3：仮縫い</p> <p>第 5 回 下衣 (スカート) 製作 4：試着、補正</p> <p>第 6 回 下衣 (スカート) 製作 5：表布の縫製 1</p> <p>第 7 回 下衣 (スカート) 製作 6：表布の縫製 2</p> <p>第 8 回 下衣 (スカート) 製作 7：ファスナーつけ</p> <p>第 9 回 下衣 (スカート) 製作 8：裏布の裁断、印つけ</p> <p>第 10 回 下衣 (スカート) 製作 9：裏布の縫製</p> <p>第 11 回 下衣 (スカート) 製作 10：ベルトつけ</p> <p>第 12 回 下衣 (スカート) 製作 11：仕上げ、着装評価</p> <p>第 13 回 上衣 (原型) 製作 1：上半身衣の原型</p> <p>第 14 回 上衣 (原型) 製作 2：上半身衣のデザイン展開</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局							
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第3回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第4回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第5回 上衣（ブラウス）製作4：試着、補正 第6回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第7回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第8回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第9回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い、試着、補正 第13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第15回 着装評価、まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションアイテム演習		担当者	田邊 しずか				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションアイテムの知識と工芸技法の習得</p> <p>【概要】前半は、編物（編む）、刺繍（縫う）、組紐（組む）の工芸製作ならびに各技法に関する服飾品の歴史や造形を学ぶ。後半は手提げバッグを製作し、最終課題として前半に学んだ工芸を一部に取り入れた小物を製作する。加えて、副資材がアパレル小物にもたらす効果について学ぶ。</p> <p>【到達目標】各工芸について理解し、技法を習得し作品を仕上げることができる</p>							
(1)テキスト	(1) プリントを配布、一部 Web でも公開							
(2)参考文献	(2) 石井照子（編著）『生活造形—結ぶ・編む・組む・織る・繡う—』, 建帛社, 1995.							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 編む1：編みの技法と実践 第3回 編む2：レース編みの実践 第4回 編む3：レースのモチーフ製作 第5回 組む1：組紐の技法と実践 第6回 日本の伝統的な結び、刺繍1：導入、道具の使い方、練習 第7回 刺繍2：刺繍サンブラー練習 第8回 刺繍3：刺繍サンブラー実践 第9回 刺繍4：刺繍モチーフの製作 第10回 副資材1：ファスナーポーチ 第11回 副資材2：手提げバッグの設計 第12回 副資材3：手提げバッグの製作（裁断等） 第13回 副資材4：手提げバッグの製作（縫製等） 第14回 副資材5：手提げバッグの製作（仕上げ等） 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業への取り組み (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションビジネス		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】 基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会							
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの特性 第 3回 ファッションビジネス知識2：ファッション生活・消費 第 4回 ファッションビジネス知識3：ファッション産業構造 第 5回 ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング 第 6回 ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング 第 7回 ファッションビジネス知識6：ファッション生産と物流、流通 第 8回 ファッションビジネス知識7：販売管理とプロモーション 第 9回 ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理 第10回 ファッション造形知識1：ファッション文化・デザイン文化 第11回 ファッション造形知識2：ファッションコーディネート 第12回 ファッション造形知識3：ファッション商品知識—服種・アイテム 第13回 ファッション造形知識4：ファッションデザイン 第14回 ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	卒業研究B		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	通年	[単位]	4単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するのに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) 適宜配布							
(2)参考文献	(2) 適宜紹介							
授業スケジュール	第 1回 第 1回 オリエンテーション 第 2回 第 2～10回 卒業研究のための基礎知識1：文献購読 第 3回 第 11～12回 卒業研究のための基礎知識2：研究手法の検討・理解 第 4回 第 13～15回 卒業研究のための基礎知識3：テーマ設定と文献・情報収集 第 5回 第 16～23回 卒業研究1：各自の調査・研究・考察 第 6回 第 24～27回 卒業研究2：論文作成 第 7回 第 28～30回 卒業研究3：発表準備、練習 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ		担当者	北 一浩・上笹貫 鷹暁				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組みにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。</p> <p>※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator 基本操作 1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定</p> <p>第 3回 実践課題 1 幾何形態色彩構成</p> <p>第 4回 ”</p> <p>第 5回 Illustrator 基本操作 3 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第 6回 実践課題 2 ピクトグラム</p> <p>第 7回 ”</p> <p>第 8回 Illustrator 基本操作 4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第 9回 実践課題 3 タイポグラフィ構成</p> <p>第 10回 ”</p> <p>第 11回 応用課題 1 名刺のデザイン</p> <p>第 12回 ”</p> <p>第 13回 応用課題 2 ポスターのデザイン</p> <p>第 14回 ”</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)							
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。							

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」及び、画像編集ソフト「Adobe Photoshop」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。</p> <p>【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の操作方法を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 Illustrator の基本操作 1 オブジェクトの作成 (選択ツール/ダイレクト選択ツール/オブジェクトツール)</p> <p>第 3回 Illustrator の基本操作 2 線と塗りの設定 (カラーパネル/グラデーションツール/透明パネル)</p> <p>第 4回 Illustrator の基本操作 3 オブジェクトの編集 (整列パネル/パスファインダー/変形/グループ化/重ね順)</p> <p>第 5回 Illustrator の基本操作 4 ペンツール (ペンツール/線パネル) \$</p> <p>第 6回 Illustrator の基本操作 5 文字の編集 (フォント/文字パネル/段落パネル/アウトライン)</p> <p>第 7回 Illustrator の基本操作 6 画像の配置と編集 (レイヤーパネル/クリッピングマスク)</p> <p>第 8回 Illustrator の基本操作 7 レイアウトの基本 (ガイドライン/近接・整列・反復・対比)</p> <p>第 9回 Photoshop の基本操作 1 基本操作と写真補正</p> <p>第 10回 Photoshop の基本操作 2 選択範囲とマスク</p> <p>第 11回 Photoshop の基本操作 3 レタッチと加工</p> <p>第 12回 実践課題 1 ポスター</p> <p>第 13回 実践課題 2 名刺</p> <p>第 14回 実践課題 3 チラシ 1</p> <p>第 15回 実践課題 3 チラシ 2</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業課題 (100%)							
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務							

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。</p> <p>【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では実例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。</p> <p>【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション デザインとは</p> <p>第2回 レイアウトの法則 (揃える / まとめる / 強弱 / 余白 / 配置法)</p> <p>第3回 カラーの法則 (色相 / 明度 / 彩度 / トーン / イメージ / 配色)</p> <p>第4回 文字の法則 (文字の種類 / イメージ / 文字組)</p> <p>第5回 パッケージデザイン (役割 / ブランドイメージ / 社会環境)</p> <p>第6回 ブランディングデザイン (ロゴ / VI / CI / ブランドコミュニケーション)</p> <p>第7回 写真表現 (写真の基礎 / 構図 / ライティング / レタッチ / 記録と表現)</p> <p>第8回 映像表現 (映像の基礎 / カメラワーク / 編集 / レタッチ / ストーリーと表現)</p> <p>第9回 広告コミュニケーション (目的とターゲット / メディア / コンセプト / デザインとコピー)</p> <p>第10回 Webメディア (Webサイトの基本 / Webデザイン / コンテンツ戦略 / デザインツールとテクノロジー)</p> <p>第11回 地域とデザイン1 地域とデザイナー</p> <p>第12回 地域とデザイン2 リデザイン</p> <p>第13回 地域とデザイン3 コミュニティデザイン</p> <p>第14回 地域とデザイン4 アイデアの発想法</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題 (40%) + 期末課題 (60%)				
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務				

授業科目	ビジュアルデザインⅠ		担当者	北 一浩	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p> <p>※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ポスターデザイン 公共問題をテーマとしたポスター制作</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 パッケージデザイン 実際に使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 ポートフォリオ制作 各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北 一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。</p> <p>※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。</p> <p>第 3回 //</p> <p>第 4回 //</p> <p>第 5回 //</p> <p>第 6回 //</p> <p>第 7回 //</p> <p>第 8回 //</p> <p>第 9回 //</p> <p>第 10回 //</p> <p>第 11回 自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う</p> <p>第 12回 //</p> <p>第 13回 //</p> <p>第 14回 //</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	卒業研究C		担当者	北 一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	通年	[単位]	4単位
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 第 1-2回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 第 3-4回 以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。</p> <p>第 3回 第 5-6回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。</p> <p>第 4回 第 7-8回</p> <p>第 5回 第 9-10回</p> <p>第 6回 第 11-12回</p> <p>第 7回 第 13-14回</p> <p>第 8回 第 15-16回</p> <p>第 9回 第 17-18回</p> <p>第 10回 第 19-20回</p> <p>第 11回 第 21-22回</p> <p>第 12回 第 23-24回</p> <p>第 13回 第 25-26回</p> <p>第 14回 第 27-28回</p> <p>第 15回 第 29-30回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	住居史		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開拓しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】西洋様式建築、近代建築の理念と空間を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100人とその作品を巡る」アーキシップ叢書 (2) 矢代眞己・田所辰之助・濱寄良実 著「20世紀の空間デザイン」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス 歴史を学ぶことの意味 第 2回 西洋様式建築の全体像 西洋様式建築について 第 3回 幾何学の明晰性-1-ルネサンス- 第 4回 幾何学の明晰性-2-ルネサンス- 第 5回 幾何学の明晰性-3-ルネサンス- 第 6回 手法の多義性-1-マニエリスム- 第 7回 手法の多義性-2-マニエリスム- 第 8回 均整のプロポーション-1-パラディオの建築- 第 9回 均整のプロポーション-2-パラディオの建築- 第 10回 空間のダイナミズム -バロック- 第 11回 崇高の自律性とピクチャレスクの他律性 -新古典主義- 第 12回 新素材と新技術 -近代の萌芽- 第 13回 思想の改革と運動の理念 -近代合理主義- 第 14回 インターナショナルスタイルとナショナリズム 第 15回 表層・深層・透層 -モダニズムの終焉-</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居・インテリア設計学		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える。 【概要】建築空間を表現するための手段、図面の役割について理解するとともに、建築内外を構成するさまざまな要素についてのスケール感覚を身につける。また、商業施設や街の空間構成について理解し、多様な都市生活環境について学ぶ。 【到達目標】建築とインテリアについての理解が深まるとともに、暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示 (2) 中山繁信『スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本』彰国社、大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築とインテリアの基礎知識 第 2回 住居の平面構成：暮らしと間取り 第 3回 図面表現：平面図、立面図、断面図、透視図① 第 4回 図面表現：透視図② 第 5回 図面表現：透視図③ 第 6回 多様な住空間：異文化の空間構成 第 7回 間取りプランニング：所要室の配置と規模 第 8回 間取りプランニング：集合住宅 第 9回 間取りプランニング：戸建平屋 第 10回 間取りプランニング：戸建複層 第 11回 間取りプランニング：三世帯住宅 第 12回 商業施設のデザイン：事例研究 第 13回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 14回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業課題・宿題 (50%)、発表・レポート (50%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目、教職必修

授業科目	設計製図Ⅰ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し、建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。</p> <p>【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ、住宅を構成するさまざまな単位空間についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ、住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社、日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：設計製図の基礎知識</p> <p>第2回 製図と模型の基礎：模型作成の手順（立体A）</p> <p>第3回 製図と模型の基礎：平行定規の使用法（立体B・C）</p> <p>第4回 製図と模型の基礎：製図道具の使用法（住宅A）</p> <p>第5回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の理解（住宅A）</p> <p>第6回 製図と模型の基礎：縮尺と寸法の理解（住宅B）</p> <p>第7回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の作成（住宅B）</p> <p>第8回 設計課題：5つの空間住宅・課題説明</p> <p>第9回 設計課題：エスキス、スタディ模型</p> <p>第10回 設計課題：エスキス、スタディ模型</p> <p>第11回 設計課題：模型作成</p> <p>第12回 設計課題：模型作成・模型写真撮影</p> <p>第13回 設計課題：図面作成（平面図）</p> <p>第14回 設計課題：図面作成（立面・断面図）</p> <p>第15回 設計課題：プレゼンテーション</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション（100%）			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。</p> <p>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせて、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。</p> <p>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 課題出題</p> <p>第2回 住宅の設計1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第3回 住宅の設計2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第4回 住宅の設計3 平面計画</p> <p>第5回 住宅の設計4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第6回 住宅の設計5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第7回 住宅の設計6 提出、評価</p> <p>第8回 住宅の設計7 講評、課題出題</p> <p>第9回 ギャラリーの設計1 条件の整理と敷地及び周辺環境の把握</p> <p>第10回 ギャラリーの設計2 配置計画、諸機能の構成と動線計画</p> <p>第11回 ギャラリーの設計3 平面計画</p> <p>第12回 ギャラリーの設計4 断面、立面計画、外構計画</p> <p>第13回 ギャラリーの設計5 ダイアグラム、模型、プレゼンテーション</p> <p>第14回 ギャラリーの設計6 提出、評価</p> <p>第15回 ギャラリーの設計7 講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題（100%）			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。</p> <p>【到達目標】【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 構造設計という仕事</p> <p>第 2 回 建物にかかる様々な荷重</p> <p>第 3 回 木質構造 1 特徴と材料</p> <p>第 4 回 木質構造 2 軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4工法）</p> <p>第 5 回 木質構造 3 現場見学 他</p> <p>第 6 回 鉄骨構造 1 特徴と材料</p> <p>第 7 回 鉄骨構造 2 建物ができるまで</p> <p>第 8 回 鉄骨構造 3 現場見学 他</p> <p>第 9 回 鉄筋コンクリート構造 1 特徴と材料</p> <p>第 10 回 鉄筋コンクリート構造 2 建物ができるまで</p> <p>第 11 回 鉄筋コンクリート構造 3 現場見学 他</p> <p>第 12 回 基礎構造とその他の構造形式（プレストレストコンクリート構造 他）</p> <p>第 13 回 主要構造部材（屋根、壁、床、天井、階段 他）</p> <p>第 14 回 耐震設計（地震に強い建物）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 建物の模型を作ろう 1</p> <p>第 2 回 建物の模型を作ろう 2</p> <p>第 3 回 力のモーメント（模型による演習含む）</p> <p>第 4 回 力のつりあい（模型による演習含む）</p> <p>第 5 回 構造物の支点（ローラー・ピン・固定）</p> <p>第 6 回 反力の求め方</p> <p>第 7 回 片持ばりに生じる力</p> <p>第 8 回 単純ばりに生じる力</p> <p>第 9 回 門型ラーメンに生じる力</p> <p>第 10 回 トラスに生じる力</p> <p>第 11 回 断面の性質（断面1次モーメント、断面2次モーメント、他）</p> <p>第 12 回 部材に生じる応力度</p> <p>第 13 回 片持ばり、単純ばりの変形</p> <p>第 14 回 建築物の設計への応用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(復習)			
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならぬ。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築</p> <p>第 2 回 光環境計画 1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図</p> <p>第 3 回 光環境計画 2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備</p> <p>第 4 回 光環境計画 3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算</p> <p>第 5 回 光環境計画 4：光束法による照明計算、照明設備計画</p> <p>第 6 回 熱環境計画 1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射</p> <p>第 7 回 熱環境計画 2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算</p> <p>第 8 回 熱環境計画 3：住まいと結露、結露判定の計算</p> <p>第 9 回 熱環境計画 4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画</p> <p>第 10 回 空気環境計画 1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気</p> <p>第 11 回 空気環境計画 2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算</p> <p>第 12 回 空気環境計画 3：機械換気設備、換気設備計画</p> <p>第 13 回 音環境計画 1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算</p> <p>第 14 回 音環境計画 2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料</p> <p>第 15 回 音環境計画 3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (80%) とレポート (20%) で評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の計算と測定</p> <p>【概要】【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の計算・測定を行い、これらの結果に基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。住居における物理環境の計算・測定・評価法を修得すると同時に、パソコンと表計算ソフトを活用して、データの分析方法を学ぶ。以上より、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な計算・測定・評価方法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 クリモグラムの作成と気候に適した住居形態調査</p> <p>第 2 回 日影図の作成と日照環境の評価</p> <p>第 3 回 教室の照度分布測定と評価</p> <p>第 4 回 教室の昼光率分布測定と評価</p> <p>第 5 回 室内照明計算</p> <p>第 6 回 定常伝熱計算（熱貫流率、伝熱量、表面温度）</p> <p>第 7 回 定常伝熱計算（平均熱貫流率）</p> <p>第 8 回 壁体の温度測定</p> <p>第 9 回 壁体の結露判定計算</p> <p>第 10 回 温熱環境の測定</p> <p>第 11 回 温熱環境の分析と評価</p> <p>第 12 回 必要換気量の計算</p> <p>第 13 回 室内ガス濃度の測定</p> <p>第 14 回 室内騒音の測定</p> <p>第 15 回 室内騒音の分析と評価</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容を総合的に評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築材料学		担当者	福永 知哉
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する材料の特質と使用方法を学ぶ</p> <p>【概要】【概要】 持続可能な社会を構築する質の高い建物を建設・管理するために建築材料の特性を知り、適材適所に材料を使用することが不可欠である。本講義では建築の歴史を含め、建築材料に関する基礎知識を概説する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】 建築材料（構造材・仕上材）の種類や機能などの特性について、説明できることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社</p> <p>(2) 建築学会篇 「建築材料用教材」 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築材料と構造</p> <p>第 2回 建築材料の歴史：日本建築と木材</p> <p>第 3回 建築材料1：木材の特性を学ぶ</p> <p>第 4回 建築材料2：木材の用法・種類</p> <p>第 5回 建築材料3：コンクリートの特性</p> <p>第 6回 建築材料4：コンクリート2の配合と強度</p> <p>第 7回 建築材料5：鉄筋の種類と規格</p> <p>第 8回 建築材料6：鉄骨と接合</p> <p>第 9回 建築材料7：材料の強度：</p> <p>第 10回 建築材料8：その他の主要材料（石・左官材・ガラス・建具）</p> <p>第 11回 建築材料9：環境にやさしい材料</p> <p>第 12回 建築材料10：内外装の仕上げ材</p> <p>第 13回 建築実例1：リフォームとリサイクル</p> <p>第 14回 建築実例2：これからの建築材料</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	建築生産		担当者	福永 知哉
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する必要がある。本講義では建築の品質・施工管理や施工技術の観点から建築生産のプロセスを概説する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】 建築生産の概要を理解し、建物の企画、設計、施工、維持管理等の生産工程を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：建築生産論</p> <p>第 2回 プロセス1：積算・契約</p> <p>第 3回 プロセス2：設計・監理</p> <p>第 4回 施工計画1：木造建築</p> <p>第 5回 施工計画2：鉄筋コンクリート造</p> <p>第 6回 施工計画3：鉄骨造とその他の構造</p> <p>第 7回 施工計画4：各種工事工程の管理</p> <p>第 8回 まとめ</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験			
実務経験について	建築設計並びに工事監理			

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

(注) 7.5回

授業科目	建築法規		担当者	未定
	[履修年次] 2年		授業外対応	講義終了時
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。</p> <p>【概要】建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に、建築法規について解説する。</p> <p>【到達目標】住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂2版」 発行所：株式会社 新星出版社</p> <p>(2) 適宜関連資料を配付</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語)</p> <p>第 2回 とともに地域で生活していくために (道路、用途制限、容積率、建蔽率、高さ制限、まちづくり制度)</p> <p>第 3回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定)</p> <p>第 4回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定)</p> <p>第 5回 安全な構造を維持するために (構造安全規定)</p> <p>第 6回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光、換気、衛生、階段等)</p> <p>第 7回 法が守られるために (制度規定、建築関連法規)</p> <p>第 8回 まとめ (建築基準法等の改正動向等)</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)			
実務経験について				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

(注) 7.5回

授業科目	CAD設計		担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CAD やプレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・作品表現方法について学ぶ。</p> <p>【概要】2次元CAD (Vectorworks), 3次元CAD (SketchUp), 画像編集の他、多様な関連ソフトを体験する。</p> <p>【到達目標】CAD ソフトの操作法を習得し、基礎的な建築図面を作成できる。また、関連する多様なソフトの体験を通じ、プレゼンテーションスキルの幅が広がる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) Aiprah『VECTORWORKS パーフェクトバイブル』翔泳社, ObraClub『やさしく学ぶSketchUp』エクスマレッジ</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：CAD について、関連ソフト・周辺機器について</p> <p>第 2回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作</p> <p>第 3回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作</p> <p>第 4回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成</p> <p>第 5回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成</p> <p>第 6回 2次元CAD：Vectorworks：地図・地形図</p> <p>第 7回 2次元CAD：Vectorworks：立体図</p> <p>第 8回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 9回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 10回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 11回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 12回 3次元CAD：SketchUp 作図課題</p> <p>第 13回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等</p> <p>第 14回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業内課題 (100%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築史		担当者	宍戸 克実				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本及び世界の建築・都市の歴史について学び、建築物や街並みの構成原理について考える。</p> <p>【概要】ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジアの他、日本の都市空間や建築物について学ぶ。</p> <p>【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに、身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 杉本龍彦『建築用語図鑑 西洋篇』オーム社、中山繁信『建築用語図鑑 日本篇』オーム社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：鹿児島都市と建築</p> <p>第 2 回 西洋建築史：古代建築</p> <p>第 3 回 西洋建築史：中世建築</p> <p>第 4 回 西洋建築史：近世建築</p> <p>第 5 回 日本建築史：古代建築</p> <p>第 6 回 日本建築史：中世建築</p> <p>第 7 回 日本建築史：近世建築</p> <p>第 8 回 西洋・日本建築史：近代建築</p> <p>第 9 回 世界の都市の歴史：アメリカ、ヨーロッパ</p> <p>第 10 回 世界の都市の歴史：日本、アジア</p> <p>第 11 回 世界の都市の歴史：中東、アフリカ</p> <p>第 12 回 世界の都市の公共空間：市場、カフェ、商店街</p> <p>第 13 回 世界の都市の公共空間：広場、浴場、宗教施設</p> <p>第 14 回 イスラーム地域の都市文化：トルコ・イラン・エジプト</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。							
成績評価の方法	ミニッツペーパー・小テスト (70%)、レポート (30%)							
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。							

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	CAD設計特講		担当者	宍戸 克実				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】CAD設計で習得したスキルを応用して課題に取り組む。設計製図Ⅲと連動したカリキュラム。</p> <p>【概要】前半はCAD関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組み、後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。</p> <p>【到達目標】CAD及び関連ソフトを複合的に使いこなし、建築物や周辺環境、都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：CADソフトとプレゼン関連機器について</p> <p>第 2 回 CADと地図データ：地理院地図、GoogleEarth、ゼンリン地図</p> <p>第 3 回 3DCADと立体地形：SketchUp</p> <p>第 4 回 3DCADと街並み再現：SketchUp</p> <p>第 5 回 CADとプレゼンソフト：Vectorworks、Photoshop、その他</p> <p>第 6 回 CADとプレゼンソフト：Vectorworks、iMovie</p> <p>第 7 回 課題1：平面図 Vectorworks</p> <p>第 8 回 課題1：平面図 Vectorworks</p> <p>第 9 回 課題2：立面図・断面図 Vectorworks</p> <p>第 10 回 課題2：立面図・断面図 Vectorworks</p> <p>第 11 回 課題3：矩計図 Vectorworks</p> <p>第 12 回 課題3：矩計図 Vectorworks</p> <p>第 13 回 課題4：地域分析図 Vectorworks</p> <p>第 14 回 課題4：地域分析図 Vectorworks</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。							
成績評価の方法	演習課題の発表・提出 (100%)							
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。							

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅲ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の計画、手順、図面理解。CAD 設計特講と連動するカリキュラム。</p> <p>【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み、課題文の読解、エスキス方法、要求図面について学ぶ。</p> <p>【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。</p>			
(1)テキスト	(1) 授業中に指示			
(2)参考文献	(2) 日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：建築士資格と試験、課題文の理解、例題</p> <p>第2回 エスキス課題1：木造専用住宅</p> <p>第3回 エスキス課題2：木造併用住宅</p> <p>第4回 エスキス課題3：木造併用住宅</p> <p>第5回 エスキス課題4：鉄骨造・小規模な公共施設</p> <p>第6回 エスキス課題5：RC造・小規模な公共施設</p> <p>第7回 作図課題1：木造併用住宅・平面図</p> <p>第8回 作図課題1：木造併用住宅・平面図</p> <p>第9回 作図課題2：木造併用住宅・立面図</p> <p>第10回 作図課題2：木造併用住宅・断面図</p> <p>第11回 作図課題3：木造・矩計図</p> <p>第12回 作図課題3：木造・矩計図</p> <p>第13回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型</p> <p>第14回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	演習課題の提出(100%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅳ		担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	通年	〔単位〕	4単位
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域に根ざした建築や都市の空間構成を考察し、地域課題の解決に向けた設計提案を試みる。</p> <p>【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し、図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は、前期の成果をもとに地域の課題と向き合い、建築・都市的アプローチによる提案を試みる。</p> <p>【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。</p>			
(1)テキスト	(1) 授業中に指示			
(2)参考文献	(2) 泉山墨威『パブリックスペース活用事典』学芸出版社、日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成 都市再生』マルゼン出版			
授業スケジュール	<p>第1回 【前期】</p> <p>第2回 第1回～第3回〔課題1〕建築及び都市研究、製作・事例研究、資料調査、現地調査</p> <p>第3回 第4回～第6回〔課題1〕地域分析・ディスカッション</p> <p>第4回 第7回～第9回〔課題1〕地域模型の作成</p> <p>第5回 第10回～第12回〔課題1〕プレゼン図の作成・発表</p> <p>第6回 第13回～第15回〔課題1〕各自の研究・制作対象地の調査・研究</p> <p>第7回 【後期】</p> <p>第8回 第16回～第21回〔課題2〕建築及び都市研究、製作・構想検討</p> <p>第9回 第22回～第27回〔課題2〕建築及び都市研究、製作・構想検討</p> <p>第10回 第28回～第33回〔課題2〕発表・ディスカッション</p> <p>第11回 第34回～第39回〔課題2〕都市構成図、地域構成図作成</p> <p>第12回 第40回～第45回〔課題2〕平面図、立面図、断面図、その他図版</p> <p>第13回 第46回～第51回〔課題2〕模型・プレゼン資料作成</p> <p>第14回 第52回～第57回〔課題2〕発表資料、プレゼンボード</p> <p>第15回 第59回～第60回〔課題2〕要旨・発表・論文提出</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	前期課題の発表・提出(30%)、後期課題の発表・提出(70%)			
実務経験について	外食企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	空間デザイン論		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅰ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】建築、インテリア等の実例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 空間デザインにもとめられるもの</p> <p>第 2 回 空間のテーマ コンセプトとは</p> <p>第 3 回 図面と表現 図面表現について</p> <p>第 4 回 平面図-1 平面図とは</p> <p>第 5 回 平面図-2 平面図演習</p> <p>第 6 回 断面図 平面から立体へ</p> <p>第 7 回 立体図-1 アクソメ図とアイソメ図</p> <p>第 8 回 立体図-2 透視図の原理と図法</p> <p>第 9 回 立体図-3 立体図によるプレゼンテーション</p> <p>第 10 回 表現ツールとしての CAD 操作演習</p> <p>第 11 回 住空間のコンセプト 狭小住宅課題</p> <p>第 12 回 住空間の計画 狭小住宅課題</p> <p>第 13 回 美術空間について-1 日本の美術館</p> <p>第 14 回 美術空間について-2 世界の美術館</p> <p>第 15 回 まとめ・講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題 (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。 ※本講座は「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。</p> <p>【到達目標】課題に対する多様なアイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善</p> <p>(2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス アイデアコンペについて</p> <p>第 2 回 コンペの選定 アイデアコンペに求められるもの</p> <p>第 3 回 コンセプトの立案-1 アイデアの発案-1</p> <p>第 4 回 コンセプトの立案-2 アイデアの発案-2</p> <p>第 5 回 コンセプトの立案-3 アイデアの発案-3</p> <p>第 6 回 計画案の立案-1 計画案のゾーニング</p> <p>第 7 回 計画案の立案-2 計画案のプランニング</p> <p>第 8 回 計画案の立案-3 計画案の立体</p> <p>第 9 回 中間講評-1 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1</p> <p>第 10 回 中間講評-2 コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2</p> <p>第 11 回 計画案の再考 計画案のまとめ・模型作成</p> <p>第 12 回 プレゼンシート作成-1 プレゼンシートレイアウトと模型作成</p> <p>第 13 回 プレゼンシート作成-2 プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影</p> <p>第 14 回 プレゼンシート作成-3 プレゼンシート仕上げ</p> <p>第 15 回 講評</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題 (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。 ※本講座は「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2)				
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス プレゼンテーションとは 第 2回 プレゼンテーション準備 フォーマットの作成 第 3回 プレゼンテーション-1 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 4回 プレゼンテーション-2 狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 5回 プレゼンテーション-3 狭小住宅課題の図面表現 第 6回 プレゼンテーション-4 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 7回 プレゼンテーション-5 住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 8回 プレゼンテーション-6 住宅課題の図面表現 第 9回 プレゼンテーション-7 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1 第 10回 プレゼンテーション-8 ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2 第 11回 プレゼンテーション-9 ギャラリー課題の図面表現 第 12回 プレゼンテーション-10 模型写真 第 13回 プレゼンテーション-11 レイアウト-1 第 14回 プレゼンテーション-12 レイアウト-2 第 15回 まとめ・レポート出題				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題 (100%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

授業科目	卒業研究D		担当者	川島 茂	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	通年	[単位]	4単位	
		[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>【概要】ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、十分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1回 第 1回 卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方 第 2回 第 2回～第 5回 卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定 第 3回 第 6回～第 12回 卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定 第 4回 第 13回～第 22回 卒業研究・設計課題：エスキス、設計 第 5回 第 23回～第 29回 卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成 第 6回 第 30回 卒業研究・設計課題：発表 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務				

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司
	[履修年次]	1年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[学期]	前期 [単位]	2単位	[必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】経済とは、経済学の考え方（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。</p> <p>【到達目標】経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014) 『マンキュー入門経済学 [第2版]』 東洋経済新報社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第2回 経済学の考え方</p> <p>第3回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第4回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策</p> <p>第5回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性</p> <p>第6回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第7回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第8回 マクロ経済学の基礎 (1) GDPの測定</p> <p>第9回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション</p> <p>第10回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第11回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第12回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割</p> <p>第13回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第14回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第15回 全体のまとめ、テスト対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。			
成績評価の方法	筆記試験(60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ(40%)			
実務経験について	なし。			

授業科目	消費者問題		担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時及び適宜対応(要予約)
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考えるー自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】【到達目標】消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならぬといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方、消費者の権利と責任</p> <p>第2回 消費者問題と生活問題、現代の生活問題の全体像</p> <p>第3回 消費者問題の時代背景とその後への影響</p> <p>第4回 悪質商法の現状、若者に多い商法</p> <p>第5回 ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方</p> <p>第6回 消費者と契約、消費者法のしくみ</p> <p>第7回 消費者契約法、特定商取引法等</p> <p>第8回 クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状</p> <p>第9回 食に関する安心・安全の動き、食品表示制度</p> <p>第10回 食情報との付き合い方、見極め方</p> <p>第11回 急増する製品事故と法改正</p> <p>第12回 消費者安全と製造物責任法</p> <p>第13回 環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動</p> <p>第14回 消費者市民社会の構築、消費者の責任と自覚</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、復習を重視する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)、提出物(20%)、定期試験(60%)による総合評価			
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。			

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生																																																
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣</p>																																																			
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>行政法概論</td> <td>・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>行政立法</td> <td>・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>行政行為(1)</td> <td>・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>行政行為(2)</td> <td>・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>行政指導</td> <td>・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>行政上の強制執行制度</td> <td>・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>行政手続法</td> <td>・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>行政不服申立て</td> <td>・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>行政事件訴訟法(1)</td> <td>・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>行政事件訴訟法(2)</td> <td>・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>行政事件訴訟法(3)</td> <td>・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>国家賠償法(1)</td> <td>・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>国家賠償法(2)</td> <td>・公の當造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>損失補償</td> <td>・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>公物</td> <td>・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</td> </tr> </table>							第 1 回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	第 2 回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	第 3 回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	第 4 回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について	第 5 回	行政指導	・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について	第 6 回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	第 7 回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	第 8 回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	第 9 回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	第 10 回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	第 11 回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	第 12 回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	第 13 回	国家賠償法(2)	・公の當造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	第 14 回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	第 15 回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について
第 1 回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について																																																		
第 2 回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について																																																		
第 3 回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について																																																		
第 4 回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について																																																		
第 5 回	行政指導	・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について																																																		
第 6 回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について																																																		
第 7 回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について																																																		
第 8 回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について																																																		
第 9 回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について																																																		
第 10 回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について																																																		
第 11 回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について																																																		
第 12 回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について																																																		
第 13 回	国家賠償法(2)	・公の當造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について																																																		
第 14 回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について																																																		
第 15 回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について																																																		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																			
実務経験について	なし																																																			

授業科目	経済政策		担当者	岩上 敏秀																																																
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。																																																
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな見方を踏まえ、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。</p>																																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>																																																			
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス：講義の目的・進め方</td> <td>序章：経済政策とは何か</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>日本経済の構造変化と経済政策</td> <td>日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>経済成長を考える</td> <td>経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>財政再建を考える(1)</td> <td>財政の現状は、財政赤字は問題なのか</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>財政再建を考える(2)</td> <td>財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>社会保障と雇用の将来を考える(1)</td> <td>社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>社会保障と雇用の将来を考える(2)</td> <td>所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>異次元の金融政策について考える(1)</td> <td>金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>異次元の金融政策について考える(2)</td> <td>バブル崩壊以降の金融政策の効果は</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>環境問題を考える(1)</td> <td>環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>環境問題を考える(2)</td> <td>環境問題と経済政策</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>地域経済を考える(1)</td> <td>地方の現状は（人口減少、産業空洞化、地方の財政）</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>地域経済を考える(2)</td> <td>地域経済を支える産業政策とは</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>地域経済を考える(3)</td> <td>地域創生のために必要な政策とは</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ、講義評価アンケート実施</td> <td></td> </tr> </table>							第 1 回	ガイダンス：講義の目的・進め方	序章：経済政策とは何か	第 2 回	日本経済の構造変化と経済政策	日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか	第 3 回	経済成長を考える	経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか	第 4 回	財政再建を考える(1)	財政の現状は、財政赤字は問題なのか	第 5 回	財政再建を考える(2)	財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは	第 6 回	社会保障と雇用の将来を考える(1)	社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は	第 7 回	社会保障と雇用の将来を考える(2)	所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは	第 8 回	異次元の金融政策について考える(1)	金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は	第 9 回	異次元の金融政策について考える(2)	バブル崩壊以降の金融政策の効果は	第 10 回	環境問題を考える(1)	環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは	第 11 回	環境問題を考える(2)	環境問題と経済政策	第 12 回	地域経済を考える(1)	地方の現状は（人口減少、産業空洞化、地方の財政）	第 13 回	地域経済を考える(2)	地域経済を支える産業政策とは	第 14 回	地域経済を考える(3)	地域創生のために必要な政策とは	第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施	
第 1 回	ガイダンス：講義の目的・進め方	序章：経済政策とは何か																																																		
第 2 回	日本経済の構造変化と経済政策	日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか																																																		
第 3 回	経済成長を考える	経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか																																																		
第 4 回	財政再建を考える(1)	財政の現状は、財政赤字は問題なのか																																																		
第 5 回	財政再建を考える(2)	財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは																																																		
第 6 回	社会保障と雇用の将来を考える(1)	社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は																																																		
第 7 回	社会保障と雇用の将来を考える(2)	所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは																																																		
第 8 回	異次元の金融政策について考える(1)	金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は																																																		
第 9 回	異次元の金融政策について考える(2)	バブル崩壊以降の金融政策の効果は																																																		
第 10 回	環境問題を考える(1)	環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは																																																		
第 11 回	環境問題を考える(2)	環境問題と経済政策																																																		
第 12 回	地域経済を考える(1)	地方の現状は（人口減少、産業空洞化、地方の財政）																																																		
第 13 回	地域経済を考える(2)	地域経済を支える産業政策とは																																																		
第 14 回	地域経済を考える(3)	地域創生のために必要な政策とは																																																		
第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施																																																			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します																																																			
成績評価の方法	中間レポート (40%) + 期末レポート (60%)																																																			
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。																																																			

授業科目	金融論		担当者	岩上 敏秀
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割、証券取引や日本銀行による金融政策まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>			
(1)テキスト	(1)	プリント		
(2)参考文献	(2)	授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス： 講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう		
	第 2 回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう		
	第 3 回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう		
	第 4 回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう		
	第 5 回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう		
	第 6 回	金融取引と金利： 金利について学ぼう		
	第 7 回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう		
	第 8 回	金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう		
	第 9 回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう		
	第 10 回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう		
	第 11 回	債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう		
	第 12 回	日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		
	第 13 回	日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		
	第 14 回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう		
	第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります			

授業科目	社会政策		担当者	近間 由幸
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>			
(1)テキスト	(1)	プリント		
(2)参考文献	(2)	久本憲夫・瀬野陸見・北井万裕子編『日本の社会政策(第3版)』ナカニシヤ出版		
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクションー日本社会の「しくみ」について		
	第 2 回	社会政策とはなにか		
	第 3 回	賃金と社会政策		
	第 4 回	企業と労働組合の関係		
	第 5 回	過労死と長時間労働		
	第 6 回	非正規雇用とは何か		
	第 7 回	日本社会における入社のしくみと若者支援政策		
	第 8 回	日本型雇用システムと女性の働き方		
	第 9 回	子育てと雇用政策		
	第 10 回	高齢者の福祉と雇用		
	第 11 回	働けないときにどのような支援があるのか		
	第 12 回	社会保険と生活保護の溝		
	第 13 回	労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として		
	第 14 回	移民問題と外国人労働者		
	第 15 回	全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート(30%)、筆記試験(70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	民法		担当者	藤野 博行
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	基本的(いつでも対応します)。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。</p> <p>【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行っている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。</p> <p>【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし(資料を配付します)</p> <p>(2) 道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』日本経済新聞出版社(2019年)5280円 ISBN-13:978-4296114641</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義を進めるにあたって、民法総則①</p> <p>第2回 民法総則②</p> <p>第3回 民法総則③</p> <p>第4回 民法総則④</p> <p>第5回 物権法①</p> <p>第6回 物権法②</p> <p>第7回 物権法③</p> <p>第8回 知識確認テスト(前半パート)</p> <p>第9回 債権法①</p> <p>第10回 債権法②</p> <p>第11回 債権法③</p> <p>第12回 親族法</p> <p>第13回 相続法</p> <p>第14回 知識確認テスト(後半パート)</p> <p>第15回 今学期のまとめ・期末テストに向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します			
成績評価の方法	①知識確認テスト(20点×2)、②期末テスト(50点)③グループワーク等の際の積極性(10点)。			
実務経験について				

授業科目	商法		担当者	河野 総史
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】【到達目標】株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない(レジュメを配布する)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第2回 会社法総論</p> <p>第3回 会社の種類</p> <p>第4回 株式①(株式の種類等)</p> <p>第5回 株式②(株式の譲渡と譲渡制限)</p> <p>第6回 株式③(自己株式・親会社株式取得規制等)</p> <p>第7回 株式④(株式併合・分割・無償割当等)</p> <p>第8回 資金調達①(会社設立時)</p> <p>第9回 資金調達②(募集株式の発行等)</p> <p>第10回 資金調達③(株式以外の資金調達手段)</p> <p>第11回 機関①(機関総論)</p> <p>第12回 機関②(株主総会)</p> <p>第13回 機関③(取締役・取締役会)</p> <p>第14回 機関④(監査役・会計参与・会計監査人)</p> <p>第15回 機関⑤(指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社)</p>			
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること			
成績評価の方法	期末テスト80%小テスト20% 全体で60%以上を合格とする			
実務経験について	なし			

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの間わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者に与える影響とメカニズム</p> <p>第11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%							
実務経験について	なし							

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社（予定）、その他は講義中に指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたか？ どうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどこでやられるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。							
成績評価の方法	ミニレポート(30%)、期末レポート(70%)							
実務経験について	なし							

会計関連科目の基礎科目です。簿記論、財務会計論、管理会計論、原価計算、会計情報論を履修する前に、学習することを勧めます。

授業科目	簿記論 I		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和6年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義, 取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第4回 仕訳と元帳: 帳簿の種類, 仕訳帳への記入, 仕訳帳から総勘定元帳への転記</p> <p>第5回 決算(1): 決算の意義と手続, 試算表の作成</p> <p>第6回 決算(2): 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表の作成</p> <p>第7回 決算(3): ボードゲームで学ぶ仕訳と転記</p> <p>第8回 決算(4): ボードゲームで学ぶ決算手続</p> <p>第9回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越</p> <p>第10回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第11回 繰越商品・仕入・売上: 3分法, 諸掛と返品</p> <p>第12回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第13回 公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義: 複式簿記の実践についての講話</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営学と経済学の違い: 経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第3回 経営学の発展と必要性: 経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第4回 企業の種類について: 企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第5回 企業の目的と役割について: 企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第6回 企業における4つの経営資源(ヒト): 働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第7回 企業における4つの経営資源(カネ): 企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト(予定)</p> <p>第9回 企業における4つの経営資源(モノ): 主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第10回 企業における4つの経営資源(情報): 企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第11回 日本の経営を考える: 年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第12回 組織の基本的な仕組みについて: 基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第13回 企業統治について: 株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第14回 経営戦略を考える: 経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ (ハードウェア, ソフトウェア, 周辺機器) やネットワークの仕組みを知り, 現代社会においてどのような役割があり, どのような問題点があるかを知る。結果として, 効果的かつ適切な IT 活用が可能となり, トラブル解決もできるようになる。また, ネットワークを安全に使うためのルール, マナーを学ぶ。また, 授業の3分の1程度の時間を使い, IT に関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】 初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して, パソコンやネットワークの安全, 便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布, Web でも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 ハードウェアとソフトウェア: ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3 回 パソコンの中身: パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4 回 単位と容量と速度: 情報処理や通信に関わる単位と容量, 速度</p> <p>第 5 回 インターネットの仕組み: インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6 回 電子メールの使い方: 電子メールの仕組みと正しい使用法</p> <p>第 7 回 IT セキュリティ: マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8 回 インターフェイス: インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9 回 周辺機器 1: モニタ, 光学ドライブなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 10 回 周辺機器 2: プリンタ, デジカメなど周辺機器の役割, 仕組み</p> <p>第 11 回 ソフトの分類: ソフトウェアの分類と正しい使用法</p> <p>第 12 回 Web3, クラウド, ビッグデータ, IoT: 新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13 回 スペックの見方: パソコン, 周辺機器のスペック (仕様) の見方</p> <p>第 14 回 AI と DX, インターネットの国際比較: AI と DX の基本知識, とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%, 授業ごとのリアクションペーパーが20%					
実務経験について	なし					

授業科目	文書作成実習 (経済)		担当者	永仮 ゆかり		
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール		
	[学期]	後期 [単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定 (文書作成 3 級) 対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定 (文書作成 3 級) 対策を行い、資格取得を目指す。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第 2 回 検定対策 (3 級) : 社外文書の作成 (案内状)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 3 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 1 (表を利用した文書の作成)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 4 回 検定対策 (3 級) : 図形を利用した文書の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 5 回 検定対策 (3 級) : 報告書の作成 (計算式を含む文書)、図形の補足、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 6 回 検定対策 (3 級) : 通知状の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 7 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 2 (文書作成 3 級実技練習問題)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 8 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 9 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ (表, グラフ) の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (スタイル, セクション区切りの挿入, 文書の挿入など)</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3 (Excel データ・テキストファイルの利用, 書式のコピーなど)</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号, 表の編集など)</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用, スタイルの設定, セクション区切りなど)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示					
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) と 3 回の課題 (30%) の総合評価					
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座 (パソコン講座) の講師					

授業科目	文書作成実習(経情)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級）：報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集：いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（30%）の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師			

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・基本的なデータ処理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相関関係について理解する ・検定について理解する 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：統計学とは</p> <p>第 2 回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3 回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4 回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5 回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6 回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7 回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8 回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9 回 統計解析：カイ 2 乗検定</p> <p>第 10 回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11 回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12 回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13 回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14 回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題（20%）+期末試験（80%）			
実務経験について	なし			

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Web で公開 (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成 1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成 4：ページ公開 第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成 4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成 5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)			
実務経験について	なし			

授業科目	PCデータ活用 (経済)		担当者	口脇 淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数 (合計・平均) の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用 (カウント・端数処理など) 第 6回 データ処理：関数の利用 (条件の判定・論理関数など) 第 7回 データ処理：関数の利用 (順位づけ・VLOOKUP など) 第 8回 各関数を利用した実習問題 (小テスト) 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定 (軸ラベル・データラベル・目盛りなど) 第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定 (データ範囲の変更・系列の書式など) 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成 (系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など) 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計 (並べ替え・抽出 ほか) 第 14回 データの集計 (ピボットテーブル) 第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用（経情）		担当者	口脇 淳子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編集部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)			
授業スケジュール	第 1回 Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト） 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか） 第 14回 データの集計（ピボットテーブル） 第 15回 前期のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習（経済）		担当者	口脇 淳子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Microsoft Excel を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編集部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2) プリント			
授業スケジュール	第 1回 前期授業の復習 第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題 第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題 第 4回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題 第 5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題 第 6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題 第 7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題 第 8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題 第 9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第 10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題 第 11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題 第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題 第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題 第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題 第 15回 後期のまとめ 知識科目問題			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験（80%）＋小テスト（20%）			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習(経情)		担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】知識と技術の習得を日商PC検定試験(データ活用)の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト(実技問題・知識科目問題)</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験(80%) + 小テスト(20%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習		担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす</p> <p>【概要】本実習は前期の情報リテラシーII(E)(F)の応用となるので、基本的に前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーIIで扱えなかった各種アプリケーション(プレゼンテーション、PDFファイル、OCR、動画編集、HP作成など)の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】上記アプリケーション・ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習 プレゼンテーションアプリ PowerPoint(1)</p> <p>第2回 プレゼンテーションアプリ PowerPoint(2) 第1回課題</p> <p>第3回 スマートフォンアプリとの連携 授業アンケート(授業への要望及び取り組みたいアプリの希望など)</p> <p>第4回 動画編集アプリ...動画作成・編集ソフト</p> <p>第5回 動画編集アプリ...動画の撮影、編集</p> <p>第6回 動画編集アプリ...動画の編集 第2回課題</p> <p>第7回 PDFファイルの扱い方...スキャナーとOCRの利用：画像文書からテキストへ</p> <p>第8回 PDFファイル(Adobe Acrobat)の扱い方...文書ファイルの統合</p> <p>第9回 PDFファイル(Adobe Acrobat)の扱い方...セキュリティ設定などの応用</p> <p>第10回 Windows パソコンの知っておくと便利な機能</p> <p>第11回 ホームページの構造</p> <p>第12回 ホームページの作成(1)</p> <p>第13回 ホームページの作成(2) 第3回課題</p> <p>第14回 アンケートで学生が希望したアプリケーション・ソフトウェアへの対応</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	3回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	3回の課題(70%)と実技試験(30%)の総合評価			
実務経験について	本学パソコン講師20年以上、実務翻訳業20年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者			

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれないませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて、日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導：勧告操短、企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政の基礎的な制度について、内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で、それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。ここでは、財政民主主義という財政制度の根幹、経済における公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで、他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また、財政は、政治と経済の「結節点」(つなぎ目の役割を担っています)なので、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し、説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて、経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年) 森田稔著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等</p> <p>第 5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋藏金」、改革の方向等</p> <p>第 6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第 7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第 9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第 10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第 11回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 12回 財政投融资：定義、運用対象、批判、2001年度の改革、今後の展望等</p> <p>第 13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	農業経済論		担当者	前田 千春
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識</p> <p>第 2 回 世界の農産物需給と食料事情</p> <p>第 3 回 農産物貿易とアグリビジネス</p> <p>第 4 回 先進国の農業と農業政策</p> <p>第 5 回 途上国経済と農業</p> <p>第 6 回 日本の農産物需給と食料事情</p> <p>第 7 回 日本農業の展開過程①</p> <p>第 8 回 日本農業の展開過程②</p> <p>第 9 回 農業の生産組織と土地</p> <p>第 10 回 農産物流通の仕組み</p> <p>第 11 回 日本の農業・農村の現状と課題</p> <p>第 12 回 農業・農村の多面的機能</p> <p>第 13 回 日本農業の新たな取り組み①</p> <p>第 14 回 日本農業の新たな取り組み②</p> <p>第 15 回 まとめ：これからの日本農業</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して小レポートに取り組むこと。			
成績評価の方法	小レポート (60%)、期末レポート (40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	ファイナンス論		担当者	岩上 敏秀
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金 (1) (生涯でかかってくるお金を確認しよう)</p> <p>第 2 回 人生とお金 (2) (生涯で受け取るお金を確認しよう)</p> <p>第 3 回 投資のリスクとリターン (投資収益率、分散、標準偏差)</p> <p>第 4 回 主な投資商品 (預金、債券、株式、投資信託、債券と金利)</p> <p>第 5 回 株式投資 (1) (株式会社、上場、証券取引所)</p> <p>第 6 回 株式投資 (2) (会社の価値、株価の適正水準)</p> <p>第 7 回 株式投資 (3) (事例研究①：企業分析、業績予想)</p> <p>第 8 回 株式投資 (4) (事例研究②：企業価値・株価の予想)</p> <p>第 9 回 株式投資 (5) (株価、チャート、株価の変動要因)</p> <p>第 10 回 長期・積立・分散投資 (1) (分散の効果)</p> <p>第 11 回 長期・積立・分散投資 (2) (複利パワー)</p> <p>第 12 回 投資信託 (1) (投資信託の基本)</p> <p>第 13 回 投資信託 (2) (ファンド情報の見方、ファンドの選び方)</p> <p>第 14 回 証券会社の選び方、NISA の活用</p> <p>第 15 回 まとめ、授業アンケート</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。			

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ・ライサミ
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴ</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クルノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。			
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）			
実務経験について	なし。			

授業科目	経済学特講 I		担当者	岩上 敏秀
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、株式業務、信用取引(1)</p> <p>第2回 株式業務、信用取引(2)</p> <p>第3回 債券業務(1)</p> <p>第4回 債券業務(2)</p> <p>第5回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(1)</p> <p>第6回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(2)</p> <p>第7回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(3)</p> <p>第8回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(4)</p> <p>第9回 証券税制</p> <p>第10回 金融商品取引法</p> <p>第11回 取引所定款・諸規則</p> <p>第12回 協会定款・諸規則</p> <p>第13回 投資信託および投資法人に関する業務</p> <p>第14回 財務諸表と企業分析</p> <p>第15回 まとめ、講義アンケート</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	証券外務員試験の受検結果（90%）＋授業への参加姿勢（10%）（外務員試験を受検しない学生については確認テストを行うことがあります）			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	経済学特講Ⅱ		担当者	山口 祐司	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	法学特講		担当者	藤野 博行	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	基本的にいつでも対応します。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダー的な視点から家族法を分析し、性別に関係なく個性や能力を発揮できる社会を構築するための方法を考えます。</p> <p>【概要】私たちは、「女らしさ、男らしさ」といったように、人を性別で分類してしまうことがあります。しかし、このような分類は、個人の個性や能力を十分に発揮できる社会の構築を困難にします。そこで、本科目はジェンダー的な視点から民法（家族法）等について分析することにより、性別に関係なく個性や能力を十分に発揮できる社会を構築するための方法について考えます。</p> <p>【到達目標】①ジェンダーに関する基本用語等を説明できる、②社会問題等について、ジェンダーの視点から論理的に考えることができる、③自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、④異質な他者と議論・協働することができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（資料を配付します） (2) 必要に応じて提示します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 授業を進めるにあたって、ジェンダー論① 第2回 ジェンダー論② 第3回 ジェンダー論③ 第4回 親族・相続法のできるまで 第5回 性の多様性について（性同一障害特例法） 第6回 婚外子と戸籍（民法・戸籍法） 第7回 同性婚はできるのか？①（民法） 第8回 同性婚はできるのか？②（民法） 第9回 知識確認テスト（前半パート） 第10回 なぜ、夫婦・親子はどちらかの姓を名乗らなければならないのか（民法） 第11回 なぜ、夫婦・親子はどちらかの姓を名乗らなければならないのか（民法） 第12回 性別役割分業と夫婦別産制（民法） 第13回 養育費（民法） 第14回 知識確認テスト（後半パート） 第15回 今学期のまとめ（レポートのアウトラインや作成のポイントについて）</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。				
成績評価の方法	①知識確認テスト（20点×2）、②期末レポート（50点）③グループワーク等の際の積極性（10点）。				
実務経験について	なし。				

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和6年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第3版)、中央経済社。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 売掛金と買掛金: 人名勘定, 売掛金と元帳と買掛金元帳, 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第3回 その他の債権と債務: 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証金</p> <p>第4回 受取手形と支払手形: 手形の意義と補助簿, 手形貸付金と手形借入金, 電子記録債権と債務</p> <p>第5回 有形固定資産: 有形固定資産の取得, 減価償却, 有形固定資産の売却</p> <p>第6回 有形固定資産: 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第7回 貸倒損失と貸倒引当金: 貸倒れと貸倒損失, 貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第8回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品, 諸会費</p> <p>第9回 税金: 租税公課, 法人税, 住民税及び事業税, 消費税</p> <p>第10回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入</p> <p>第11回 伝票: 伝票の集計</p> <p>第12回 財務諸表: 試算表の作成, 決算整理</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。		
成績評価の方法	期末テスト100%		
実務経験について	なし		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応	
		[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	外国貿易論		担当者	大重 康雄					
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)					
		[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済のグローバル化という視点で、貿易取引における現状と課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、常に化する貿易の現状と脱炭素等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解をもって意見が言える。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システム (GVC) と貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた日本貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点・・・中間まとめ (ディスカッション)</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定 (FTA/EPA) の現状</p> <p>第11回 自由貿易体制の変化と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状・特徴</p> <p>第13回 日本貿易の展望と課題</p> <p>第14回 グローバル・イシュー：経済開発と環境・人権を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>								
授業外学習 (予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。								
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)								
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー (#018)								

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘					
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応					
		[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p>								
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する								
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。								
実務経験について	NGO での勤務経験あり								

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意図</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			
実務経験について	なし			

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第3回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第4回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第5回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第6回 海域アジア：海を通じた結びつき（1）</p> <p>第7回 海域アジア：海を通じた結びつき（2）</p> <p>第8回 海域アジア：海を通じた結びつき（3）</p> <p>第9回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第10回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第11回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第12回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第13回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制：ASEANを中心とする協力</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。			
実務経験について	NGOでの勤務経験あり			

授業科目	国際経済特講 I		担当者	村田 秀博
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	授業外対応 授業終了後 Eメールにて
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出、それに伴う貿易取引 キーワード：県内中小企業も多くの海外業務を行っている。資料 DVD サンプル多用のわかりやすい授業 【概要】【概要】 日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。 【到達目標】【到達目標】 地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた個々の解決方法を見出す。 県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ・プリント資料 (2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材） 第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第 3 回 進出国の情勢比較（中国） 第 4 回 進出国の情勢比較（中国） 第 5 回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など） 第 6 回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致 第 7 回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか） 第 8 回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ） 第 9 回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第 10 回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか） 第 11 回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ） 第 12 回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約） 第 13 回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第 14 回 貿易実務（輸出・輸入） 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	筆記試験 80% + レポート 20%			
実務経験について	金融機関にて国際業務に 2-3 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。お勧めの海外旅行精通。			

授業科目	地域経済論		担当者	前田 千春
	[履修年次] 1,2年	[学期] 前期	[単位] 2単位	授業外対応 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。 【概要】 人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。 【到達目標】 ※鹿児島市役所からゲストスピーカーを呼ぶこともあります。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か 第 2 回 地域経済の基礎理論 第 3 回 地域経済循環と地域構造 第 4 回 地域経済の実態 第 5 回 地域経済に関する統計 第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用 第 7 回 大都市と地方都市 第 8 回 工業都市 第 9 回 農業地域 第 10 回 山村地域 第 11 回 地場産業地域 第 12 回 第三次産業地域 第 13 回 地域経済の成長理論 第 14 回 グループワーク②：地域経済の事例分析 第 15 回 まとめ：地域経済の発展に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。			
成績評価の方法	講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	地域産業政策	担当者	前田 千春
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3回 地域産業政策と地方創生</p> <p>第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9回 鹿児島県における地域産業政策</p> <p>第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。		
成績評価の方法	講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1,2年	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論, 日本の地方財政制度の内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か, 日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて, 日本の地方財政について, 基本的な概念や理論, 制度について講義します。ここでは, 地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化などの地方財政に改革が求められている背景, そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し, 説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し, 判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し, その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2 回 地方自治(1): 定義, 地方政府の特徴, 地方分権が求められる背景等</p> <p>第 3 回 地方自治(2): グローバル化の影響等</p> <p>第 4 回 地方予算(1): 予算の役割, 地方予算の特徴, 中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第 5 回 地方予算(2): 日本の制度の特徴, 課題, 日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第 6 回 地方の決算: 定義, 日本の制度と問題点, 外部監査, 市民オンブズマン等</p> <p>第 7 回 地方の経費(1): 定義, 主な分類とその見方, 都道府県と市町村の違い等</p> <p>第 8 回 地方の経費(2): 義務的経費と投資的経費, その問題点等</p> <p>第 9 回 国庫支出金(1): 補助金の分類, 国庫支出金とは, 求められる役割, 補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第 10 回 国庫支出金(2): 実態, 問題点, 三位一体の改革等</p> <p>第 11 回 地方交付税(1): 財政調整制度とは, 地方交付税の制度の内容等</p> <p>第 12 回 地方交付税(2): 機能, 問題点等</p> <p>第 13 回 地方債: 定義, 適債事業, 2006 年度からの変化等</p> <p>第 14 回 住民自治: シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	非営利組織論		担当者	丸田 真悟
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】現代社会における非営利組織（NPO）の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】概要 非営利組織（NPO）は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会におけるNPOの役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社（2020）、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣（2017）、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣（2009）ほか随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織（NPO）とは何か 「非営利」の意味、NPOの定義について考えます。</p> <p>第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。</p> <p>第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第4回 NPOの世界1 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第5回 NPOの世界2 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第6回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第7回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第8回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第9回 NPOのマネジメント1 NPOの経営管理について考えます。</p> <p>第10回 NPOのマネジメント2 NPOの経営戦略について考えます。</p> <p>第11回 NPOのマネジメント3 NPOの資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第12回 (WS) NPOをつくる1 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第13回 (WS) NPOをつくる2 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート（70%）+授業ごとに実施する小論文（30%）			
実務経験について	認定NPO法人理事長			

授業科目	労働法		担当者	藤野 博行
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方がよい基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（資料を配付します）</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業を進めるにあたって</p> <p>第2回 労働法ってどんな法律？（労働法の概要）</p> <p>第3回 労働法は就職活動にも適用されます！（採用と労働法①）</p> <p>第4回 「採用」について（採用と労働法②）</p> <p>第5回 会社と従業員の間に発生する権利義務について</p> <p>第6回 賃金（給料）の額や支払い方法にも決まりがある</p> <p>第7回 知識確認テスト（前半）</p> <p>第8回 労働時間・休憩や休日についても決まりがある</p> <p>第9回 残業したり、休日に出勤したらどうなるの？</p> <p>第10回 カラダが「ととのう」有給休暇（年休）の話</p> <p>第11回 仕事中に体を壊したら？（労災保険制度）</p> <p>第12回 仕事を辞める場合（労働契約の終了）</p> <p>第13回 育児・介護と仕事の両立（産前・産後休業、育児・介護休業法）</p> <p>第14回 知識確認テスト（後半）</p> <p>第15回 期末レポートに向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。			
成績評価の方法	①知識確認テスト（20点×2）、②期末レポート（50点）③グループワーク等の際の積極性（10点）。			
実務経験について				

授業科目	地域研究特講		担当者	福田 忠弘					
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応					
		〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：キーワードから見る国際社会（1）</p> <p>第3回 世界の現状2：キーワードから見る国際社会（2）</p> <p>第4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容</p> <p>第6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障</p> <p>第7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？</p> <p>第8回 社会開発への視点（1）：NGOの活躍（1）</p> <p>第9回 社会開発への視点（2）：NGOの活躍（2）</p> <p>第10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1）</p> <p>第11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2）</p> <p>第12回 社会開発への視点（5）：国連とSDGs(1)</p> <p>第13回 社会開発への視点（6）：国連とSDGs(2)</p> <p>第14回 社会開発への視点（7）：地方自治体とSDGs</p> <p>第15回 まとめ</p>								
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する								
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。								
実務経験について	NGOでの勤務経験あり								

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生					
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応（要予約）					
		〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、いて検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>								
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣</p>								
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p>								
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。								
成績評価の方法	筆記試験（90％）＋授業での発言内容（10％）を基準にして評価する。								
実務経験について	なし								

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和6年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第3版)、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 売掛金と買掛金 : 人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳、売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第3回 その他の債権と債務 : 貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金</p> <p>第4回 受取手形と支払手形 : 手形の意義と補助簿、手形貸付金と手形借入金、電子記録債権と債務</p> <p>第5回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却</p> <p>第6回 有形固定資産 : 固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第7回 貸倒損失と貸倒引当金 : 貸倒れと貸倒損失、貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本 : 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第8回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品、諸会費</p> <p>第9回 税金 : 租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第10回 伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入</p> <p>第11回 伝票 : 伝票の集計</p> <p>第12回 財務諸表 : 試算表の作成、決算整理</p> <p>第13回 財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題 : 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題 : 問題演習と解説</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明 : 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か : 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1) : 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2) : テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3) : メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4) : マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。</p> <p>第8回 人的資源管理(1) : 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理(2) : 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理(3) : 人事異動(初任配置・配置転換・昇進など)について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(4) : 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理(5) : 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理(6) : 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か : リーダー(上司)として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業形態] 講義方式
	[授業外対応]	[必修/選択]	選択	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 永田瞬・戸室健作編『働く人のための人事労務管理』八千代出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨナー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	管理会計論		担当者	劉 美玲
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業形態] 講義方式
	[授業外対応]	[必修/選択]	選択	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 管理会計論</p> <p>【概要】 この講義は、管理会計の基本的な考え方、伝統的な管理会計手法、新しい管理会計手法及び、日本的な管理会計手法について学びます。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎知識と基本的な考え方を習得し、学校やアルバイト先など身の回りのさまざまな管理会計システムを理解し、将来の生活や仕事に活かすこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストを配布します。</p> <p>(2) 『エッセンシャル管理会計』(第3版) 谷武幸 (2013) 中央経済社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、管理会計の基礎</p> <p>第 2回 意思決定会計</p> <p>第 3回 業績管理会計</p> <p>第 4回 長期経営計画</p> <p>第 5回 設備投資計画</p> <p>第 6回 短期利益計画</p> <p>第 7回 予算管理</p> <p>第 8回 中間テスト</p> <p>第 9回 事業部の業績管理</p> <p>第 10回 原価管理</p> <p>第 11回 ABC/ABM</p> <p>第 12回 バランス・スコアカード</p> <p>第 13回 原価企画</p> <p>第 14回 アメーノ経営</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習してください。			
成績評価の方法	中間テスト (40%) 期末テスト (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	原価計算		担当者	劉 美玲
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の配賦</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1</p> <p>第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2</p> <p>第 7 回 中間テスト</p> <p>第 8 回 単純総合原価計算</p> <p>第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 12 回 標準原価計算 1</p> <p>第 13 回 標準原価計算 2</p> <p>第 14 回 直接原価計算</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。			
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)			
実務経験について	なし			

*受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記3級を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講Ⅰ		担当者	田原 武志・東 圭太
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布、並びにメールにて送信。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーリング</p> <p>第 2 回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 ～ (テーマ例)</p> <p>第 14 回 「隠れた経営資源に気づく」 「目的、目標の設定の重要性を認識する」 「継続的改善の仕組みを取り入れる」 「企業の果たす社会的責任について認識する」 「トレンドを把握する」 「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」 「投機と投資の考察」等々</p> <p>第 15 回 まとめ 試験対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(課題が毎回発表)と復習(講義のまとめ)のレポート作成があります。			
成績評価の方法	レポート提出 (35%)、授業での発表 (35%) 筆記試験 (30%)			
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。			

授業科目	経営学特講Ⅱ		担当者	瀬口 毅士		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代的特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODククション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 現代企業の動向 (1)：各種資料を用いて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 4回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第 5回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代的特徴を考える。</p> <p>第 6回 多国籍企業の経営環境 (3)：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第 7回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 8回 多国籍企業の活動 (2)：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第 9回 市場戦略の現代的特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 10回 市場戦略の現代的特徴 (2)：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (30%)					
実務経験について	なし					

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることにはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する					
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5回 情報リテラシーについて (1)：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6回 情報リテラシーについて (2)：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7回 情報リテラシーについて (3)：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8回 メディアの歴史について (1)：各種メディアについて理解を深める (新聞～テレビ)。</p> <p>第 9回 メディアの歴史について (2)：各種メディアについて理解を深める (テレビ～ネット)。</p> <p>第 10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。					
実務経験について	なし					

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入力して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 宇田川 荘二『中小企業の財務分析』（第6版）同友館。</p> <p>(2) 随時指定</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明、分析対象企業の選定。</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	PC教室での講義となりますので、各自で予習、復習をお願いします。					
成績評価の方法	中間レポート(30%)、期末レポート(70%)					
実務経験について	なし					

1年生でも履修可としますが、会計学総論、簿記論、財務会計論を履修済みの学生を対象とした内容です。それらを履修済みでない場合も、日商簿記検定3級レベルの内容を理解できておれば履修して構いません。なお、エクセルの基礎的な操作を必要とする講義です。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)		
	[学期]	後期 [単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第7回 M&Aと戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&Aについて解説する。</p> <p>第8回 M&Aと戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第9回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験(100%)					
実務経験について	なし					

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝	
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目では「企業会計に関する問題」を取りあげた新聞記事を教材として、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。言い換えれば、「企業会計」への社会的視線を出発点にして、財務諸表の社会的役割や財務諸表の作成原理について解説を進めていきます。※会計学総論、簿記論Ⅰ・Ⅱの学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表に及ぼす影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 永野則雄『ケースでまなぶ財務会計』(第9版), 白桃書房。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第25版), 中央経済社。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODククション: 会計をめぐる2つのドラマ</p> <p>第2回 会計の役割と規則: 会計の機能と法規制</p> <p>第3回 財務諸表における表示: 貸借対照表と損益計算書の関係と取引の認識</p> <p>第4回 財務諸表を読む: やさしい経営分析</p> <p>第5回 会計の計算原理: 物語としての会計</p> <p>第6回 棚卸資産の会計: 棚卸資産, 評価方法, 期末評価, 処理方法の変更</p> <p>第7回 有形固定資産の会計: 有形固定資産, 減価償却の意味, 算定方法, 減損, リース</p> <p>第8回 無形固定資産の会計: 無形固定資産, のれん, 研究開発費とソフトウェア, 繰延資産</p> <p>第9回 金融資産の会計: 金融資産, 有価証券, デリバティブ</p> <p>第10回 負債の会計: 負債, 引当金, 退職給付債務, 資産除去債務</p> <p>第11回 純資産の会計: 純資産の部, 会社の再編, 自己株式, 配当</p> <p>第12回 収益・費用・税金: 収益と費用の認識, 税効果会計</p> <p>第13回 連結財務諸表: 連結決算の意義</p> <p>第14回 その他の財務諸表: 包括利益計算書, キャッシュフロー計算書, 株主資本等変動計算書, 注記</p> <p>第15回 決算: 真実な報告と会計戦略</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。				
成績評価の方法	期末テスト100%				
実務経験について	なし				

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODククション: 授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念: マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク(1): 身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択: STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析: 消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析: 「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク(2): STPを使ってみよう。</p> <p>第8回 製品戦略: 製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略: 価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略(1): 流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略(2): チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略: プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略: これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング: 企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③: ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験(80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど(20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身に付け、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨーンー流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2 回 流通とはなにか</p> <p>第 3 回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4 回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5 回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6 回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7 回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8 回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9 回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10 回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11 回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12 回 小売・流通における労働問題 (1) 一物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13 回 小売・流通における労働問題 (2) 一接客販売業の働き方</p> <p>第 14 回 現代流通と消費行動の変化</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、期末レポート (70%)							
実務経験について	なし							

授業科目	経営工学		担当者	倉重 賢治				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2 回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3 回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいいすれば良いのか</p> <p>第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8 回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13 回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14 回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)							
実務経験について	なし							

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 6 回 Access の操作：データベースの設計 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 9 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 14 回 Excel による統計処理：平均値の差の検定 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	プログラミング		担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 2年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	適宜対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』マイナビ出版 (2) 特になし			
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し (1) 第 6 回 VBA の利用：繰り返し (2) 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 (1) 第 9 回 VBA の利用：条件分岐 (2) 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	簿記論Ⅲ		担当者	宗田 健一	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営内容の把握と経営管理に役立つ知識として、商業簿記を学ぶ。</p> <p>【概要】複式簿記について基礎的な理解がある学生を対象として、日商簿記2級レベルの商業簿記のテキストを用いて、様々な取引の会計処理方法や記帳方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】株式会社の会計について基礎的な内容を理解する。また、財務諸表の作成と利用について基礎的な知識を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) TAC株式会社編『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版, 2024年</p> <p>(2) 講義時に指定する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続き, 財務諸表</p> <p>第2回 現金・預金, 債権・債務</p> <p>第3回 有価証券, その他債権・債務</p> <p>第4回 商品売買</p> <p>第5回 固定資産, リース取引</p> <p>第6回 無形固定資産, 研究開発費, 引当金</p> <p>第7回 外貨換算, 税機に, 税効果会計</p> <p>第8回 株式発行, 剰余金の配当・処分</p> <p>第9回 決算手続, 財務諸表の作成</p> <p>第10回 収益の認識基準</p> <p>第11回 本支店会計</p> <p>第12回 連結会計1</p> <p>第13回 連結会計2</p> <p>第14回 会計基準</p> <p>第15回 まとめ:試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習, 復習が大切です。				
成績評価の方法	中間テスト (30%), 期末テスト (70%)				
実務経験について	なし				

受講前に、次の科目を履修済みであること(簿記論1, 2, 会計学総論), もしくは、日商簿記3級, 全経簿記2級, 全商簿記1級に合格していること。

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦・倉重 賢治	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前に適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ICT(情報通信技術)について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといったICTを学び, 日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト(エクセル)の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】実社会において, 自らICT業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版『よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級知識科目公式問題集』, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明: 授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト: PC等のICT機器のハードウェア, ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1: CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2: ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク: TCP/IPの設定, ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1: Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2: フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字: 2進数</p> <p>第9回 情報セキュリティ1: インターネットの危険性</p> <p>第10回 情報セキュリティ2: 暗号</p> <p>第11回 数理モデル1: シミュレーション</p> <p>第12回 数理モデル2: 最適化</p> <p>第13回 AIの利活用: AIとは</p> <p>第14回 AIの利活用: 機械学習</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート(30%) + 授業中の課題(40%) + 期末試験(30%)				
実務経験について	なし				

(注)「情報科学概論」(担当: 岡村)を履修済み, もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

13 第二部商經学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化		担当者	岡村俊彦 他7名		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応			
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に、多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。(9/11,9/12,9/13,9/17,9/18,9/19,9/20の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり、他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし、プリント資料を準備します。</p> <p>(2) 授業中、必要に応じて指示します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 日本語と英語のポキャブラリーについて(1) (遠峯)</p> <p>第2回 日本語と英語のポキャブラリーについて(2) (遠峯)</p> <p>第3回 企業・政府・文化(1) (船津)</p> <p>第4回 企業・政府・文化(2) (船津)</p> <p>第5回 技術と経済の歴史 (山口)</p> <p>第6回 現代社会における技術と経済 (山口)</p> <p>第7回 スキタイの文化(1):歴史 (土肥)</p> <p>第8回 スキタイの文化(2):黄金の文化 (土肥)</p> <p>第9回 (1)アートと文化 (北)</p> <p>第10回 (2)デザインと文化 (北)</p> <p>第11回 日本の学校給食と食育:学校給食の歴史より (中西)</p> <p>第12回 鹿児島県の学校給食と食文化:郷土料理に魅せられて (中西)</p> <p>第13回 若者と選挙(1):18歳選挙権から考える (山本)</p> <p>第14回 若者と選挙(2):インターネット選挙から考える (山本)</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	レポートの提出(85%)と毎回の授業の感想・意見等(15%)で評価します。					
実務経験について	なし					

授業科目	日本の歴史		担当者	永山 修一		
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応			
	[学期]	後期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的な思考力について理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業時に配布(プリント)</p> <p>(2) 『鹿児島県の歴史』(山川出版社,1999年)原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 歴史の見方</p> <p>第2回 資料と史料(文献)</p> <p>第3回 資料と史料(遺物)</p> <p>第4回 資料と史料(遺構)</p> <p>第5回 旧石器時代・縄文時代</p> <p>第6回 弥生時代</p> <p>第7回 古墳時代</p> <p>第8回 神話と伝承</p> <p>第9回 隼人と律令制度</p> <p>第10回 薩摩国正税帳を読む</p> <p>第11回 平安時代の薩摩・大隅</p> <p>第12回 奄美諸島の歴史</p> <p>第13回 キカイガシマをめぐる</p> <p>第14回 鹿児島県の芸能</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業時毎の小レポート(60%) レポート(40%)					
実務経験について	なし					

授業科目	日本文学・近代		担当者	竹本 寛秋			
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期 [単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の小説を読む</p> <p>【概要】 日本近代の小説を、様々な観点から読み解きます。様々な観点から小説を読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。 ※対象とする小説作品は変更の可能性がある。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 第 2 回 梶井基次郎「檸檬」 第 3 回 結核の時代と文学 第 4 回 芥川龍之介「蜜柑」 第 5 回 科学技術と文学 第 6 回 中島敦「マリヤン」 第 7 回 日本の国境と日本文学 第 8 回 前半のまとめ 第 9 回 萩原朔太郎「猫町」 第 10 回 心理学と文学 第 11 回 宮澤賢治「猫の事務所」 第 12 回 原稿、草稿と文学 第 13 回 太宰治「葉桜と魔笛」 第 14 回 「語り」からテキストを読み解く 第 15 回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。						
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)、レポート (60%)						
実務経験について	なし						

授業科目	こころの科学		担当者	飯田 都			
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	[学期]	前期 [単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井晴策(監)(2012). プロが教える心理学のすべてがわかる本 ナツメ社 (2) 北尾倫彦(1997).グラフィック心理学 サイエンス社 無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治(2018).心理学 新版 有斐閣</p>						
授業スケジュール	<p>第 1 回 第 1 回オリエンテーション 第 2 回 第 2 回 心理学とは：科学としての心理学 第 3 回 第 3 回 人は世界をどうとらえるか：ゲシュタルト心理学,錯覚の心理学 第 4 回 第 4 回 発達とは：遺伝と環境 第 5 回 第 5 回 感情はどこからくるのか：感情の心理学 第 6 回 第 6 回 学習とは：行動主義,学習の心理学 第 7 回 第 7 回 やる気はどこから生まれるのか：動機づけ,学習性無力感 第 8 回 第 8 回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 第 9 回 第 9 回 性格：血液型と認知バイアス 第 10 回 第 10 回 ストレス：心のトラブルを考える 第 11 回 第 11 回 精神分析：無意識の発見と心の病 第 12 回 第 12 回 心理療法 第 13 回 第 13 回 社会と心理 第 14 回 第 14 回 犯罪と心理 第 15 回 第 15 回 ポジティブ心理学</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	授業内課題 (50%)、試験 (50%)						
実務経験について	なし						

授業科目	比較文化		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	[学期]	後期	[単位]	2 単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を読む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が神様である中国と客が神様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なれなれしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>			
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>			
実務経験について	<p>なし。</p>			

授業科目	アジア文化論		担当者	カムチャイ・ライサミ
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2 単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミクス</p> <p>アジア文化は多様性に富んでいる。文化の根源とは何か。アジア文化の起源、変容、比較を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然と宗教がどのようにアジア文化を育み、現代の政治・経済・社会にどのように影響を与えるか、実例を交えながら講義する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然と主要宗教を展望し、アジア文化の多様性が理解できること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 アジア文化の多様性</p> <p>第 2 回 文化と自然・風土</p> <p>第 3 回 文化と生活</p> <p>第 4 回 文化と経済</p> <p>第 5 回 文化と宗教・政治</p> <p>第 6 回 儒教・道教の文化</p> <p>第 7 回 仏教文化</p> <p>第 8 回 イスラム教文化</p> <p>第 9 回 インドの宗教文化</p> <p>第 10 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国</p> <p>第 11 回 アジア比較文化Ⅱ：中国と台湾</p> <p>第 12 回 アジア比較文化Ⅲ：香港とシンガポール</p> <p>第 13 回 アジア比較文化Ⅳ：タイとフィリピン</p> <p>第 14 回 アジア比較文化Ⅴ：マレーシアとインドネシア</p> <p>第 15 回 アジア比較文化Ⅵ：ベトナムとミャンマー</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。</p>			
成績評価の方法	<p>期末筆記試験 (100%)</p>			
実務経験について	<p>なし。</p>			

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法 (令和6年度版)』、有斐閣</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 憲法概論 ・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</p> <p>第 2 回 基本権総論 ・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</p> <p>第 3 回 幸福追求権 ・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</p> <p>第 4 回 精神的自由権(1) ・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</p> <p>第 5 回 精神的自由権(2) ・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</p> <p>第 6 回 精神的自由権(3) ・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</p> <p>第 7 回 経済的自由権 ・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</p> <p>第 8 回 受益権 ・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</p> <p>第 9 回 社会権(1) ・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</p> <p>第 10 回 社会権(2) ・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</p> <p>第 11 回 国会(1) ・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</p> <p>第 12 回 国会(2) ・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</p> <p>第 13 回 内閣 ・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</p> <p>第 14 回 裁判所 ・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</p> <p>第 15 回 財政 ・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次] 2年		授業外対応	
	[学期] 通年	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ◆ 5月15日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは</p> <p>◆ 6月12日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第2回 自己分析 志望動機</p> <p>◆ 7月10日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第3回 企業研究の必要性とそのやり方</p> <p>◆ 9月18日 (水) 3限</p> <p>第4回 企業が求める人材</p> <p>◆ 9月18日 (水) 4限</p> <p>第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ</p> <p>◆ 10月16日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第6回 働いて「困った」への対応方法</p> <p>◆ 11月6日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p> <p>◆ 12月18日 (水) (特設時間を利用)</p> <p>第8回 プロフェッショナルになろう (パネルディスカッション)</p> <p>※ 5年度の講師については適宜掲示する。</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出 (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾 由美子	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	講義終了後	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕 選択
					〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 				
(1)テキスト	(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント				
(2)参考文献	(2) 「これであなともひとり立ち」 金融広報中央委員会（無償提供）				
授業スケジュール	<p>第1回 ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性和考え方</p> <p>第2回 ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く</p> <p>第3回 ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</p> <p>第4回 社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識</p> <p>第5回 社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識</p> <p>第6回 社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する</p> <p>第7回 所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</p> <p>第8回 貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い</p> <p>第9回 貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い</p> <p>第10回 貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識</p> <p>第11回 貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度</p> <p>第12回 貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識</p> <p>第13回 保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方</p> <p>第14回 保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方</p> <p>第15回 まとめ：第1回から第14回までのまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	講義中ごとの感想（50%） 期末試験（50%）				
実務経験について	2010年からライフプランセミナー講師、2013年からFP3級資格取得講座講師、2016年からFP2級資格取得講座講師				

授業科目	環境問題		担当者	井村隆介・榮村奈緒子・浅海真弓・岡村雄輝	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕 選択
					〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視点から考える</p> <p>【概要】自然史（井村）、森林科学（榮村）、生活科学（浅海）、経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える。</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>				
(1)テキスト	(1) プリントを配布				
(2)参考文献	(2) 國部克彦（編集）、神戸CSR研究会（編集）『CSRの基礎』、中央経済社				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 鹿児島島の自然史（1）鹿児島島と気候変動</p> <p>第3回 鹿児島島の自然史（2）鹿児島島の地震と火山</p> <p>第4回 鹿児島島の自然史（3）鹿児島島の植生史</p> <p>第5回 鹿児島島の自然史（4）鹿児島島の自然と人</p> <p>第6回 森林科学（1）：動物と植物の相互作用【遠隔授業】</p> <p>第7回 森林科学（2）：獣害【遠隔授業】</p> <p>第8回 森林科学（3）：外来種【遠隔授業】</p> <p>第9回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題）</p> <p>第10回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品ロスの現状と課題）</p> <p>第11回 生活科学（3）：環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み）</p> <p>第12回 経済社会（1）：企業と公害（1）</p> <p>第13回 経済社会（2）：企業と公害（2）</p> <p>第14回 経済社会（3）：企業と地球環境（1）</p> <p>第15回 経済社会（4）：企業と地球環境（2）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各教員の課題（20～30点満点）×4＝100点とする				
実務経験について	なし				

14 第二部商経学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語Ⅰ (A) (第二部)		担当者	米村 大輔
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期 [単位]	1単位	[必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で自分の考え・文化を表現する。</p> <p>【概要】コミュニケーションに必要な基礎英文法を身につけながら、自分の考え、気持ち、文化の伝え方を学ぶ。英語4技能をバランスよく養う。</p> <p>【到達目標】自分の考えや気持ちを相手に誤解を与えることなく英語で伝えることができる。相手の考えや気持ちを英語で的確に理解することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Benedict Rowlett et al. 『Living Grammar』</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Profile I (be動詞)</p> <p>第2回 Profile II (be動詞)</p> <p>第3回 Sports I (自動詞)</p> <p>第4回 Sports II (他動詞)</p> <p>第5回 Special Occasions I (二重目的語をとる動詞)</p> <p>第6回 Special Occasions II (目的語と補語をとる動詞)</p> <p>第7回 Families (人称代名詞)</p> <p>第8回 Japan Quiz I (Wh-疑問文)</p> <p>第9回 Japan Quiz II (Wh-疑問文)</p> <p>第10回 Love & Marriage I (過去形)</p> <p>第11回 Love & Marriage II (過去形)</p> <p>第12回 Life History (現在完了形1)</p> <p>第13回 Leisure I (現在完了形2)</p> <p>第14回 Leisure II (現在完了形3)</p> <p>第15回 On Vacation (未来表現)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	小テスト(40%)、 振り返りシート(30%)、 授業での取り組み(30%)			
実務経験について				

授業科目	英語Ⅰ (B) (第二部)		担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期 [単位]	1単位	[必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第2回 Unit 1: Meeting People; Personal Information</p> <p>第3回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests</p> <p>第4回 Unit 2: Describing People; Talking about Family</p> <p>第5回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives</p> <p>第6回 Unit 3: Describing Routines and Schedules</p> <p>第7回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency</p> <p>第8回 Test (1) and Conversation Activities</p> <p>第9回 Unit 4: Talking about Locations</p> <p>第10回 Unit 4: Using Prepositions</p> <p>第11回 Unit 5: Giving Directions</p> <p>第12回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs</p> <p>第13回 Unit 6: Talking about Past Events and Activities</p> <p>第14回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs</p> <p>第15回 Test (2) and Conversation Activities</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)			
実務経験について				

授業科目	英語Ⅱ (A) (第二部)		担当者	米村 大輔
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】協働的な学習を通して、コミュニケーションに必要な文法・語彙の定着を図る。</p> <p>【概要】現代の社会現象や環境問題などを題材に英語を学ぶ。ペアワークやグループワークを通して実際に文法を使うことを経験しながらその定着を図る。</p> <p>【到達目標】ライティングやスピーキングにおいて特定の英文法を正確に使うことができる。リスニングやリーディングを通して特定の英文法の働きを理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Benedict Rowlett et al. 『Living Grammar』</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Out and About (助動詞1)</p> <p>第 2回 Rules (助動詞2)</p> <p>第 3回 Folk Tales (接続詞)</p> <p>第 4回 News & Events (受動態)</p> <p>第 5回 Amazing Animals (副詞)</p> <p>第 6回 Feelings (形容詞)</p> <p>第 7回 World Quiz (原級・比較級)</p> <p>第 8回 World Quiz (最上級)</p> <p>第 9回 Business (前置詞)</p> <p>第 10回 Environment (接続詞)</p> <p>第 11回 Old Saying (不定詞)</p> <p>第 12回 Old Saying (動名詞)</p> <p>第 13回 Professions (関係詞)</p> <p>第 14回 What If? (仮定法過去)</p> <p>第 15回 What If? (仮定法過去完了)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	小テスト(40%)、 振り返りシート(30%)、 授業での取り組み(30%)			
実務経験について				

授業科目	英語Ⅱ (B) (第二部)		担当者	ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills</p> <p>第 2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with</p> <p>第 3回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions</p> <p>第 4回 Unit 8: Using different verb patterns</p> <p>第 5回 Quiz (1) and Discussion</p> <p>第 6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities</p> <p>第 7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions</p> <p>第 8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items</p> <p>第 9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers</p> <p>第 10回 Quiz (2) and Discussion</p> <p>第 11回 Unit 11: Giving instructions</p> <p>第 12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past</p> <p>第 13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music</p> <p>第 14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect</p> <p>第 15回 Final Exam</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)			
実務経験について				

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)		担当者	英語担当教員	
	[履修年次]	指定なし	授業外対応		
	[学期]	通年	[単位]	2単位	[必修/選択] 選択
					[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績</p> <p>日程：9月4日～9月17日</p> <p>参加者：31名</p> <p>研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業スケジュール	<p>第1回 事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）(50%) とハワイでの研修状況 (50%) で評価する。				
実務経験について					

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)		担当者	中国語担当教員	
	[履修年次]	指定なし	授業外対応		
	[学期]	通年	[単位]	2単位	[必修/選択] 選択
					[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など） <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)				
授業スケジュール	<p>第1回 事前指導 受講希望者に3～5回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題 (50%)、および中国での学習成果 (50%) を基に成績を算出します。				
実務経験について					

授業科目	中国語Ⅰ (A) (第二部)		担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人</p> <p>第2回 我叫王平</p> <p>第3回 这里是南京路</p> <p>第4回 现在几点了?</p> <p>第5回 今天是星期几?</p> <p>第6回 你家有几口人?</p> <p>第7回 没关系 (映画)</p> <p>第8回 香港的夏天热吗? (映画)</p> <p>第9回 四川菜很好吃 (中間テスト)</p> <p>第10回 我经常散步</p> <p>第11回 牌价是多少?</p> <p>第12回 汉语难不难?</p> <p>第13回 我没吃蒜</p> <p>第14回 我想去超市</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			
実務経験について				

授業科目	中国語Ⅰ (B) (第二部)		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語に親しむ</p> <p>【概要】この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語12課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第2回 発音(1)：単母音と声調の導入、練習</p> <p>第3回 発音(2)：複母音の導入、練習</p> <p>第4回 発音(3)：子音の導入、練習</p> <p>第5回 発音(4)：子音の練習、発音のまとめ</p> <p>第6回 動詞是の使い方</p> <p>第7回 姓の言い方、尋ね方。フルネームの言い方、尋ね方</p> <p>第8回 これまでの復習</p> <p>第9回 動詞文の導入と練習</p> <p>第10回 動詞文の練習、疑問文の練習</p> <p>第11回 二つ以上の動詞からなる連動文</p> <p>第12回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入、練習</p> <p>第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第14回 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度、小テスト：50%、期末試験：50%			
実務経験について				

授業科目	中国語Ⅱ (A) (第二部)		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似で練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当たる</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过, 听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			
実務経験について				

授業科目	中国語Ⅱ (B) (第二部)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】</p> <p>この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語12課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第2回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第3回 動詞「在」の導入，練習</p> <p>第4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第5回 年月日，曜日の言い方の練習</p> <p>第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習</p> <p>第7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第8回 復習(1) これまでの内容の復習</p> <p>第9回 形容詞述語文の導入，練習</p> <p>第10回 時刻の言い方の導入，練習</p> <p>第11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第12回 お金の言い方の導入，練習</p> <p>第13回 量詞の導入，練習</p> <p>第14回 復習(4)：全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度、小テスト：50%、口頭試験：50%			
実務経験について				

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習(A)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを継続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、バスケットボール①</p> <p>第3回 体づくり運動、バスケットボール②</p> <p>第4回 体づくり運動、フットサル①</p> <p>第5回 体づくり運動、フットサル②</p> <p>第6回 体づくり運動、バレーボール①</p> <p>第7回 体づくり運動、バレーボール②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、卓球・バドミントン①</p> <p>第10回 体づくり運動、卓球・バドミントン②</p> <p>第11回 体づくり運動、ティーボール①</p> <p>第12回 体づくり運動、ティーボール②</p> <p>第13回 体づくり運動、ポッチャ・モルック①</p> <p>第14回 体づくり運動、ポッチャ・モルック②</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

授業科目	生涯スポーツ実習(B)		担当者	浜田 幸史
	[履修年次]	1年	授業外対応	随時
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを継続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識、課題解決方法等を理解し、楽しさを味わうための技能を身に付けること、動きの改善点等を他者に伝えることができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 体育・スポーツ・健康概論（ナカニシヤ出版）、中・高等学校時保健体育の副読本 その他、授業時に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①、レポート①</p> <p>第2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第6回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第7回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第8回 体力テスト②、球技大会①</p> <p>第9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第11回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④</p> <p>第15回 体力テスト③、球技大会②、まとめ、レポート②</p>			
授業外学習(予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。			
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。			

16 第二部商経学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシーⅠ (A)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1：ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成：表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用：ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験(知識科目 20%+実技科目 50%)と 3 回の課題(30%)の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座(パソコン講座)の講師			

授業科目	情報リテラシーⅠ (B)		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2022 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1：ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成：表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用：ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験(知識科目 20%+実技科目 50%)と 3 回の課題(30%)の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座(パソコン講座)の講師			

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル, メールを送受信, ファイル操作, Web 検索, PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう, 課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では, 著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題 (2 回目 Web による情報検索 (画像検索) 3 回目 PowerPoint) は自分でテーマを考えて作成し, 授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】課題やレポートを作成し, メールで提出出来るようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール (Web メール, スマホと連携) の設定 確認テスト 1</p> <p>第 2 回 電子メール (Web メール) の練習, USB メモリの使い方, ファイル操作の練習 確認テスト 2</p> <p>第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3</p> <p>第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍), 電子メール (Thunderbird) の設定 確認テスト 4</p> <p>第 5 回 ファイルの操作の練習, 電子メール (Thunderbird) の練習 確認テスト 5</p> <p>第 6 回 USB カメラの操作, 動画編集体験 確認テスト 6</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7</p> <p>第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8</p> <p>第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題</p> <p>第 10 回 Web による情報検索 (画像検索), 画像の編集 確認テスト 9</p> <p>第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題</p> <p>第 12 回 PowerPoint (概要, 起動と終了, 画面構成, 作成) 確認テスト 10</p> <p>第 13 回 PowerPoint (作成, スライドショーの実行, 原稿作り) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 PowerPoint (原稿作り, 発表, 鑑賞)</p> <p>第 15 回 PowerPoint (発表, 鑑賞)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	10 回の確認テスト (20%) と 3 回の課題 (40%), 期末レポート (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル, メールを送受信, ファイル操作, Web 検索, PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう, 課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では, 著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題 (2 回目 Web による情報検索 (画像検索) 3 回目 PowerPoint) は自分でテーマを考えて作成し, 授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】課題やレポートを作成し, メールで提出出来るようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール (Web メール, スマホと連携) の設定 確認テスト 1</p> <p>第 2 回 電子メール (Web メール) の練習, USB メモリの使い方, ファイル操作の練習 確認テスト 2</p> <p>第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3</p> <p>第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍), 電子メール (Thunderbird) の設定 確認テスト 4</p> <p>第 5 回 ファイルの操作の練習, 電子メール (Thunderbird) の練習 確認テスト 5</p> <p>第 6 回 USB カメラの操作, 動画編集体験 確認テスト 6</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7</p> <p>第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8</p> <p>第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題</p> <p>第 10 回 Web による情報検索 (画像検索), 画像の編集 確認テスト 9</p> <p>第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題</p> <p>第 12 回 PowerPoint (概要, 起動と終了, 画面構成, 作成) 確認テスト 10</p> <p>第 13 回 PowerPoint (作成, スライドショーの実行, 原稿作り) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 PowerPoint (原稿作り, 発表, 鑑賞)</p> <p>第 15 回 PowerPoint (発表, 鑑賞)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	10 回の確認テスト (20%) と 3 回の課題 (40%), 期末レポート (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論		担当者	山口 祐司				
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。				
	[学期]	後期	[単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】この授業は、現代社会を主として 1970 年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第 2～4 回)、「新自由主義」(第 5～7 回) というキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題 (第 8～12 回) についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し (第 13～14 回) をみていきます。</p> <p>【到達目標】現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義</p> <p>第 2 回 グローバリゼーション (1) グローバリゼーションとは何か</p> <p>第 3 回 グローバリゼーション (2) グローバリゼーションと企業</p> <p>第 4 回 グローバリゼーション (3) グローバリゼーションと国・地域</p> <p>第 5 回 新自由主義 (1) 経済学における自由</p> <p>第 6 回 新自由主義 (2) 新自由主義とは何か</p> <p>第 7 回 新自由主義 (3) 新自由主義政策と格差問題</p> <p>第 8 回 現代社会の諸問題 (1) 民族・宗教をめぐる国際紛争</p> <p>第 9 回 現代社会の諸問題 (2) 人の移動と排外主義</p> <p>第 10 回 現代社会の諸問題 (3) 疲弊する地域経済</p> <p>第 11 回 現代社会の諸問題 (4) 行き詰まる社会保障システム</p> <p>第 12 回 現代社会の諸問題 (5) 悪化する地球環境問題</p> <p>第 13 回 行き詰まりを打開するために (1) 所得再分配の模索</p> <p>第 14 回 行き詰まりを打開するために (2) 世界的に活発化する社会運動</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	事前に予習用の参考文献を提示することがあります。授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。							
成績評価の方法	レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)							
実務経験について	なし。							

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司				
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。				
	[学期]	前期	[単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】経済とは、経済学の考え方 (第 1～2 回)。ミクロ経済学の基礎的理論 (第 3～7 回)。マクロ経済学の基礎理論 (第 8～14 回)。</p> <p>【到達目標】経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもちつこと。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014) 『マンキュー入門経済学 [第 2 版]』 東洋経済新報社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第 2 回 経済学の考え方</p> <p>第 3 回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第 4 回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策</p> <p>第 5 回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性</p> <p>第 6 回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第 7 回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第 8 回 マクロ経済学の基礎 (1) GDP の測定</p> <p>第 9 回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション</p> <p>第 10 回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第 11 回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第 12 回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割</p> <p>第 13 回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第 14 回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第 15 回 全体のまとめ、テスト対策</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習 (テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。							
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)							
実務経験について	なし。							

授業科目	社会学		担当者	元橋 利恵				
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応					
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学入門—ジェンダー、家族、労働問題から考える。</p> <p>【概要】ジェンダー、家族、労働、ケアなど様々なテーマを通して、後期近代社会を生きる私たちが直面している、構造的な諸問題について考えていく。現在「あたりまえ」とされているような社会的規範（働き方、性別分業、コミュニケーション様式など）を相対化し、誰もが生きやすい社会を構想するために社会学の基礎を学んでいく。</p> <p>【到達目標】社会学の基礎的な考え方、概念、タームを学び、自ら複雑な社会問題について自身で情報を収集し、また、データを読み解き、分析的に考える力を身につけること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業内で指示、配布する。</p> <p>(2) 永田夏来、松木洋人編著 (2017)『入門家族社会学』新泉社、笹川あゆみ編著 (2017)『ジェンダーとわたし』</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション ジェンダー、セクシュアリティをめぐる「ふつう」</p> <p>第 2 回 日本における近代家族の成立と発展 (1) 近代家族の登場</p> <p>第 3 回 日本における近代家族の成立と発展 (2) 大衆化</p> <p>第 4 回 雇用とジェンダー (1) 女性の雇用の変遷 雇用機会均等法</p> <p>第 5 回 雇用とジェンダー (2) 非正規化</p> <p>第 6 回 雇用とジェンダー (3) 家事労働、ケア労働</p> <p>第 7 回 性差別の歴史と抵抗運動 (1) フェミニズムとは</p> <p>第 8 回 性差別の歴史と抵抗運動 (2) 第二波フェミニズム、現代のフェミニズム</p> <p>第 9 回 同性愛差別の歴史と運動史 (1)</p> <p>第 10 回 同性愛差別の歴史と運動史 (2)</p> <p>第 11 回 政治とジェンダー</p> <p>第 12 回 身体の健康、性と社会</p> <p>第 13 回 性暴力の「神話」</p> <p>第 14 回 男性学とは—マジョリティと差別問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業内で指定するテキストを読み、講義のあと復習すること。							
成績評価の方法	毎回のミニ課題 40%、最終レポート 60%							
実務経験について	なし							

授業科目	文化と社会		担当者	田口 康明				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとりの子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】1) テキストを熟読する。2) 幼児期の特徴について深く理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2 回 「しつけ」1 しつけとは/自己実現</p> <p>第 3 回 「しつけ」2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第 4 回 「あそび」1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第 5 回 「あそび」2 ルール/思考と文化</p> <p>第 6 回 「表現」1 生活と表現</p> <p>第 7 回 「表現」2 独自性と共同性</p> <p>第 8 回 「ことば」1 ことばの世界と身体</p> <p>第 9 回 「ことば」2 ことばのない世界</p> <p>第 10 回 「ことば」3 身体と心的世界の結合</p> <p>第 11 回 「ことば」4 ことばの世界の前</p> <p>第 12 回 「ことば」5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第 13 回 「ことば」6 関係性とことば</p> <p>第 14 回 「幼児期」1 存在と時間</p> <p>第 15 回 「幼児期」2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業内で指示 (テキストの指示した範囲を必ず読むこと)							
成績評価の方法	授業中の発表 (各自分担する) 70%、ファイナルレポート 30%							
実務経験について	なし							

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>行政法概論</td> <td>・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>行政立法</td> <td>・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>行政行為(1)</td> <td>・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>行政行為(2)</td> <td>・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>行政指導</td> <td>・規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>行政上の強制執行制度</td> <td>・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>行政手続法</td> <td>・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>行政不服申立て</td> <td>・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>行政事件訴訟法(1)</td> <td>・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>行政事件訴訟法(2)</td> <td>・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>行政事件訴訟法(3)</td> <td>・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>国家賠償法(1)</td> <td>・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>国家賠償法(2)</td> <td>・公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>損失補償</td> <td>・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>公物</td> <td>・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</td> </tr> </table>				第 1 回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	第 2 回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	第 3 回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	第 4 回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について	第 5 回	行政指導	・規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について	第 6 回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	第 7 回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	第 8 回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	第 9 回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	第 10 回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	第 11 回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	第 12 回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	第 13 回	国家賠償法(2)	・公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	第 14 回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	第 15 回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について
第 1 回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について																																															
第 2 回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について																																															
第 3 回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について																																															
第 4 回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について																																															
第 5 回	行政指導	・規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について																																															
第 6 回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について																																															
第 7 回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について																																															
第 8 回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について																																															
第 9 回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について																																															
第 10 回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について																																															
第 11 回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について																																															
第 12 回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について																																															
第 13 回	国家賠償法(2)	・公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について																																															
第 14 回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について																																															
第 15 回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																
実務経験について	なし																																																

授業科目	金融論		担当者	岩上 敏秀																																													
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。																																													
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割、証券取引や日本銀行による金融政策まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス： 講義の目的・進め方</td> <td>序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>金融取引と金利： 金利について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ、講義評価アンケート実施</td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう	第 2 回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう		第 3 回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう		第 4 回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう		第 5 回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう		第 6 回	金融取引と金利： 金利について学ぼう		第 7 回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう		第 8 回	金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう		第 9 回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう		第 10 回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう		第 11 回	債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう		第 12 回	日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第 13 回	日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第 14 回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう		第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施	
第 1 回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう																																															
第 2 回	資金循環： 日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう																																																
第 3 回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう																																																
第 4 回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう																																																
第 5 回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう																																																
第 6 回	金融取引と金利： 金利について学ぼう																																																
第 7 回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう																																																
第 8 回	金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう																																																
第 9 回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう																																																
第 10 回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう																																																
第 11 回	債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう																																																
第 12 回	日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																
第 13 回	日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																
第 14 回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう																																																
第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します																																																
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)																																																
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります																																																

授業科目	社会政策		担当者	近間 由幸
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 久本憲夫・瀬野陸見・北井万裕子編『日本の社会政策 (第3版)』ナカニシヤ出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について</p> <p>第 2回 社会政策とはなにか</p> <p>第 3回 賃金と社会政策</p> <p>第 4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第 5回 過労死と長時間労働</p> <p>第 6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第 7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第 8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第 9回 子育てと雇用政策</p> <p>第 10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第 11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第 12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第 13回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として</p> <p>第 14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	民法		担当者	藤野 博行
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。</p> <p>【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行っている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。</p> <p>【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 道垣内弘人『リーガルペイシ民法入門』日本経済新聞出版社 (2019年) 5280円 ISBN-13:978-4296114641</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義を進めるにあたって、民法総則①</p> <p>第 2回 民法総則②</p> <p>第 3回 民法総則③</p> <p>第 4回 民法総則④</p> <p>第 5回 物権法①</p> <p>第 6回 物権法②</p> <p>第 7回 物権法③</p> <p>第 8回 知識確認テスト (前半パート)</p> <p>第 9回 債権法①</p> <p>第 10回 債権法②</p> <p>第 11回 債権法③</p> <p>第 12回 親族法</p> <p>第 13回 相続法</p> <p>第 14回 知識確認テスト (後半パート)</p> <p>第 15回 今学期のまとめ・期末テストに向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します			
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末テスト (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。			
実務経験について	なし			

授業科目	商法		担当者	河野 総史				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2回 会社法総論</p> <p>第 3回 会社の種類</p> <p>第 4回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第 6回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社）</p>							
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること							
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする							
実務経験について	なし							

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 人間とシステムの間わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第 10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%							
実務経験について	なし							

授業科目	会計学総論			担当者	宗田 健一			
	〔履修年次〕	指定なし		授業外対応	適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会计学』（第3版）同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社（予定）、その他は講義中に指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどのように作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要な？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。							
成績評価の方法	ミニレポート(30%)、期末レポート(70%)							
実務経験について	なし							

会計関連科目の基礎科目です。簿記論、財務会計論、管理会計論、原価計算、会計情報論を履修する前に、学習することを勧めます。

授業科目	簿記論 I			担当者	岡村 雄輝			
	〔履修年次〕	指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理解を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理解の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山覚、北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』（令和6年版）、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』（第2版）、中央経済社。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 簿記とは？：簿記の意義、目的、財務諸表</p> <p>第3回 仕訳と転記：仕訳の意義、勘定への転記</p> <p>第4回 仕訳と元帳：帳簿の種類、仕訳帳への記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記</p> <p>第5回 決算（1）：決算の意義と手続、試算表の作成</p> <p>第6回 決算（2）：帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成</p> <p>第7回 決算（3）：ボードゲームで学ぶ仕訳と転記</p> <p>第8回 決算（4）：ボードゲームで学ぶ決算手続</p> <p>第9回 現金と預金：現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第10回 現金と預金：当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金</p> <p>第11回 繰越商品・仕入・売上：3分法、諸掛と返品</p> <p>第12回 繰越商品・仕入・売上：仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第13回 複式簿記の実践についての講話：公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義：</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。							
成績評価の方法	期末テスト100%							
実務経験について	なし							

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6 回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7 回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9 回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10 回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3 回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4 回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第 5 回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6 回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第 7 回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8 回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9 回 周辺機器1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 10 回 周辺機器2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 11 回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第 12 回 Web3、クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13 回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第 14 回 AIとDX、インターネットの国際比較：AIとDXの基本知識、とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%			
実務経験について	なし			

授業科目	文書作成実習		担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級）：報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集：いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（30%）の総合評価			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師			

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・基本的なデータ処理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相関関係について理解する ・検定について理解する 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：統計学とは</p> <p>第 2 回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3 回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4 回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5 回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6 回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7 回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8 回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9 回 統計解析：カイ 2 乗検定</p> <p>第 10 回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11 回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12 回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13 回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14 回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題（20%）+期末試験（80%）			
実務経験について	なし			

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕	2,3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる・わかりやすいドキュメントを作成する・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Web で公開 (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成 1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成 4：ページ公開 第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成 4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成 5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)			
実務経験について	なし			

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇 淳子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など） 第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト） 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか） 第 14回 データの集計（ピボットテーブル） 第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (80%) + 小テスト (20%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習 (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML：見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML：段落、水平線、地図、動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS：Webページのデザイン設定、鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト：起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト：描画、クリップの速度、音楽、3D効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト：タイトル、鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excelのデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access：テーブル、クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access：テーブル、クエリ、フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader：PDFの作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Reader：PDF編集)</p> <p>第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro：画像やファイルでPDF資料作成、鑑賞会) 第5回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	PCアプリケーション実習 (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF 編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第15回 PDF 編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第5回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	日本経済論		担当者	船津 潤
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて、日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導: 勸告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済: 2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き: プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>			
授業外学習(予習・復習)	普段から日本経済関連のニュース (できれば外国のメディアを含む複数) に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。			
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	財政学		担当者	船津 潤
	(履修年次)	指定なし	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	(学期)	後期	(単位)	2単位
			(必修/選択)	選択
			(授業形態)	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政の基礎的な制度について、内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で、それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは、財政民主主義という財政制度の根幹、経済における公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで、他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また、財政は、政治と経済の「結節点」(つなぎ目の役割を担っています)ので、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し、説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて、経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年) 森田稔著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社			
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等 第3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等 第4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等 第5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等 第6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等 第7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等 第11回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第12回 財政投融资：定義、運用対象、批判、2001年度の改革、今後の展望等 第13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等 第14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等			
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。			
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	農業経済論		担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2)			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識 第 2回 世界の農産物需給と食料事情 第 3回 農産物貿易とアグリビジネス 第 4回 先進国の農業と農業政策 第 5回 途上国経済と農業 第 6回 日本の農産物需給と食料事情 第 7回 日本農業の展開過程① 第 8回 日本農業の展開過程② 第 9回 農業の生産組織と土地 第 10回 農産物流通の仕組み 第 11回 日本の農業・農村の現状と課題 第 12回 農業・農村の多面的機能 第 13回 日本農業の新たな取り組み① 第 14回 日本農業の新たな取り組み② 第 15回 まとめ：これからの日本農業			
授業外学習(予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して小レポートに取り組むこと。			
成績評価の方法	小レポート (60%)、期末レポート (40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	ファイナンス論		担当者	岩上 敏秀
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する			
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金 (1) (生涯でかかるお金を確認しよう) 第 2回 人生とお金 (2) (生涯で受け取るお金を確認しよう) 第 3回 投資のリスクとリターン (投資収益率、分散、標準偏差) 第 4回 主な投資商品 (預金、債券、株式、投資信託、債券と金利) 第 5回 株式投資 (1) (株式会社、上場、証券取引所) 第 6回 株式投資 (2) (会社の価値、株価の適正水準) 第 7回 株式投資 (3) (事例研究①：企業分析、業績予想) 第 8回 株式投資 (4) (事例研究②：企業価値・株価の予想) 第 9回 株式投資 (5) (株価、チャート、株価の変動要因) 第 10回 長期・積立・分散投資 (1) (分散の効果) 第 11回 長期・積立・分散投資 (2) (複利パワー) 第 12回 投資信託 (1) (投資信託の基本) 第 13回 投資信託 (2) (ファンド情報の見方、ファンドの選び方) 第 14回 証券会社の選び方、NISA の活用 第 15回 まとめ、授業アンケート			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。			

授業科目	経済学史	担当者	カムチャイ・ライサミ
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	講義終了時 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーヌ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴ</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴオンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	経済学特講	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	メール等で予約の上適宜対応します。 選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることが重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制</p> <p>第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ</p> <p>第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代</p> <p>第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌</p> <p>第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争</p> <p>第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序</p> <p>第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長</p> <p>第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成</p> <p>第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック</p> <p>第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	国際経済論		担当者	西原 誠司	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	メール・Line で連絡。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love & Peace の経済学—国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの理由を、グローバル化した経済に求め、9.11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西原誠司『グローバルイゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年）</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）西原誠司『グローバルイゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに—アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争—19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機</p> <p>第8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①—ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②—多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③—米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界—モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに—杉原千敏の生き方に学ぶ</p>				
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験				
実務経験について					

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	講義終了時（メールでは即時）	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国经济について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（使用しない。講義の際にレジюме・資料を配付する）。</p> <p>(2) レジюмеに記載する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス—本講義の概要と進め方について</p> <p>第2回 日本の経済発展—戦後の高度経済成長</p> <p>第3回 東アジア諸国の経済発展と課題—韓国と台湾</p> <p>第4回 東アジア諸国の経済発展と課題—香港とシンガポール</p> <p>第5回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—タイ・マレーシア</p> <p>第6回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—フィリピン・インドネシア</p> <p>第7回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</p> <p>第8回 国際的な資本移動とアジア通貨危機—東南アジア・韓国</p> <p>第9回 中国の「改革開放」戦略と経済発展</p> <p>第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大—地域発展戦略の転換と産業集積</p> <p>第11回 中国人民元改革—為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化</p> <p>第12回 中国の貿易・直接投資の拡大—一带一路戦略・米国との通商摩擦</p> <p>第13回 南アジア諸国の経済発展—インド、パキスタン、バングラデシュ</p> <p>第14回 アジア域内の相互依存の深化—市場メカニズムとFTAによる経済統合</p> <p>第15回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				
実務経験について					

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済のグローバル化という視点で、貿易取引における現状と課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、常に変化する貿易の現状と脱炭素等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解をもって意見が言える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システム (GVC) と貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた日本貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点・・・中間まとめ (ディスカッション)</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定 (FTA/EPA) の現状</p> <p>第11回 自由貿易体制の変化と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状・特徴</p> <p>第13回 日本貿易の展望と課題</p> <p>第14回 グローバル・イシュー：経済開発と環境・人権を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてこよう。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー (#018)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		
実務経験について	NGO での勤務経験あり		

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第 3 回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第 4 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 5 回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第 6 回 海域アジア：海を通じた結びつき（1）</p> <p>第 7 回 海域アジア：海を通じた結びつき（2）</p> <p>第 8 回 海域アジア：海を通じた結びつき（3）</p> <p>第 9 回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第 10 回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第 11 回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第 12 回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第 13 回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第 14 回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。			
実務経験について	NGO での勤務経験あり			

授業科目	地域経済論		担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。</p> <p>【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。</p> <p>【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か</p> <p>第 2 回 地域経済の基礎理論</p> <p>第 3 回 地域経済循環と地域構造</p> <p>第 4 回 地域経済の実態</p> <p>第 5 回 地域経済に関する統計</p> <p>第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用</p> <p>第 7 回 大都市と地方都市</p> <p>第 8 回 工業都市</p> <p>第 9 回 農業地域</p> <p>第 10 回 山村地域</p> <p>第 11 回 地場産業地域</p> <p>第 12 回 第三次産業地域</p> <p>第 13 回 地域経済の成長理論</p> <p>第 14 回 グループワーク②：地域経済の事例分析</p> <p>第 15 回 まとめ：地域経済の発展に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。			
成績評価の方法	講義内レポート・発表（50%）、期末レポート（50%）			
実務経験について	なし			

授業科目	地域産業政策	担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3回 地域産業政策と地方創生</p> <p>第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9回 鹿児島県における地域産業政策</p> <p>第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。		
成績評価の方法	講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 指定なし	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択
			〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。ここでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化などの地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト	(1)	なし	
(2)参考文献	(2)	総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明	
	第 2 回	地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等	
	第 3 回	地方自治(2)：グローバル化の影響等	
	第 4 回	地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等	
	第 5 回	地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等	
	第 6 回	地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等	
	第 7 回	地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等	
	第 8 回	地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等	
	第 9 回	国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等	
	第 10 回	国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等	
	第 11 回	地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等	
	第 12 回	地方交付税(2)：機能、問題点等	
	第 13 回	地方債：定義、適債事業、2006 年度からの変化等	
	第 14 回	住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について	
	第 15 回	まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等	
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	非営利組織論	担当者	丸田 真悟
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】概要 非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】 NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。</p> <p>第 2 回 NPO とボランティア NPO を支える理念について考えます。</p> <p>第 3 回 NPO の歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第 4 回 NPO の世界 1 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 5 回 NPO の世界 2 様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 6 回 NPO の機能 NPO が社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 NPO の運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第 8 回 行政、企業と NPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第 9 回 NPO のマネジメント 1 NPO の経営管理について考えます。</p> <p>第 10 回 NPO のマネジメント 2 NPO の経営戦略について考えます。</p> <p>第 11 回 NPO のマネジメント 3 NPO の資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第 12 回 (WS) NPO をつくる 1 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 13 回 (WS) NPO をつくる 2 具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 14 回 NPO の課題と可能性 NPO を取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)		
実務経験について	認定 NPO 法人理事長		

授業科目	労働法	担当者	藤野 博行
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	基本的にいつでも対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方がよい基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業を進めるにあたって</p> <p>第 2 回 労働法ってどんな法律? (労働法の概要)</p> <p>第 3 回 労働法は就職活動にも適用されます! (採用と労働法①)</p> <p>第 4 回 「採用」について (採用と労働法②)</p> <p>第 5 回 会社と従業員の間に発生する権利義務について</p> <p>第 6 回 賃金 (給料) の額や支払い方法にも決まりがある</p> <p>第 7 回 知識確認テスト (前半)</p> <p>第 8 回 労働時間・休憩や休日についても決まりがある</p> <p>第 9 回 残業したり、休日に出勤したらどうなるの?</p> <p>第 10 回 カラダが「ととのう」有給休暇 (年休) の話</p> <p>第 11 回 仕事に体を壊したら? (労災保険制度)</p> <p>第 12 回 仕事を辞める場合 (労働契約の終了)</p> <p>第 13 回 育児・介護と仕事の両立 (産前・産後休業、育児・介護休業法)</p> <p>第 14 回 知識確認テスト (後半)</p> <p>第 15 回 期末レポートに向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。		
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末レポート (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。		
実務経験について			

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1)テキスト	(1) 使用しない。		
(2)参考文献	(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 世界の現状1：キーワードから見る国際社会（1） 第3回 世界の現状2：キーワードから見る国際社会（2） 第4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について 第5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容 第6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障 第7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？ 第8回 社会開発への視点（1）：NGOの活躍（1） 第9回 社会開発への視点（2）：NGOの活躍（2） 第10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1） 第11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2） 第12回 社会開発への視点（5）：国連とSDGs(1) 第13回 社会開発への視点（6）：国連とSDGs(2) 第14回 社会開発への視点（7）：地方自治体とSDGs 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		
実務経験について	NGOでの勤務経験あり		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、いて検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1)テキスト	(1) プリント		
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣		
授業スケジュール	第1回 地方自治の意義 第2回 地方公共団体の種類 第3回 地方公共団体の区域・事務 第4回 住民の権利義務(1) 第5回 住民の権利義務(2) 第6回 条例と規則(1) 第7回 条例と規則(2) 第8回 議会(1) 第9回 議会(2) 第10回 執行機関(1) 第11回 執行機関(2) 第12回 国等の地方公共団体への関与 第13回 長と議会との関係(1) 第14回 長と議会との関係(2) 第15回 予算		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山覚、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』(令和5年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第3版)、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 繰越商品・仕入・売上 : 3分法、諸掛と返品</p> <p>第3回 繰越商品・仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第4回 売掛金と買掛金 : 売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第5回 売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第6回 その他の債権と債務 : 貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第7回 その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金</p> <p>第8回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第9回 貸倒損失と貸倒引当金 : 貸倒れと貸倒損失、貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定</p> <p>資本 : 株式会社の設立と株主期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第10回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品、諸会費</p> <p>第11回 税金 : 租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第12回 伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題 : 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題 : 問題演習と解説</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明 : 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か : 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1) : 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2) : テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3) : メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4) : マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理(1) : 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理(2) : 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理(3) : 人事異動(初任配置・配置転換・昇進など)について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(4) : 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理(5) : 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理(6) : 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か : リーダー(上司)として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論	担当者	近間 由幸
	〔履修年次〕 指定なし 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	適宜対応 (要予約) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に於いて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 永田瞬・戸室健作編『働く人のための人事労務管理』八千代出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨナー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)		
実務経験について	なし		

授業科目	原価計算	担当者	劉 美玲
	〔履修年次〕 1,2,3 年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	適宜対応 (要予約) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】 原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の配賦</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1</p> <p>第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2</p> <p>第 7 回 中間テスト</p> <p>第 8 回 単純総合原価計算</p> <p>第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 12 回 標準原価計算 1</p> <p>第 13 回 標準原価計算 2</p> <p>第 14 回 直接原価計算</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。		
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)		
実務経験について	なし		

*受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記3級を学習済みであることが望ましい

授業科目	経営学特講		担当者	瀬口 毅士		
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、様々な資料を自分なりの視点から読み解き、それを文章化するというプロセスに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代的特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODククション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 現代企業の動向 (1)：各種資料を用いて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 4回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第 5回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代的特徴を考える。</p> <p>第 6回 多国籍企業の経営環境 (3)：現代の経営環境について検討し、それを文章として表現する。</p> <p>第 7回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 8回 多国籍企業の活動 (2)：各種資料を用いて、多国籍企業の経営戦略について考察する。</p> <p>第 9回 市場戦略の現代的特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 10回 市場戦略の現代的特徴 (2)：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係に対する視点を涵養する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) + リアクション・ペーパーなど (30%)					
実務経験について	なし					

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之		
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることがはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する					
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5回 情報リテラシーについて (1)：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6回 情報リテラシーについて (2)：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7回 情報リテラシーについて (3)：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8回 メディアの歴史について (1)：各種メディアについて理解を深める (新聞～テレビ)。</p> <p>第 9回 メディアの歴史について (2)：各種メディアについて理解を深める (テレビ～ネット)。</p> <p>第 10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。					
実務経験について	なし					

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 宇田川荘二『中小企業の財務分析』（第6版）同友館。</p> <p>(2) 随時指定</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明、分析対象企業の選定。</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習(予習・復習)	PC教室での講義となりますので、各自で予習、復習をお願いします。				
成績評価の方法	中間レポート(30%)、期末レポート(70%)				
実務経験について	なし				

1年生でも履修可としますが、会計学総論、簿記論、財務会計論を履修済みの学生を対象とした内容です。それらを履修済みでない場合も、日商簿記検定3級レベルの内容を理解できておれば履修して構いません。なお、エクセルの基礎的な操作を必要とする講義です。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第7回 M&Aと戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&Aについて解説する。</p> <p>第8回 M&Aと戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第9回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 指定なし [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択]	適宜対応 選択 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 6 回 Access の操作：データベースの設計 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 9 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 14 回 Excel による統計処理：平均値の差の検定 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択]	適宜対応 選択 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』 マイナビ出版 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し (1) 第 6 回 VBA の利用：繰り返し (2) 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 (1) 第 9 回 VBA の利用：条件分岐 (2) 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目では「企業会計に関する問題」を取りあげた新聞記事を教材として、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。言い換えれば、「企業会計」への社会的視線を出発点にして、財務諸表の社会的役割や財務諸表の作成原理について解説を進めていきます。※会計学総論、簿記論Ⅰ・Ⅱの学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表に及ぼす影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 永野則雄『ケースでまなぶ財務会計』（第9版）、白桃書房。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第25版）、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクッション：会計をめぐる2つのドラマ</p> <p>第2回 会計の役割と規則：会計の機能と法規制</p> <p>第3回 財務諸表における表示：貸借対照表と損益計算書の関係と取引の認識</p> <p>第4回 財務諸表を読む：やさしい経営分析</p> <p>第5回 会計の計算原理：物語としての会計</p> <p>第6回 棚卸資産の会計：棚卸資産、評価方法、期末評価、処理方法の変更</p> <p>第7回 有形固定資産の会計：有形固定資産、減価償却の意味、算定方法、減損、リース</p> <p>第8回 無形固定資産の会計：無形固定資産、のれん、研究開発費とソフトウェア、繰延資産</p> <p>第9回 金融資産の会計：金融資産、有価証券、デリバティブ</p> <p>第10回 負債の会計：負債、引当金、退職給付債務、資産除去債務</p> <p>第11回 純資産の会計：純資産の部、会社の再編、自己株式、配当</p> <p>第12回 収益・費用・税金：収益と費用の認識、税効果会計</p> <p>第13回 連結財務諸表：連結決算の意義</p> <p>第14回 その他の財務諸表：包括利益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、注記</p> <p>第15回 決算：真実な報告と会計戦略</p>					
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。					
成績評価の方法	期末テスト100%					
実務経験について	なし					

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦・倉重 賢治		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版「よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級 知識科目 公式問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字：2進数</p> <p>第9回 情報セキュリティ1：インターネットの危険性</p> <p>第10回 情報セキュリティ2：暗号</p> <p>第11回 数理モデル1：シミュレーション</p> <p>第12回 数理モデル2：最適化</p> <p>第13回 AIの利活用：AIとは</p> <p>第14回 AIの利活用：機械学習</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	レポート(30%) + 授業中の課題(40%) + 期末試験(30%)					
実務経験について	なし					

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
	[必修/選択]	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第 3回 グループ・ワーク (1)：身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第 4回 標的市場の選択：STP について解説する。</p> <p>第 5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ることで、諸飛車の購買行動について理解を深める。</p> <p>第 6回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第 7回 グループ・ワーク (2)：STP を使ってみよう。</p> <p>第 8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第 10回 流通戦略 (1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第 11回 流通戦略 (2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第 12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。</p> <p>第 13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第 15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)					
実務経験について	なし					

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
	[必修/選択]	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎					
授業スケジュール	<p>第 1回 INTRODクシヨンー流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2回 流通とはなにか</p> <p>第 3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12回 小売・流通における労働問題 (1) 一物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13回 小売・流通における労働問題 (2) 一接客販売業の働き方</p> <p>第 14回 現代流通と消費行動の変化</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、期末レポート (70%)					
実務経験について	なし					

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	各年度で指定する教員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものの考え方から出発して、自分自身の問題関心に基ついて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p> <p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」、</p> <p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>3年生後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p> <p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p> <p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p> <p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [単位] 2～4単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

19 教職に関する科目

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。 【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要 今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。			
授業計画 第1回：進路選択の対象としての教員 第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像 第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち 第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期 第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像 第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員 第7回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修 第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障 第9回：チーム学校への対応① 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解 第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割） 第11回：諸外国の教職員 第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員 第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応 第14回：中学生と教職員の諸関係 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。			
授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。			
授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田 都 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <p>教育心理学的なものの見方・考え方を養い，教員としての基礎的な教養を身につけることを目指す。具体的には，以下のことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の発達，学習の仕組みに関わる理論や関連する要因について理解し説明することができる ・児童生徒の心身の発達や学習の成立について学問的に理解し，教育実践への活用を考えることができる。 ・生徒と適切に関わるために必要となる教育心理学の基本的な知識を獲得するとともに，教育活動について考えることができる。 ・学校現場において，学級ならびに生徒の諸問題に対してとるべき対応について，諸理論を参考に考えることができる。 <p>【テーマ】</p> <p>乳幼児，児童及び生徒の心身の発達，学習過程，個性についての理解のもとに，適切な教育・指導方法について考える。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では，発達心理学，学習心理学，認知心理学，人格心理学等の基本的な理論について概説するとともに，学校教育実践における諸問題について考えていく。具体的には，以下のトピックスを扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の過程や概念を説明する代表的理論 ・乳幼児期，児童期，青年期にかけての発達 ・動機づけ ・学級集団づくりと集団指導 ・問題行動と生徒理解 ・教育評価の方法 			
授業計画			
第1回			
学習の心理(1)：学習の理論 条件づけ 基礎と応用			
第2回			
学習の心理(2)：記憶のメカニズム 短期記憶と長期記憶			

第3回

学習の心理(3)：知識の学習 学習方略

第4回

学習の心理(4)：動機づけの理論

第5回

発達心理(1)：遺伝と環境

第6回

発達心理(2)：乳児期～幼児期

第7回

発達心理(3)：児童期～青年期

第8回

発達心理(4)：自分らしさの発達と青年期の自己同一性

第9回

学級集団の理解(1)：学級風土 教室の中の人間関係

第10回

学級集団の理解(2)：学級づくり 教師のリーダーシップ

第11回

問題行動の理解と関わり：不登校 いじめ 非行

第12回

人格と適応(1)：人格と適応の理論

第13回

人格と適応(2)：人格に関わる心理検査

第14回

教育評価(1)：評価の目的と基準

第15回

教育評価(2)：評価の不確定性

テキスト

鎌原雅彦・竹綱誠一郎(2019). 『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣

参考書・参考資料等

桜井茂男(2017). 『改訂版 たのしく学べる最新教育心理学：教職に関わるすべての人に』

図書文化

学生に対する評価

定期試験（50パーセント）と授業内課題（50パーセント）により総合的に評価する。

(注) 生活科学専攻のみ卒業要件単位に算入できる。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。 ・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。 ・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。 <p>【テーマ】</p> <p>特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度</p> <p>第2回：「通級による指導」及び「自立活動」</p> <p>第3回：指導計画及び教育支援計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解</p> <p>第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解</p> <p>第6回：発達障害，軽度知的障害児への支援</p> <p>第7回：貧困世帯，被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方</p> <p>第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築</p>			
定期試験			
テキスト			
全国特別支援学校長会全国特別支援教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』			

ジアース教育新社, 2020年

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

石橋裕子・林幸範編著『特別支援教育(よくわかる!教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房, 2019年

柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣, 2014年

学生に対する評価

定期試験 (100%)

授業科目名： 教育行政学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。</p> <p>【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公教育の原理及び理念</p> <p>第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ</p> <p>第3回：現代日本の教育制度と教育改革</p> <p>第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割</p> <p>第5回： 同上 ②学級経営のしくみ</p> <p>第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係</p> <p>第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり</p> <p>第8回：学校安全への対応</p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社</p>			
<p>学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【テーマ】 これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修する。この授業は、魅力的な教育課程を編成するために教員にとって必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。</p> <p>【到達目標】 (1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。 (2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。 (3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。 (4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 概要：学校とは何を学ぶためのところか？ 社会における学校教育と教育課程の意義と役割</p> <p>第2回 日本の学校教育と教育課程 概要：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・教員養成の比較を通して検討する。</p> <p>第3回 教育課程の基本原理(1) 概要：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？ カリキュラ</p>			

	ムと教育課程の概念整理
第4回	教育課程の基本原則(2) 概要：教育課程はどのようにして編成され実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境
第5回	教育課程の基本原則(3) 概要：学習指導要領とは何か？ 学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み
第6回	教育課程の基本原則(4) 概要：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)
第7回	教育課程の基本原則(5) 概要：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)
第8回	教育課程の基本原則(6) 概要：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？ 学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)
第9回	教育課程の基本原則(7) 概要：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？ 現行学習指導要領の内容と今後の改革の方向性
第10回	教育課程編成の基本原則(1) 概要：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？ 各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法
第11回	教育課程編成の基本原則(2) 概要：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？ 各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法
第12回	教育課程編成の基本原則(3) 概要：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？ 開かれた教育課程の意義と編成方法
第13回	カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント 概要：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？ カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際
第14回	今後の教育課程の在り方 概要：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例
第15回	授業内テストまたは授業内レポートとまとめ：授業全体の要点整理と理解の確認
テキスト：テキストは特に定めず、授業内で適宜、資料等を配布する	

参考文献 小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）

学生に対する評価

授業内テストまたは授業内レポートの結果と、小レポート、そして授業への貢献度を総合的に評価して判断する。

（授業内テストまたは授業内レポート 60%、小レポート 20%。授業への貢献度 20%）

小レポート：それぞれの項目ごとの授業内容の理解度を評価する。

授業内テストまたは授業内レポート：授業全体を通じた授業内容の理解度を評価する。

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。</p> <p>模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>			
授業の概要 <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回：中学校学習指導要領について</p> <p>第3回：「知識及び技能」に関する事項について</p> <p>第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について</p> <p>第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点</p> <p>第6回：教材研究の方法（2）：事例研究</p> <p>第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観</p> <p>第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点</p> <p>第9回：模擬授業の意義</p> <p>第10回：模擬授業（1）：文学的文章</p> <p>第11回：模擬授業（2）：説明的文章</p> <p>第12回：模擬授業（3）：古典</p> <p>第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践</p> <p>第14回：教育実習について</p> <p>第15回：まとめ</p>			

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。

参考書・参考資料等：授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価： 学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。 国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器、方法を利用した授業を計画・実践できる。			
授業の概要 国語教育の現状、様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク、学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し、新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。			
第1回：ガイダンス：国語科教育の現状 第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法 第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造 第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造 第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末 第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用 第7回：これからの国語科教育の展望と課題 第8回：まとめ			
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。			
参考書・参考資料等 授業中，適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業での課題（50%），期末レポート（50%）			

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
(1) 外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導、および、学習評価の基礎を身につける。			
(2) 教える指導観から児童生徒の心に寄り添う指導観へとシフトさせることができる。			
(3) 各自の英語教師像や英語の授業イメージを形成することができる。			
【テーマ】			
英語の授業イメージと教師像の形成、英語教育の本質を探る			
授業の概要			
この授業では、様々なワークや体験活動を通して、受講者自身の「授業のイメージ」や「教師像」を育てていきます。			
授業の内容としては、前半は、特に学習指導要領の内容の理解に主眼を置いたワークに取り組みながら、「授業に対するイメージ」や「教師像」を形成していきます。後半は、「生徒の資質・能力を高める指導」と「授業づくり」を中心に、授業観察、授業体験、マイクロ・ティーチングを行いながら実践的に学んでいきます。			
授業方法としては、受講者がグループになり、「授業をつくる」というひとつの目的に向かって学んでいきます。他者と学びを共有することで、視点を広げたり、自分のあたりまえに気づいたり、協働的な学びから、英語を学ぶこと／教えることの本質を探ります。このような他の受講生と協力しながら授業作りに取り組む体験を通して、同僚性についても考えていきます。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（学びにおける主体的な実践→リフレクション（省察）→概念化の重要性）、言語教師ポートフォリオの作成（①過去の英語学習経験の省察／②この授業への期待／③教育実習に臨む前の期待と不安／④教師の資質・能力）			
第2回：モデル授業体験、ファシリテーター／プロデューサーとしての教師の役割			
第3回：カリキュラム／シラバスのデザイン（学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画、小中連携）、学習と指導法への第二言語習得理論の応用			
第4回：生徒の資質・能力と高める指導：何が良い学び方・教え方かは、学習者によって異なる（ATIのパラダイムと英語科という教科の特質を考える）			
第5回：授業づくり①（学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成）			
第6回：授業づくり②（教材研究、ICT機器等の活用）			

第7回： マイクロ・ティーチング（聞くこと・話すこと（やりとり・発表）、音声の指導）
第8回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第9回： マイクロ・ティーチング（読むこと・書くこと、文字指導）
第10回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第11回： マイクロ・ティーチング（領域統合型の言語活動の指導）
第12回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第13回： マイクロ・ティーチング（文法・語彙・表現の指導）
第14回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第15回： マイクロ・ティーチング（異文化理解）

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』
『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New
Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』 （東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 学習指導案作成課題（60%）を総合的に評価します。

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <p>(1) 教育実習に備えて、教材研究や学習指導案の作成、授業が行える。</p> <p>(2) 外国語教育と外国語学習の原理を自分自身の教育実践に応用できる。</p> <p>(3) 外国語の学習タスクと教育実践を批判的に分析できる。</p> <p>【テーマ】</p> <p>リフレクティブ・ティーチング (reflective teaching)、個に応じた指導力、授業研究 (lesson study)、協働学習</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、英語教育法Ⅰでの学修を基盤に、抽象的なアイデアを具体的な教育実践に応用することに焦点を当てます。</p> <p>授業内容は、マイクロ・ティーチングの演習を中心に、主に小中学校における英語指導に役立つ実践的な知識と技術を身につけていきます。</p> <p>授業方法は、他の受講者との協働をベースにデザインされています。英語授業の 体験 → 計画 → 実践 → 省察 というプロセスを2回繰り返すことで、経験を通じた納得解を導き出していきます。最終的には、学んだ知識と経験を結びつけ、実際に、もう一度やってみることを通して、学びの深まりを体感することができるでしょう。</p> <p>このように本授業では、協働を通して、実践・省察・概念化を繰り返し、1回目の経験を2回目に活かしていくことで多角的に知識を捉えていきます。その上で、各受講者は、「自分なりの指導の型」を見つけていきます。</p>			
授業計画（内容は英語科教育法Ⅰより継続している）			
第1回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成			
第2回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）1回目			
第3回：授業の振り返りと改善案作成			
第4回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）2回目			
第5回：授業の振り返りと改善案作成			
第6回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）1回目			
第7回：授業の振り返りと改善案作成			
第8回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）2回目			

第9回：授業の振り返りと改善案作成

第10回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）1回目

第11回：授業の振り返りと改善案作成

第12回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）2回目

第13回：授業の振り返りと改善案作成

第14回：日本の英語教育の展望と課題

第15回：言語教師ポートフォリオの作成とまとめ

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』

『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』（東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 言語教師ポートフォリオ（60%）を総合的に評価します。

授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：未定 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p>			
【授業の概要】・中学校家庭科教育について理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：「家庭科教育法」受講にあたって／ 家庭科教育のあゆみと現行学習指導要領について			
第2回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力			
第3回：家庭科教育への理解と今日的課題			
第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴			
第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題			
第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容1			
第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容2			
第8回：家庭科教育の学習指導			
第9回：家庭科教育の学習指導計画			
第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容			
第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価			
第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案			
第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究			
第14回：模擬授業実施に向けた中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成			
第15回：まとめ			
テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版			
参考書・参考資料等			
文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」，「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（80％）と提出物（学習指導案20％）で評価する。			

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：未定 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおり学習指導要領への理解を深める・立案した学習指導案による教材研究の実践と考察をとおり様々な教材研究法授業の実践と相互の授業観察をとおり適の習得をめざす</p> <p>・立案した学習指導案による模擬的な授業設計の考え方を理解する。</p> <p>【テーマ】「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた指導案作成及び模擬授業等の演習をとおり、家庭科教育に携わる教育実践力を確実にし、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等、教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導案の読み合わせと確認</p> <p>第2回：学習指導案による授業展開の実際について 1（板書計画，提供資料，学習形態等）</p> <p>第3回：学習指導案による授業展開の実際について 2（教材研究の方法）</p> <p>第4回：学習指導案による授業展開の実際について 3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法） （鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集と活用）</p> <p>第5回：学習指導案による授業展開の実際について 4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）</p> <p>第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）</p> <p>第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>			
<p>学生に対する評価：筆記試験（50％）と提出物（学習指導案等50％）で評価する。</p>			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容 第3回：中学校における道徳教育の指導計画 第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解 第5回： 同上 ②授業設計における留意事項 第6回： 同上 ③指導案の作成 第7回：模擬授業とピア評価①第1班 第8回：模擬授業とピア評価②第2班			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松崎 康弘
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法・評価等について、小学校や高等学校も交えた実践事例を踏まえて学び、将来の自分の実践を構想する。			
授業の概要 前半（第1日）はテキストの読み込みや事例の提示を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・方法・実践事例について紹介する。後半（第2日）は評価の観点も踏まえて指導計画の作成について学び、将来自分が行う実践を考える。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～ 第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題） 第3回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題） 第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動や思考ツール・ICT活用を事例に～ 第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～ 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例 第7回：今後の総合的な学習の時間に求められるもの～「令和の日本型学校教育」等踏まえ～ 第8回：まとめ・最終試験			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東山書房、2019年）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 予習：テキスト（特に第2章・第3章を中心に）を読んでおくこと。 復習：第1～4回（集中講義初日）の内容を復習し、最終試験に向けて、自分ならどのような実践を行いたいのか構想すること。			
学生に対する評価：最終試験（70%）、小レポート（30%）			

授業科目名： 特別活動指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係 第7回： 同上 ②学活の指導案 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍			
学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育方法学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p> <p>教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p>			
授業の概要 <p>教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回 教育方法の史的構成－1 ヨーロッパ近代と教授論の成立</p> <p>第2回 教育方法の史的構成－2 近代社会の展開と新教育運動の成立</p> <p>第3回 教育方法の史的構成－3 現代教授論の展開－教育の現代化を中心に</p> <p>第4回 教育方法の史的構成－4 日本近代と教授法の導入</p> <p>第5回 教育方法の史的構成－5 教授法の受容と変容</p> <p>第6回 教育方法の史的構成－6 現代日本の教授法とその構成</p> <p>第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理</p> <p>第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在</p> <p>第9回 授業研究とその展開 1（授業研究の歴史）</p> <p>第10回 授業研究とその展開 2（授業研究の理論）</p> <p>第11回 授業研究の課題</p> <p>第12回 教育方法論と教育評価</p> <p>第13回 教育方法論と学校改革</p> <p>第14回 教育方法論の論理と構成</p> <p>第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ</p>			
テキスト： 特に指定しない。			
参考書・参考資料等：講義中に基本文献等の紹介を行う。 <p style="text-align: center;">：集中講義であるため、手校するプリントの内容は必ず復習すること。</p>			
学生に対する評価： <p>講義テーマ終了ごとの確認テスト（計4回）および授業終了後の提出を求めるレポート課題。</p>			

授業科目名： 学校教育におけるICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校教諭）	単位数： 1単位	担当教員名：田口康明 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。			
【到達目標】			
(1) 教員として必要な情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する技能を身につける。			
(2) 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。			
授業の概要			
GIGAスクール構想が実現されつつある中、中学校において生徒1人1台端末の環境において、教員としてICT活用・指導力を身につけることが求められている。そこで、現在の推奨されているICT活用の向上に向けて、教員が持つべきとされるICTの教育利用に関する基本的な考え方と基礎技能を形成することを目標に講義や一部、演習を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 日本の政策について確認			
第2回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（1）コンピュータとは何か、ネットワークとは何か			
第3回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（2）ICTがもたらす学校と社会の変化			
第4回：ICT教育利用の基本技能（1）ICTを利用した学習環境のデザイン			
第5回：ICT教育利用の基本技能（2）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業例の検討			
第6回：ICT教育利用の基本技能（3）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業の作成			
第7回：ICT教育利用の基本技能（4）グループによる模擬授業			
第8回：ICT教育に利用に関する総括的なグループ討議と試験			
テキスト			
「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月・文部科学省）データと紙で配布			
参考書・参考資料等			
授業中に示す			
学生に対する評価			
模擬授業50%、試験50%			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田 都 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。 ・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。 ・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。 <p>【テーマ】</p> <p>学校教育における生徒指導の意義と原理，生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では，生徒指導の意義と目的・方法，生徒が抱える問題等について学習する。現代における生徒の実態や社会環境の変化を踏まえて，学校生活への適応と自己実現を指導・支援するための生徒指導のあり方について考えを深め，多様な視点をもって生徒指導を行うための知識と技能を学んでいく。また実際の実践例や事例などについてディスカッションを行い，具体的に実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考えていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：生徒指導の基本：定義，教育課程における位置づけ</p> <p>第2回：生徒指導の体制</p> <p>第3回：生徒理解(1)：青年期の心理的特徴</p> <p>第4回：生徒理解(2)：教師と生徒の人間関係</p> <p>第5回：生徒理解(3)：教師のリーダーシップ 教師期待効果</p> <p>第6回：自立を促す生徒指導の手法</p> <p>第7回：実践例と事例(1)：不登校 引きこもり</p> <p>第8回：実践例と事例(2)：非行</p> <p>第9回：実践例と事例(3)：いじめ 暴力行為</p> <p>第10回：実践例と事例(4)：虐待 ヤングケアラー</p> <p>第11回：実践例と事例(5)：校則 懲戒 体罰</p> <p>第12回：実践例と事例(6)：インターネット等の今日的課題</p>			

第13回：地域や関係機関との連携

第14回：危機管理

第15回：まとめ

テキスト

文部科学省(2023).『生徒指導提要』東洋館出版社

参考書・参考資料等

片山紀子(2023).『五訂版 入門生徒指導「生徒指導提要(改訂版)」を踏まえて』学事出版

嶋崎政男(2024).『こんなときどうする?生徒指導 少年非行・性非行』学事出版

小西悦子(2024).『こんなときどうする?生徒指導 インターネット・携帯電話・虐待・ヤングケアラー』学事出版

梅澤秀監(2024).『こんなときどうする?生徒指導 校則・懲戒・体罰・指導死』学事出版

出張吉訓(2024).『こんなときどうする?生徒指導 いじめ・暴力行為・自殺』学事出版

木内隆生(2024).『こんなときどうする?生徒指導 不登校・中退・引きこもり』学事出版

学生に対する評価

定期試験(50パーセント)と授業内課題(50パーセント)により総合的に評価する。

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の堆進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 【テーマ】 中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、, 学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。			
授業計画 第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解 第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説 第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史 第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き 第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連 第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連 第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連 第8回<まとめ>			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等： 古橋和夫編『改訂教職入門』 萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田 都 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <p>教育相談の概念，教育相談の基礎となる理論および相談技法を理解し，教育相談を進める上での姿勢や具体的な方法を学んでいく。問題の背景にある生徒の行動や発達課題，人間関係について理解を深め，問題解決に向けた支援方法を理解し実践する基礎的技能を身につけることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校において，教師の立場から生徒に対してどのような相談活動，支援ができるのかを見極め，具体的なかかわり方についての理解を深める。 ・キャリア関連の諸理論・アプローチについて学ぶことを通し，人の生き方や自己実現を遂げる上での問題・課題に対して多様な視点から考え，生徒にアプローチしていく力を身につける。 <p>【テーマ】</p> <p>教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では，教育心理学的知識をベースとした上で学校心理学とカウンセリング理論を学び，教員になるために必要な知識と技能を得ることを目指す。生徒は変化・成長のふり幅が著しく，個人差も大きい発達段階にある。学校において，教師という立場から支援できることを模索し，一人ひとりのニーズに応じた支援をどのように見極めていくのか，自分なりの考えを深めることを目的とする。また，生徒のキャリア相談・支援に関わるための理論，アプローチ，スキルについても学んでいく。理論についての学習のみならず，カウンセリングの技法や実際についての体験を得ることを重視し，ロールプレイやVTR視聴等を通して理解を深めていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育相談とは(1) 教育相談の意義と目的</p> <p>第2回：教育相談とは(2) 学校における一次・二次・三次的援助サービス</p> <p>第3回：生徒の問題の理解(1) 不適応・問題行動の捉え方</p> <p>第4回：生徒の問題の理解(2) 欲求と葛藤 防衛機制</p> <p>第5回：生徒の問題の理解(3) 子ども理解のためのツールと行動観察</p>			

第6回：教育相談の技法(1) ロジャース理論とカウンセリングマインド

第7回：教育相談の技法(2) カウンセリングの技法

第8回：教育相談の技法(3) カウンセリング技法の演習

第9回：教育相談の技法(4) 行動療法 認知行動療法 その他の技法

第10回：教育相談の進め方(1) いじめ 不登校 虐待

第11回：教育相談の進め方(2) 予防開発的教育相談 1

(ソーシャルスキルトレーニング 構成的グループエンカウンター)

第12回：教育相談の進め方(3) 予防開発的教育相談 2

(ピア・サポート ストレスマネジメント教育 その他)

第13回：キャリアに関わる相談の意義と目的

第14回：キャリア・カウンセリングの理論と実践

第15回：キャリアに関わるカウンセリング技法の演習

テキスト

桜井美加・齊藤ユリ・森平直子(2019). 『(改訂版)教育相談ワークブック ー子どもを育む人になるためにー』北樹出版

参考書・参考資料等

向後礼子・山本智子(2019). 『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』ミネルヴァ書房

小野田正利・藤川信夫(監) 大前玲子編『体験型ワークで学ぶ教育相談』(2015). 大阪大学出版会

原田眞理(2015). 『教育相談の理論と方法 中学校・高校編』玉川大学出版部

学生に対する評価

定期試験 (50 パーセント) と授業内課題 (50 パーセント) により総合的に評価する。

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む。）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 5 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習・講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	中西 智美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得する。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p>		
授業スケジュール	<p>*各施設により異なる</p> <p>1 指導教諭等からの説明 ・ 学校経営, 校務分掌の理解, 服务等</p> <p>2 児童及び生徒への個別的相談, 指導の実習 ・ 指導, 相談の場の参観, 補助等</p> <p>3 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・ 学級活動及び給食の時間における指導の参観, 補助 ・ 教科等における教科担任等と連携した指導の参観, 補助 ・ 給食放送指導, 配膳指導, 後片付け指導の参観, 補助 ・ 児童生徒会, 委員会活動, クラブ活動における指導の参観, 補助 ・ 指導計画案, 指導案の立案作成, 教材研究等</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習 ・ 校内における連携・調整(学級担任, 研究授業の企画立案, 校内研修等)の参観, 補助</p> <p>4 ・ 家庭・地域との連携・調整の参観, 補助等</p> <p>5 食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価(60%) + 実習ノート・実習への取組態度(40%)により評価する。		
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。		

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	中西 智美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育的効果を高め実践的指導力の充実を図ることを目的とし、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション(意義, 目的, 心構えなど)</p> <p>第2回 実習の評価の方法, 実習後の提出物(実習ノート, 学習指導案など), 実習中の短大との連絡方法等</p> <p>第3回 指導計画案, 学習指導案の立案作成, 教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1)</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2)</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価, 実習の反省, 問題点の整理, 今後の課題</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	発表・提出物(80%) + 取組態度(20%)により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。		
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。		

※ 7.5回

授業科目	教職実践演習(中)	担当者	田口康明, 飯田都, 竹本寛秋, 石井英里子, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材(模擬授業の映像など)やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回:[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。 第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回:[ロールプレイ(1)] 第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回:[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回:[学校見学](11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察 第11回:[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第12回:[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第14回:[人権学習] 「人権教育」に関する講演会(県人権同和対策課派遣講師) 第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	田口 康明・飯田 都・中西 智美
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和对策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 変化し続ける新しい学校図書館について理解する 【概要】 多くの学校図書館の事例を校種別に学ぶと同時に、学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します 【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2回 学校図書館法等について学ぶ 第 3回 世界・日本の学校図書館の変革 (ルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎) 第 4回 鹿児島県の読書活動 (「母と子の 20 分間読書運動と椋鳩十」) 第 5回 学校経営の中の学校図書館 (校務分掌等) 第 6回 学校経営の中の学校図書館 (学校内外の連携、協力体制づくり) 第 7回 学校図書館の運営①小学校 第 8回 学校図書館の運営②中学校 第 9回 学校図書館の運営③高等学校 第 10回 学校図書館の運営④特別支援学校 第 11回 学校図書館広報活動 (HP 等) 第 12回 読書感想文の取組み 第 13回 読書感想画の取組み 第 14回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ (1) 第 15回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ (2)			
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験 50% 授業ごとに実施するレポート 30% 発表 20%			
実務経験について	県立高等学校 (4校) および短期大学図書館司書 (専門員) として勤務			

授業科目	学校図書館メディアの構成		担当者	岩下 雅子
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	メールによる
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 学校図書館が扱う情報メディア資料について学ぶ s 【概要】 学校図書館メディア構築のために適切な情報・資料の選択・収集・整理・提供・保存について考察する 【到達目標】 学校図書館メディアの組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	第 1回 学校図書館メディアの現状 第 2回 学校図書館メディアとその活用 第 3回 学校図書館メディアの構築 (基準冊数、メディア基準) 第 4回 学校図書館メディアの構築 (選書基準、廃棄基準) 第 5回 日本十進分類法①総記～哲学 第 6回 日本十進分類法②歴史～社会科学 第 7回 日本十進分類法③自然科学～工学 第 8回 日本十進分類法④産業～芸術 第 9回 日本十進分類法⑤言語～文学 第 10回 学校図書館をデザインする①書架、分類、配架 第 11回 学校図書館をデザインする②横断的分類 (選書) 第 12回 学校図書館をデザインする③テーマ展示にみる分類 第 13回 特別支援学校と学校図書館メディア 第 14回 学校図書館とネットワーク①オリエンテーションで役立つ学校図書館メディアの活用 第 15回 学校図書館とネットワーク②授業に役立つ学校図書館メディアの活用			
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験 50% 授業ごとに実施するレポート 30% 発表 20%			
実務経験について	県立高等学校 (4校) および短期大学図書館司書 (専門員) として勤務			

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸 裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪れたり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第 2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第 3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第 4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第 5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第 6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第 7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第 8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第 9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第 10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第 11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第 12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第 13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第 14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第 15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。			
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	情報メディアの活用	担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	適宜対応 (要予約) [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 情報社会の系譜 第 2回 情報検索の手法 第 3回 インターネットの系譜 第 4回 情報社会の進展と学習観の変遷 第 5回 学校情報化の変遷と現状 第 6回 情報社会と著作権1：著作権の理解 第 7回 情報社会と著作権2：著作権の制限 第 8回 情報社会と著作権3：デジタル化の進行と著作権 第 9回 情報セキュリティ 第10回 インターネットと情報検索、情報探索の技法 第11回 情報探索の実践 第12回 ICTを活用した授業 第13回 ネットワーク運用 第14回 演習1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション 第15回 演習2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション</p>		
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。		
成績評価の方法	授業での課題 (60%)、期末試験 (40%)		
実務経験について	なし		